

科目名	食料経済(食品流通経済を含む)		
担当教員名	遠藤 健一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

フードシステムを構成する農業、食品産業、流通業などが食料供給に果たす役割を消費者側から理解することを目標とし、食品業界に携わろうとする人にとって必要な知識の習得と理解を目標とする。食商品学と合わせてフードスペシャリスト試験科目「食品の消費・流通」全体をカバーするが、社会との関わりが大きいことと資格試験の時期を考慮して4年次での履修となっている。(フードスペシャリスト資格取得のための必修科目)

科目の概要

1. 食品消費の実態のつかみ方と分析法を学習、理解する
2. 食品の流通・マーケティングの基礎知識と事例紹介
3. 食品産業全体がかかえる特徴や課題を認識、理解する

学修目標(=到達目標)

授業では、各單元ごとに基本的な事柄を中心に説明をする。

マクロな視点から、食料、食の消費・流通などの学習を通して、「食を考える力」を身に付けることを目標とする。

内容

1	食料経済学で学ぶこと
2	食生活の変化と食品消費
3	食品消費の変化と食糧問題
4	食生活と食材の変化
5	小売業と卸売業
6	食品の流通
7	食材の流通
8	フードマーケティングと食品流通
9	家庭内食と食品小売業
10	外食と外食産業
11	中食と中食産業
12	食品消費と環境問題
13	食品消費と安全
14	基本関連統計とその解説
15	まとめ

評価

筆記試験(70%)、授業への参加度(15%)及び中間点でのレポート(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書に目を通しておくこと(0.5時間)

【事後学修】学修した個所(教科書、配布プリント、黒板にて説明したこと及び自分のメモ)をよく見返して理解を深めること(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本フードスペシャリスト協会編『食品の消費と流通』建帛社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	食品商品学		
担当教員名	遠藤 健一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代の食生活の課題である、健康、安全、経済性を効率よく実現するための「食」を商品の観点から体系的に学習し、食品業界に携わろうとする人にとって必要な知識の習得と理解を目標とする。食料経済と合わせてフードスペシャリスト試験科目「食品の消費・流通」全体をカバーするが、社会との関わりが大きいことと資格試験の時期を考慮して4年次での履修となっている。(フードスペシャリスト資格取得のための必修科目)

科目の概要

1. 食生活における食商品の役割を多方面から理解する
2. 食品のマーケティングの基礎知識の習得と事例紹介
3. 食品の消費実態のつかみ方の学習

学修目標 (= 到達目標)

授業では、各單元ごとに基本的な事柄を中心に説明をする。

食商品学は身近な分野の学問であり、実際のな問題を題材として、考える力を養い、それを社会に還元することのできる能力を身につけることを目標とする

内容	
1	食商品学で学ぶこと
2	食品産業の現状
3	加工食品の普及と今日の問題
4	商品の分類と分析
5	(HMR / MS と) 中食の変化
6	温度帯別食品流通
7	温度帯別商品の種類
8	主要食品の流通
9	食品のマーケティング
10	食品のマーケティング
11	食品のマーケティング (演習)
12	食品の安全・安心と表示
13	事業者と生活者の倫理と責任
14	これからの食品産業
15	まとめ

評価

筆記試験(70%)、授業への参加度(15%)及び中間点でのレポート(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書に目を通しておくこと(0.5時間)

【事後学修】学修した個所(教科書、配布プリント、黒板にて説明したこと及び自分のメモ)をよく見返して理解を深めること(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】梅沢昌太郎、長尾精一著「食商品学」日本食糧新聞社

【推薦書】新版 食品の消費と流通 ? 日本フードスペシャリスト協会 編

【参考図書】

科目名	健康管理概論		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

管理栄養士として健康の保持増進、疾病の予防のための栄養指導能力を養成するために必要な学問である。

科目の概要

健康増進と健康管理についての基礎となる医学、健康関連の知識

学修目標

健康阻害因子、健康管理の現状、健康と運動、健康管理の実際、医学情報システム、生活習慣病と疾病予防などについて学ぶ。

内容

1. 健康と健康の判定 (個人の場合と集団の場合)
2. 健康阻害要因 (食生活、社会環境、生活環境、喫煙、飲酒)
3. 健康の現状 (平均寿命、死亡率と死因、受療率)
4. 健康増進について (健康増進の考え方、健康増進の原則、健康増進関連因子の現状)
5. 健康づくり施策 (第一次国民健康づくり、健康増進法、健康増進施設)
6. 疾病予防 (予防の段階、生活習慣病の予防、感染症対策)
7. 健康管理技術 (健康教育、健康相談、健康診査)
8. 健康診査 (スクリーニングの方法と評価、事後指導)
9. 健康管理の現状と実際 (食事調査、身体測定、臨床検査)
10. 健康と運動 (運動不足症と生活習慣病)
11. 健康と運動 (運動と生活習慣、健康のための運動)
12. 運動と運動処方 (最大酸素摂取量、最高心拍数、運動の時間と頻度)
13. 健康管理の実際 (職場の健康管理、学校の健康管理、産業医)
14. 保健医療情報システム (データと情報、情報の種類、ウェブサイトの利用)
15. まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。

【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	健康管理概論		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

管理栄養士として健康の保持増進、疾病の予防のための栄養指導能力を養成するために必要な学問である。

科目の概要

健康増進と健康管理についての基礎となる医学、健康関連の知識

学修目標

健康阻害因子、健康管理の現状、健康と運動、健康管理の実際、医学情報システム、生活習慣病と疾病予防などについて学ぶ。

内容

1. 健康と健康の判定 (個人の場合と集団の場合)
2. 健康阻害要因 (食生活、社会環境、生活環境、喫煙、飲酒)
3. 健康の現状 (平均寿命、死亡率と死因、受療率)
4. 健康増進について (健康増進の考え方、健康増進の原則、健康増進関連因子の現状)
5. 健康づくり施策 (第一次国民健康づくり、健康増進法、健康増進施設)
6. 疾病予防 (予防の段階、生活習慣病の予防、感染症対策)
7. 健康管理技術 (健康教育、健康相談、健康診査)
8. 健康診査 (スクリーニングの方法と評価、事後指導)
9. 健康管理の現状と実際 (食事調査、身体測定、臨床検査)
10. 健康と運動 (運動不足症と生活習慣病)
11. 健康と運動 (運動と生活習慣、健康のための運動)
12. 運動と運動処方 (最大酸素摂取量、最高心拍数、運動の時間と頻度)
13. 健康管理の実際 (職場の健康管理、学校の健康管理、産業医)
14. 保健医療情報システム (データと情報、情報の種類、ウェブサイトの利用)
15. まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。

【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	健康情報処理実習		
担当教員名	田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養学的データを健康管理、健康増進に結びつけるために、栄養に関するデータ、健康情報をあわせ、統計学的処理を行うことが不可欠になる。しかし、データの扱い方、統計解析を誤ると、誤った結論に至る危険性もある。

本実習では、統計学的基礎知識を習得し、模擬データを利用して基礎的な解析を学ぶことを目的とする。

内容

1	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 1
2	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 2
3	データのまとめかた (色々なグラフの作成)
4	エクセルによるデータ解析 (度数分布・ヒストグラム)
5	変数間の関連を調べる (散布図) 1
6	変数間の関連を調べる (散布図) 2
7	統計的推定 (区間推定)
8	t検定
9	F検定
10	クロス集計
11	重回帰分析
12	時系列
13	SPSSの基礎
14	SPSSの応用
15	まとめ

評価

平常点3割 (30%) 筆記試験7割 (70%)、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を読んでくること。

【事後学修】ノート整理。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】石村貞夫 共著 介護福祉・栄養管理データ編『よくわかる統計学』東京図書

【参考図書】田中茂 共著 公衆衛生学実験・実習 建帛社

科目名	健康情報処理実習		
担当教員名	田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養学的データを健康管理、健康増進に結びつけるために、栄養に関するデータ、健康情報をあわせ、統計学的処理を行うことが不可欠になる。しかし、データの扱い方、統計解析を誤ると、誤った結論に至る危険性もある。

本実習では、統計学的基礎知識を習得し、模擬データを利用して基礎的な解析を学ぶことを目的とする。

内容

1	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 1
2	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 2
3	データのまとめかた (色々なグラフの作成)
4	エクセルによるデータ解析 (度数分布・ヒストグラム)
5	変数間の関連を調べる (散布図) 1
6	変数間の関連を調べる (散布図) 2
7	統計的推定 (区間推定)
8	t検定
9	F検定
10	クロス集計
11	重回帰分析
12	時系列
13	SPSSの基礎
14	SPSSの応用
15	まとめ

評価

平常点3割 (30%) 筆記試験7割 (70%)、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を読んでくること。

【事後学修】ノート整理。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】石村貞夫 共著 介護福祉・栄養管理データ編『よくわかる統計学』東京図書

【参考図書】田中茂 共著 公衆衛生学実験・実習 建帛社

科目名	健康情報処理実習		
担当教員名	田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

栄養学的データを健康管理、健康増進に結びつけるために、栄養に関するデータ、健康情報をあわせ、統計学的処理を行うことが不可欠になる。しかし、データの扱い方、統計解析を誤ると、誤った結論に至る危険性もある。

本実習では、統計学的基礎知識を習得し、模擬データを利用して基礎的な解析を学ぶことを目的とする。

内容

1	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 1
2	エクセルの基本操作 (データの整理、表の作成) 2
3	データのまとめかた (色々なグラフの作成)
4	エクセルによるデータ解析 (度数分布・ヒストグラム)
5	変数間の関連を調べる (散布図) 1
6	変数間の関連を調べる (散布図) 2
7	統計的推定 (区間推定)
8	t検定
9	F検定
10	クロス集計
11	重回帰分析
12	時系列
13	SPSSの基礎
14	SPSSの応用
15	まとめ

評価

平常点3割 (30%) 筆記試験7割 (70%)、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を読んでくること。

【事後学修】ノート整理。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】石村貞夫 共著 介護福祉・栄養管理データ編『よくわかる統計学』東京図書

【参考図書】田中茂 共著 公衆衛生学実験・実習 建帛社

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。介護を行ううえで疾病や遭遇しやすい事故についての知識を持ち、保健医療関係者及び機関との連携、協力のあり方について学び、介護援助に必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、介護の本質について検討する。

学修目標

本科目の学修目標は、(1) わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、(2) 身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、(3) 個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

1	社会福祉の理念と概念について、社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ
2	社会福祉の対象と主体について、現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ
3	社会福祉のニーズ概念について、需要と供給の関係のもとに検討してゆく
4	社会福祉の発展 について、英国と日本の比較をしながら学ぶ
5	社会福祉法体系について、社会福祉法制度の全体的把握を検討する
6	少子高齢化 (1) 少子高齢化の要因について、北欧諸国を中心に考える (ビデオ使用)
7	少子高齢化 (2) 少子高齢化の要因について、日本の現状を考える
8	高齢者福祉 (1) 介護保険制度の概要と要介護者問題の検討
9	高齢者福祉 (2) 介護現場の実際 (ビデオ使用) 虐待・抑制について考える
10	中間まとめ
11	専門職としてのケアワーク (1) 専門職業としてのケアワークを考える
12	専門職としてのケアワーク (2) 他職種としてのケアワークを考える
13	社会福祉援助技術の概要 (1) ソーシャルワーク全般について制度組織との関係で紹介
14	社会福祉援助技術の概要 (2) F・P・バイステックの7原則、自己覚知、交流分析について
15	まとめ

評価

中間試験 (持ち込み自筆ノート・配付資料のみ) 及び定期試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：後藤 卓郎（編）『新選 社会福祉第2版』，（株）みらい 2013年3月発行。

他オリジナル資料配付

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。介護を行ううえで疾病や遭遇しやすい事故についての知識を持ち、保健医療関係者及び機関との連携、協力のあり方について学び、介護援助に必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、介護の本質について検討する。

学修目標

本科目の学修目標は、(1) わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、(2) 身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、(3) 個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

1	社会福祉の理念と概念について、社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ
2	社会福祉の対象と主体について、現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ
3	社会福祉のニーズ概念について、需要と供給の関係のもとに検討してゆく
4	社会福祉の発展 について、英国と日本の比較をしながら学ぶ
5	社会福祉法体系について、社会福祉法制度の全体的把握を検討する
6	少子高齢化 (1) 少子高齢化の要因について、北欧諸国を中心に考える (ビデオ使用)
7	少子高齢化 (2) 少子高齢化の要因について、日本の現状を考える
8	高齢者福祉 (1) 介護保険制度の概要と要介護者問題の検討
9	高齢者福祉 (2) 介護現場の実際 (ビデオ使用) 虐待・抑制について考える
10	中間まとめ
11	専門職としてのケアワーク (1) 専門職業としてのケアワークを考える
12	専門職としてのケアワーク (2) 他職種としてのケアワークを考える
13	社会福祉援助技術の概要 (1) ソーシャルワーク全般について制度組織との関係で紹介
14	社会福祉援助技術の概要 (2) F・P・バイステックの7原則、自己覚知、交流分析について
15	まとめ

評価

中間試験 (持ち込み自筆ノート・配付資料のみ) 及び定期試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：後藤 卓郎（編）『新選 社会福祉第2版』，（株）みらい 2013年3月。

他オリジナル資料配付

科目名	解剖生理学実験		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 第一種衛生管理者		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

正常な人体の構造(つくり)・機能(はたらき)を学修する実習科目であり、“人体の構造と機能及び疾病の成り立ち”を学ぶ科目群に配置されている。健康の保持・増進、傷病者の療養のための栄養管理・教育の主役である管理栄養士にとって、本科目は講義科目の解剖生理学を補完するものであり、同科目とともに人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するための必須基盤科目である。

科目の概要

人体やモデル動物、遺伝子等を対象に実験を行い、講義等で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を検証・補強し、机上では理解し難い事項を体得し、また医学・生物学関連情報の収集・検討を行う。

学修目標(=到達目標)

実験授業をとおして、解剖生理学等の関連講義科目で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を実地に検証・体得する。
 生体試料や精密な機器・器具類の取扱を経験し、卒業後の様々な局面で通用する手を動かすことを厭わない“手で考える態度”を養う。
 なぜだろう、ああそうか、という回路形成を訓練する。

内容	
1	オリエンテーション
2	主要臓器のマクロ・ミクロ形態学的観察
3	身体計測・バイタルサイン(エネルギー代謝量・血圧・呼吸・血液酸素飽和度等) -
4	身体計測・バイタルサイン(エネルギー代謝量・血圧・呼吸・血液酸素飽和度等) -
5	医学・生物学関連情報の収集・検討(NCBI, NMCD等)
6	血液・免疫(糖負荷試験/血色素/凝集抗体価/免疫溶血等) -
7	血液・免疫(糖負荷試験/血色素/凝集抗体価/免疫溶血等) -
8	感覚生理学(皮膚感覚/視覚/反射等)
9	初級電気生理学(筋電図・神経伝導速度等)
10	消化吸収(グルコース誘発性Na ⁺ 電流の測定と糖輸送能の解析等)
11	遺伝子解析(PCRとその応用等) -
12	遺伝子解析(PCRとその応用等) -
13	遺伝子解析(PCRとその応用等) -
14	学修成果プレゼンテーションの準備
15	まとめ

評価

レポート8割（80％） プレゼンテーション2割（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料に沿って、机上実験等を行う。

【事後学修】レポートを作成する中で、反芻・確認を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【資料】オリジナルテキスト・マニュアル

【推薦書】志村二三夫・岡 純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』 羊土社

【参考図書】五十嵐脩・志村二三夫（編著）生化学

科目名	解剖生理学実験		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

正常な人体の構造 (つくり) ・機能 (はたらき) を学修する実習科目であり、 “ 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち ” を学ぶ科目群に配置されている。健康の保持・増進、傷病者の療養のための栄養管理・教育の主役である管理栄養士にとって、本科目は講義科目の解剖生理学を補完するものであり、同科目とともに人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するための必須基盤科目である。

科目の概要

人体やモデル動物、遺伝子等を対象に実験を行い、講義等で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を検証・補強し、机上では理解し難い事項を体得し、また医学・生物学関連情報の収集・検討を行う。

学修目標 (= 到達目標)

実験授業をとおして、解剖生理学等の関連講義科目で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を実地に検証・体得する。
 生体試料や精密な機器・器具類の取扱を経験し、卒業後の様々な局面で通用する手を動かすことを厭わない “ 手で考える態度 ” を養う。
 なぜだろう、ああそうか、という回路形成を訓練する。

内容	
1	オリエンテーション
2	主要臓器のマクロ・ミクロ形態学的観察
3	身体計測・バイタルサイン (エネルギー代謝量・血圧・呼吸・血液酸素飽和度等) -
4	血液・免疫 (糖負荷試験 / 血色素 / 凝集抗体価 / 免疫溶血等) -
5	医学・生物学関連情報の収集・検討 (NCBI , NMCD等)
6	血液・免疫 (糖負荷試験 / 血色素 / 凝集抗体価 / 免疫溶血等) -
7	血液・免疫 (糖負荷試験 / 血色素 / 凝集抗体価 / 免疫溶血等) -
8	感覚生理学 (皮膚感覚 / 視覚 / 反射等)
9	初級電気生理学 (筋電図・神経伝導速度等)
10	消化吸収 (グルコース誘発性Na ⁺ 電流の測定と糖輸送能の解析等)
11	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
12	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
13	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
14	学修成果プレゼンテーションの準備
15	まとめ

評価

レポート8割（80％） プレゼンテーション2割（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料に沿って、机上実験等を行う。

【事後学修】レポートを作成する中で、反芻・確認を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【資料】オリジナルテキスト・マニュアル

【推薦書】志村二三夫・岡 純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』 羊土社

【参考図書】五十嵐脩・志村二三夫（編著）生化学

科目名	解剖生理学実験		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

正常な人体の構造 (つくり) ・機能 (はたらき) を学修する実習科目であり、 “ 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち ” を学ぶ科目群に配置されている。健康の保持・増進、傷病者の療養のための栄養管理・教育の主役である管理栄養士にとって、本科目は講義科目の解剖生理学を補完するものであり、同科目とともに人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するための必須基盤科目である。

科目の概要

人体やモデル動物、遺伝子等を対象に実験を行い、講義等で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を検証・補強し、机上では理解し難い事項を体得し、また医学・生物学関連情報の収集・検討を行う。

学修目標 (= 到達目標)

実験授業をとおして、解剖生理学等の関連講義科目で学んだ人体の構造と機能に関する専門知識を実地に検証・体得する。
 生体試料や精密な機器・器具類の取扱を経験し、卒業後の様々な局面で通用する手を動かすことを厭わない “ 手で考える態度 ” を養う。
 なぜだろう、ああそうか、という回路形成を訓練する。

内容

1	オリエンテーション
2	主要臓器のマクロ・ミクロ形態学的観察
3	身体計測・バイタルサイン (エネルギー代謝量・血圧・呼吸・血液酸素飽和度等) -
4	身体計測・バイタルサイン (エネルギー代謝量・血圧・呼吸・血液酸素飽和度等) -
5	医学・生物学関連情報の収集・検討 (NCBI , NMCD等)
6	血液・免疫 (糖負荷試験 / 血色素 / 凝集抗体価 / 免疫溶血等) -
7	血液・免疫 (糖負荷試験 / 血色素 / 凝集抗体価 / 免疫溶血等) -
8	感覚生理学 (皮膚感覚 / 視覚 / 反射等)
9	初級電気生理学 (筋電図・神経伝導速度等)
10	消化吸収 (グルコース誘発性Na ⁺ 電流の測定と糖輸送能の解析等)
11	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
12	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
13	遺伝子解析 (P C Rとその応用等) -
14	学修成果プレゼンテーションの準備
15	まとめ

評価

レポート8割（80％） プレゼンテーション2割（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料に沿って、机上実験等を行う。

【事後学修】レポートを作成する中で、反芻・確認を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【資料】オリジナルテキスト・マニュアル

【推薦書】志村二三夫・岡 純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』 羊土社

【参考図書】五十嵐脩・志村二三夫（編著）生化学

科目名	運動生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間が運動をおこなうとき、からだの機能はどのような応答を示すのだろうか。またトレーニングをおこなうとからだの形態や機能はどのように変化するのだろうか。さらにこれらのことと栄養との関連はどうなるのだろうか。運動生理学では身体運動によるからだの生理学的な諸機能がどのように変化するのかを学び、健康やスポーツのための運動について考察する。

内容

- 1 . 骨格筋の形状と機能
- 2 . 筋線維組成について
- 3 . 筋収縮のエネルギー供給機構
- 4 . 筋の形態と機能
- 5 . 筋の収縮様式と筋力
- 6 . トレーニングによる筋力と筋の形態変化
- 7 . 筋収縮の速度とパワー
- 8 . 運動と神経系の機能
- 9 . 随意運動と不随意運動
- 1 0 . 運動と感覚
- 1 1 . 運動と呼吸循環系
- 1 2 . 身体組成
- 1 3 . 運動と栄養 1
- 1 4 . 運動と栄養 2
- 1 5 . まとめ

評価

期末試験 (レポートテスト) 5 0 点、各回ごとの小テスト (小レポートテスト) 3 0 点、通常の授業態度 2 0 点、により評価を行い、6 0 点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45 分) 。
- 【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45 分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	人間生物化学実験		
担当教員名	中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、栄養士資格取得ならびに管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる科目で、人間生物化学、臨床栄養学の講義で学ぶ知識を、実験を通して体得する。

科目の概要

生体試料 (血液・尿) を用いて、血清中の総タンパク質、アルブミン、血糖、中性脂肪、総コレステロールなどを定量し、尿試験および尿中の尿素窒素の定量などをおこなう。

学修目標

生体試料 (血液・尿) を用いて代表的な生化学的検査を実践することにより、検査の基本的操作を習得し、結果の評価・解釈の方法について理解を深める。

内容

1	実験講義
2	実験講義
3	実験準備 (試薬調製・機器の使用方法等)
4	採血・血清分離・保存
5	ヘマトクリット値・ヘモグロビンの測定
6	血清総タンパク質の定量
7	血清アルブミンの測定
8	血糖の定量
9	中性脂肪 (トリアシルグリセロール) の定量
10	総コレステロールの定量
11	検尿 (試験紙・定性)
12	尿中尿素窒素の定量
13	栄養素の消化実験
14	発表準備
15	グループ発表

評価

発表50点、レポート30点および平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験前に実験項目を精読し、ノートに実験結果を記入することができるようにまとめておく。

【事後学修】実験終了後、ノートをまとめる。また、レポートを期日までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

科目名	人間生物化学実験		
担当教員名	中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、栄養士資格取得ならびに管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる科目で、人間生物化学、臨床栄養学の講義で学ぶ知識を、実験を通して体得する。

科目の概要

生体試料 (血液・尿) を用いて、血清中の総タンパク質、アルブミン、血糖、中性脂肪、総コレステロールなどを定量し、尿試験および尿中の尿素窒素の定量などをおこなう。

学修目標

生体試料 (血液・尿) を用いて代表的な生化学的検査を実践することにより、検査の基本的操作を習得し、結果の評価・解釈の方法について理解を深める。

内容

1	実験講義
2	実験講義
3	実験準備 (試薬調製・機器の使用方法等)
4	採血・血清分離・保存
5	ヘマトクリット値・ヘモグロビンの測定
6	血清総タンパク質の定量
7	血清アルブミンの測定
8	血糖の定量
9	中性脂肪 (トリアシルグリセロール) の定量
10	総コレステロールの定量
11	検尿 (試験紙・定性)
12	尿中尿素窒素の定量
13	栄養素の消化実験
14	発表準備
15	グループ発表

評価

発表50点、レポート30点および平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験前に実験項目を精読し、ノートに実験結果を記入することができるようにまとめておく。

【事後学修】実験終了後、ノートをまとめる。また、レポートを期日までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

科目名	人間生物化学実験		
担当教員名	中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、栄養士資格取得ならびに管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる科目で、人間生物化学、臨床栄養学の講義で学ぶ知識を、実験を通して体得する。

科目の概要

生体試料 (血液・尿) を用いて、血清中の総タンパク質、アルブミン、血糖、中性脂肪、総コレステロールなどを定量し、尿試験および尿中の尿素窒素の定量などをおこなう。

学修目標

生体試料 (血液・尿) を用いて代表的な生化学的検査を実践することにより、検査の基本的操作を習得し、結果の評価・解釈の方法について理解を深める。

内容	
1	実験講義
2	実験講義
3	実験準備 (試薬調製・機器の使用方法等)
4	採血・血清分離・保存
5	ヘマトクリット値・ヘモグロビンの測定
6	血清総タンパク質の定量
7	血清アルブミンの測定
8	血糖の定量
9	中性脂肪 (トリアシルグリセロール) の定量
10	総コレステロールの定量
11	検尿 (試験紙・定性)
12	尿中尿素窒素の定量
13	栄養素の消化実験
14	発表準備
15	グループ発表

評価

発表50点、レポート30点および平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験前に実験項目を精読し、ノートに実験結果を記入することができるようにまとめておく。

【事後学修】実験終了後、ノートをまとめる。また、レポートを期日までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

科目名	人間生活生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

バイオメカニクスとはヒトのからだの構造や機能に関する知識を学び、運動を司る細工や仕組みをあきらかにする学問である。

科目の概要

本講義では解剖学によってヒトのからだの構造的な特徴を学び、身体運動がどのようにおこなわれているのか考察する。

学修目標

ヒトのからだの解剖を神経系、筋骨格系、呼吸循環系、消化器系に分けて理解し、その機能との関わりを考察する。近年問題となっている骨、筋の代謝異常について知識を深め、予防対策を考察する。

筋の収縮特性について理解し、実際のヒトの動きとの関連を考察する。様々なスポーツにおける基本動作の解析に関する知見を学習し、ヒトの動作解析に関する知識を深める。

内容

- 1.解剖 (神経系)
- 2.解剖 (筋骨格系)
- 3.解剖 (呼吸・循環系)
- 4.解剖 (消化器系等)
- 5.骨代謝
- 6.骨密度と運動
- 7.筋の肥大と萎縮
- 8.リハビリテーション
- 9.筋の弾性
- 10.筋の弾性と弾性エネルギー再利用
- 11.跳躍・着地のバイオメカニクス
- 12.投動作のバイオメカニクス
- 13.打動作のバイオメカニクス
- 14.運動と空気抵抗
- 15.まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。

【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す（45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	人間生活生理学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

バイオメカニクスとはヒトのからだの構造や機能に関する知識を学び、運動を司る細工や仕組みをあきらかにする学問である。

科目の概要

本講義では解剖学によってヒトのからだの構造的な特徴を学び、身体運動がどのようにおこなわれているのか考察する。

学修目標

ヒトのからだの解剖を神経系、筋骨格系、呼吸循環系、消化器系に分けて理解し、その機能との関わりを考察する。近年問題となっている骨、筋の代謝異常について知識を深め、予防対策を考察する。

筋の収縮特性について理解し、実際のヒトの動きとの関連を考察する。様々なスポーツにおける基本動作の解析に関する知見を学習し、ヒトの動作解析に関する知識を深める。

内容

- 1.解剖 (神経系)
- 2.解剖 (筋骨格系)
- 3.解剖 (呼吸・循環系)
- 4.解剖 (消化器系等)
- 5.骨代謝
- 6.骨密度と運動
- 7.筋の肥大と萎縮
- 8.リハビリテーション
- 9.筋の弾性
- 10.筋の弾性と弾性エネルギー再利用
- 11.跳躍・着地のバイオメカニクス
- 12.投動作のバイオメカニクス
- 13.打動作のバイオメカニクス
- 14.運動と空気抵抗
- 15.まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。

【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す（45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	医学概論		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

感染症から生活習慣病にいたるまでの近代医学の歴史を理解した上で、医学の基本となる知識を身につける学問です。

科目の概要

医学の基本概念についてまず学びます。健康保険・医療・福祉・介護などのシステムの近年の変化を理解して、さらに生活習慣病、がん、感染症などの様々な疾病の病態、原因、症状、検査、合併症、治療などについても学びます。

学修目標 (= 到達目標)

栄養士? 管理栄養士としての仕事を行うことができるような基本的な医学知識を身につけることができます。

内容

1	病気・病気の原因 病気のメカニズム
2	検査の基本的考え方
3	生活習慣病
4	内分泌系疾患・代謝疾患
5	循環器系疾患
6	呼吸器系疾患
7	消化器系疾患
8	腎・尿路疾患
9	血液系疾患
10	アレルギー疾患・膠原病
11	感染症
12	精神・神経系疾患
13	生殖系疾患
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】福井次矢・小林修平 編著 『臨床医学概論』第3版 建帛社 2012

科目名	医学概論		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士 / 第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

感染症から生活習慣病にいたるまでの近代医学の歴史を理解した上で、医学の基本となる知識を身につける学問です。

科目の概要

医学の基本概念についてまず学びます。健康保険・医療・福祉・介護などのシステムの近年の変化を理解して、さらに生活習慣病、がん、感染症などの様々な疾病の病態、原因、症状、検査、合併症、治療などについても学びます。

学修目標 (= 到達目標)

栄養士? 管理栄養士としての仕事を行うことができるような基本的な医学知識を身につけることができます。

内容

1	病気・病気の原因 病気のメカニズム
2	検査の基本的考え方
3	生活習慣病
4	内分泌系疾患・代謝疾患
5	循環器系疾患
6	呼吸器系疾患
7	消化器系疾患
8	腎・尿路疾患
9	血液系疾患
10	アレルギー疾患・膠原病
11	感染症
12	精神・神経系疾患
13	生殖系疾患
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】福井次矢・小林修平 編著 『臨床医学概論』第3版 建帛社 2012

科目名	病態生理学		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士/管理栄養士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生理学を基礎とした上で、様々な病気の発生機序やメカニズムについて学習する講座です。

科目の概要

糖尿病・脂質異常症・高血圧などの生活習慣病や、心疾患・呼吸器疾患・消化器疾患などの様々な病気について、その成
因・病態・診断・検査・治療などを学びます。

学修目標(=到達目標)

身体の働きについて生理学的な考え方の向上をはかるとともに、以上のような様々な疾患について理解を深めることがで
きます。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	疾患の治療 臨床検査
3	糖代謝とその異常
4	脂質代謝・蛋白質とその異常
5	栄養障害 摂食障害
6	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患
7	循環障害と循環器疾患
8	脳血管障害と神経疾患
9	腎・尿路疾患
10	内分泌疾患
11	骨代謝と筋・骨格疾患・呼吸器疾患
12	血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患・小児疾患
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009

科目名	病態生理学		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生理学を基礎とした上で、様々な病気の発生機序やメカニズムについて学習する講座です。

科目の概要

糖尿病・脂質異常症・高血圧などの生活習慣病や、心疾患・呼吸器疾患・消化器疾患などの様々な病気について、その成
因・病態・診断・検査・治療などを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

身体の働きについて生理学的な考え方の向上をはかるとともに、以上のような様々な疾患について理解を深めることがで
きます。

内容

1	疾患による細胞、組織の変化 疾患の診断
2	疾患の治療 臨床検査
3	糖代謝とその異常
4	脂質代謝・蛋白質とその異常
5	栄養障害 摂食障害
6	消化管および肝、胆道, 膵臓疾患
7	循環障害と循環器疾患
8	脳血管障害と神経疾患
9	腎・尿路疾患
10	内分泌疾患
11	骨代謝と筋・骨格疾患・呼吸器疾患
12	血液疾患
13	免疫・アレルギー疾患・小児疾患
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 伊藤節子 編 『臨床病態学』 化学同人 2009

科目名	系統別疾病学		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

系統別疾病学では、栄養と関連の深い疾病の病態、成因、診断、治療について講義します。

科目の概要

生活習慣病と、循環器・呼吸器・消化器などの臓器別に様々な疾病とその内容を解説し、疾病を系統別に、より深く学びます。

学修目標 (= 到達目標)

ここで得られた様々な疾患についての知識は、栄養士、管理栄養士になるために基本となる知識ですが、それを身につけることができます。

内容

1	疾患診断の概要 疾患治療の概要
2	疾患による細胞・組織の変化
3	栄養と代謝
4	消化器系疾患
5	循環器系疾患
6	腎・尿路系疾患
7	内分泌系疾患
8	神経・精神系疾患
9	呼吸器系疾患
10	血液系疾患 運動器系疾患
11	感染症
12	免疫・アレルギー
13	悪性腫瘍
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	系統別疾病学		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

系統別疾病学では、栄養と関連の深い疾病の病態、成因、診断、治療について講義します。

科目の概要

生活習慣病と、循環器・呼吸器・消化器などの臓器別に様々な疾病とその内容を解説し、疾病を系統別に、より深く学びます。

学修目標 (= 到達目標)

ここで得られた様々な疾患についての知識は、栄養士、管理栄養士になるために基本となる知識ですが、それを身につけることができます。

内容

1	疾患診断の概要 疾患治療の概要
2	疾患による細胞・組織の変化
3	栄養と代謝
4	消化器系疾患
5	循環器系疾患
6	腎・尿路系疾患
7	内分泌系疾患
8	神経・精神系疾患
9	呼吸器系疾患
10	血液系疾患 運動器系疾患
11	感染症
12	免疫・アレルギー
13	悪性腫瘍
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書などを使っての学習

【事後学修】授業内容を教科書などを参考にしながら復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	病原物質・微生物学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

管理栄養士資格取得に必要な微生物学の基礎知識を学ぶ。

科目の概要

人間生活の中での微生物の役割、微生物の構造と種類、人間と微生物との相互関係について、教科書、扇元敬司著「バイオのための微生物基礎知識」を用いて説明する。さらに病原物質・微生物学に関する要点とまとめをスライドによって解説する。スライドは講義後に学内ネットワーク「フォルダUドライブ」に開示して学習の予習と復習の参考に供する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格所得に必要な微生物学的基礎知識の習得を学習目標とする。

1. 人類と微生物の光と影の関係を理解する。
2. 微生物の構造と種類を覚える。
3. 微生物の機能と微生物の制御について理解する。
4. 人間の錠剤微生物叢について理解する。
5. 微生物学の学習から食品管理について理解を深める。

内容	
1	微生物の起源と歴史
2	微生物の区分、形態、変異
3	微生物の増殖、栄養、代謝
4	原核生物の特徴、分類
5	グラム陽性菌の形態と性状
6	グラム陰性菌の形態と性状
7	環境の細菌と古細菌、中間のまとめ
8	ウイルスの特徴と増殖
9	DNAウイルスの種類と性状
10	RNAウイルスの種類と性状
11	真核微生物の種類と性状
12	消毒と滅菌、微生物制御
13	ヒトと微生物の出会い
14	微生物のヒト生体への侵入と病原性
15	微生物の取り扱い、全体のまとめ

評価

中間筆記テスト（４０点）、期末筆記テスト（４０点）、授業態度（２０点）によって評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークに開示してあるスライドを学習すること。

【事後学修】学内ネットワークに開示してあるスライドを学習し、さらに【教科書のセルフチェック演習問題】を解答すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための微生物基礎知識」講談社（２０１２）

【推薦書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（２００２）

【参考図書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（２００７）

科目名	病原物質・微生物学		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

管理栄養士資格取得に必要な微生物学の基礎知識を学ぶ。

科目の概要

人間生活の中での微生物の役割、微生物の構造と種類、人間と微生物との相互関係について、教科書、扇元敬司著「バイオのための微生物基礎知識」を用いて説明する。さらに病原物質・微生物学に関する要点とまとめをスライドによって解説する。スライドは講義後に学内ネットワーク「フォルダUドライブ」に開示して学習の予習と復習の参考に供する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格所得に必要な微生物学的基礎知識の習得を学習目標とする。

1. 人類と微生物の光と影の関係を理解する。
2. 微生物の構造と種類を覚える。
3. 微生物の機能と微生物の制御について理解する。
4. 人間の錠剤微生物叢について理解する。
5. 微生物学の学習から食品管理について理解を深める。

内容	
1	微生物の起源と研究の歴史
2	微生物の区分と形態、その変異
3	微生物の増殖と栄養、その代謝
4	原核生物の特徴と分類
5	グラム陽性菌の形態と性状
6	グラム陰性菌の形態と性状
7	環境に関与する細菌と古細菌
8	ウイルスの特徴と増殖
9	DNAウイルスの種類と性状
10	RNAウイルスの種類と性状
11	真核微生物の種類と性状
12	消毒と滅菌・微生物の制御
13	ヒトと微生物の出会い
14	微生物のヒト生体への侵入、病原性
15	微生物の取り扱い。まとめ。

評価

中間筆記テスト（４０点）、期末筆記テスト（４０点）、授業態度（２０点）によって評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークに開示してあるスライドを学習すること。

【事後学修】学内ネットワークに開示してあるスライドを学習し、さらに【教科書のセルフチェック演習問題】を解答すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための微生物基礎知識」講談社（２０１２）

【推薦書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（２００２）

【参考図書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講座」講談社（２００７）

科目名	微生物学実験		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

微生物学の基礎的手技の習得する

科目の概要

消毒滅菌法、無菌操作法、細菌培養法などを通じて「微生物感染の予防法」を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格取得に必要な微生物学実験を学ぶことを学修目標とする。

1. 微生物の滅菌と消毒
2. 無菌的環境下における微生物操作
3. 細菌染色法による微生物的識別
4. 顕微鏡観察による細菌の判定
5. 細菌学的用語の理解 ?

内容

1	オリエンテーション：微生物学実験法の解説講義、その実技概説史：DVDおよびPP使用。開示。
2	微生物の制御とバイオセーフティ：殺菌法・消毒法・滅菌法の実技訓練と習得確認
3	微生物の制御とバイオハザード：無菌操作法の実技訓練と習得確認
4	微生物の構造：微生物菌体染色：単染色法・グラム染色法・芽胞染色法の実技訓練と習得確認
5	微生物の増殖：微生物の栄養素と培地培養：培地の種類と培地調整法の習得確認
6	微生物の種類と増殖：発酵食品の微生物：芽胞性グラム陽性桿菌（枯草菌）の画線培養実験
7	微生物の種類と増殖：枯草菌の分離と同定：グラム染色、芽胞染色、油浸顕微鏡観察実験
8	微生物の種類と増殖：乳製品の微生物：通性嫌気性グラム陽性菌類の混積培養実験
9	微生物の種類と生化学性状：連鎖球菌、乳酸桿菌の分離同定と生化学的鑑別実験
10	ヒトと微生物：動物性食品の食中毒菌検索：腸内細菌、ビブリオ、ブドウ球菌の集積培養実験
11	ヒトと微生物：腸内細菌・ビブリオ・ブドウ球菌の鑑別培地による分離同定実験
12	ヒトと微生物：ヒト皮膚常在微生物叢のスタンプ培養実験
13	ヒトと微生物：ヒト皮膚常在菌の分離：グラム陽性球菌（主にブドウ球菌）の分離同定実験
14	環境の微生物：空中落下菌・室内塵埃菌など環境微生物の培養実験
15	環境の微生物：環境微生物の性状検索による同定実験：まとめ。

評価

行われる微生物学実験の「微生物学実験課題問題」および「微生物学実験成果報告書」の提出を毎回求めて評価対象とする。平常点（実験態度・微生物学実験課題・微生物学実験成果報告書など）30点、筆記試験70点により評価を行い、60

点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内LANのスライドによる予習

【事後学修】教科書セルフチェック演習問題の解読

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

【推薦書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」講談社（2007）491.8/0

東京大学医科学研究所学友会 編「微生物学実習提要」丸善（株）（1998）491.7/T

科目名	微生物学実験		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

微生物学の基礎的手技の習得する

科目の概要

消毒滅菌法、無菌操作法、細菌培養法などを通じて「微生物感染の予防法」を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格取得に必要な微生物学実験を学ぶことを学修目標とする。

1. 微生物の滅菌と消毒
2. 無菌的環境下における微生物操作
3. 細菌染色法による微生物的識別
4. 顕微鏡観察による細菌の判定
5. 細菌学的用語の理解

内容

- 1 オリエンテーション：微生物学実験法の解説講義、その実技概説史：DVDおよびPP使用。開示。
- 2 微生物の制御とバイオセーフティ：殺菌法・消毒法・滅菌法の実技調練と習得確認
- 3 微生物の制御とバイオハザード：無菌操作法の実技調練と習得確認
- 4 微生物の構造：微生物菌体染色：単染色法・グラム染色法・芽胞染色法の実技調練と習得確認
- 5 微生物の増殖：微生物の栄養素と培地培養：培地の種類と培地調整法の習得確認
- 6 微生物の種類と増殖：発酵食品の微生物：芽胞性グラム陽性桿菌（枯草菌）の画線培養実験
- 7 微生物の種類と増殖：枯草菌の分離と同定：グラム染色、芽胞染色、油浸顕微鏡観察実験
- 8 微生物の種類と増殖：乳製品の微生物：通性嫌気性グラム陽性菌類の混積培養実験
- 9 微生物の種類と生化学性状：連鎖球菌、乳酸桿菌の分離同定と生化学的鑑別実験
- 10 ヒトと微生物：動物性食品の食中毒菌検索：腸内細菌、ビブリオ、ブドウ球菌の集積培養実験
- 11 ヒトと微生物：腸内細菌・ビブリオ・ブドウ球菌の鑑別培地による分離同定実験
- 12 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在微生物叢のスタンプ培養実験
- 13 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在菌の分離：グラム陽性球菌（主にブドウ球菌）の分離同定実験
- 14 環境の微生物：空中落下菌・室内塵埃菌など環境微生物の培養実験
- 15 環境の微生物：環境微生物の性状検索による同定実験：まとめ。

評価

行われる微生物学実験の「微生物学実験課題問題」および「微生物学実験成果報告書」の提出を毎回求めて評価対象とする。平常点（実験態度・微生物学実験課題・微生物学実験成果報告書など）30点、筆記試験70点により評価を行い、60

点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内LANのスライドによる予習

【事後学修】教科書セルフチェック演習問題の解読

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

【推薦書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」講談社（2007）491.8/0

東京大学医科学研究所学友会 編「微生物学実習提要」丸善（株）（1998）491.7/T

科目名	微生物学実験		
担当教員名	竹嶋 伸之輔		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

微生物学の基礎的手技の習得する

科目の概要

消毒滅菌法、無菌操作法、細菌培養法などを通じて「微生物感染の予防法」を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格取得に必要な微生物学実験を学ぶことを学修目標とする。

1. 微生物の滅菌と消毒
2. 無菌的環境下における微生物操作
3. 細菌染色法による微生物的識別
4. 顕微鏡観察による細菌の判定
5. 細菌学的用語の理解

内容

- 1 オリエンテーション：微生物学実験法の解説講義、その実技概説史：DVDおよびPP使用。開示。
- 2 微生物の制御とバイオセーフティ：殺菌法・消毒法・滅菌法の実技調練と習得確認
- 3 微生物の制御とバイオハザード：無菌操作法の実技調練と習得確認
- 4 微生物の構造：微生物菌体染色：単染色法・グラム染色法・芽胞染色法の実技調練と習得確認
- 5 微生物の増殖：微生物の栄養素と培地培養：培地の種類と培地調整法の習得確認
- 6 微生物の種類と増殖：発酵食品の微生物：芽胞性グラム陽性桿菌（枯草菌）の画線培養実験
- 7 微生物の種類と増殖：枯草菌の分離と同定：グラム染色、芽胞染色、油浸顕微鏡観察実験
- 8 微生物の種類と増殖：乳製品の微生物：通性嫌気性グラム陽性菌類の混積培養実験
- 9 微生物の種類と生化学性状：連鎖球菌、乳酸桿菌の分離同定と生化学的鑑別実験
- 10 ヒトと微生物：動物性食品の食中毒菌検索：腸内細菌、ビブリオ、ブドウ球菌の集積培養実験
- 11 ヒトと微生物：腸内細菌・ビブリオ・ブドウ球菌の鑑別培地による分離同定実験
- 12 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在微生物叢のスタンプ培養実験
- 13 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在菌の分離：グラム陽性球菌（主にブドウ球菌）の分離同定実験
- 14 環境の微生物：空中落下菌・室内塵埃菌など環境微生物の培養実験
- 15 環境の微生物：環境微生物の性状検索による同定実験：まとめ。

評価

行われる微生物学実験の「微生物学実験課題問題」および「微生物学実験成果報告書」の提出を毎回求めて評価対象とする。平常点（実験態度・微生物学実験課題・微生物学実験成果報告書など）30点、筆記試験70点により評価を行い、60

点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内LANのスライドによる予習

【事後学修】教科書セルフチェック演習問題の解読

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

【推薦書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」講談社（2007）491.8/0

東京大学医科学研究所学友会 編「微生物学実習提要」丸善（株）（1998）491.7/T

科目名	微生物学実験		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

微生物学の基礎的手技の習得する

科目の概要

消毒滅菌法、無菌操作法、細菌培養法などを通じて「微生物感染の予防法」を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

管理栄養士資格取得に必要な微生物学実験を学ぶことを学修目標とする。

1. 微生物の滅菌と消毒
2. 無菌的環境下における微生物操作
3. 細菌染色法による微生物的識別
4. 顕微鏡観察による細菌の判定
5. 細菌学的用語の理解

内容

- 1 オリエンテーション：微生物学実験法の解説講義、その実技概説史：DVDおよびPP使用。開示。
- 2 微生物の制御とバイオセーフティ：殺菌法・消毒法・滅菌法の実技調練と習得確認
- 3 微生物の制御とバイオハザード：無菌操作法の実技調練と習得確認
- 4 微生物の構造：微生物菌体染色：単染色法・グラム染色法・芽胞染色法の実技調練と習得確認
- 5 微生物の増殖：微生物の栄養素と培地培養：培地の種類と培地調整法の習得確認
- 6 微生物の種類と増殖：発酵食品の微生物：芽胞性グラム陽性桿菌（枯草菌）の画線培養実験
- 7 微生物の種類と増殖：枯草菌の分離と同定：グラム染色、芽胞染色、油浸顕微鏡観察実験
- 8 微生物の種類と増殖：乳製品の微生物：通性嫌気性グラム陽性菌類の混積培養実験
- 9 微生物の種類と生化学性状：連鎖球菌、乳酸桿菌の分離同定と生化学的鑑別実験
- 10 ヒトと微生物：動物性食品の食中毒菌検索：腸内細菌、ビブリオ、ブドウ球菌の集積培養実験
- 11 ヒトと微生物：腸内細菌・ビブリオ・ブドウ球菌の鑑別培地による分離同定実験
- 12 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在微生物叢のスタンプ培養実験
- 13 ヒトと微生物：ヒト皮膚常在菌の分離：グラム陽性球菌（主にブドウ球菌）の分離同定実験
- 14 環境の微生物：空中落下菌・室内塵埃菌など環境微生物の培養実験
- 15 環境の微生物：環境微生物の性状検索による同定実験：まとめ。

評価

行われる微生物学実験の「微生物学実験課題問題」および「微生物学実験成果報告書」の提出を毎回求めて評価対象とする

。平常点（実験態度・微生物学実験課題・微生物学実験成果報告書など）30点、筆記試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】学内LANのスライドによる予習

【事後学修】教科書セルフチェック演習問題の解読

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

【推薦書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」講談社（2007）491.8/0

東京大学医科学研究所学友会 編「微生物学実習提要」丸善（株）（1998）491.7/T

科目名	食品化学		
担当教員名	梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「食べ物と健康」分野の選択科目であり、「食品学 」および「食品学 」で学修した知識をもとに、食品の化学特性に関する理解を深める重要な科目である。

科目の概要

食品の加工、貯蔵における成分変化や成分間反応について学ぶ。また、食品の色、香り、味の化学や食品物性を学び、食品についての総合的な理解を目指す。

学修目標 (= 到達目標)

1. 食品の加工、貯蔵における成分の変化や成分間の反応を理解する。
2. 食品の色、味、香りの成分について、化学的知識を得る。
3. 食品のもつ様々な物性を理解する。

内容

1	水分活性と食品の貯蔵性
2	タンパク質の変性
3	食品タンパク質の特徴
4	酵素の科学と利用
5	油脂の科学と利用、脂質の酸化
6	糖質の科学と利用
7	調理、加工、保蔵によるビタミンの変化
8	食品の色素成分
9	食品の褐変反応
10	食品の香気成分
11	食品の味成分
12	食品の有毒成分
13	食品の物性(1)コロイドの科学
14	食品の物性(2)レオロジー、テクスチャー
15	まとめ

評価

中間試験30点、期末試験60点授業への取組み態度10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当部分をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。

【事後学修】教科書や授業メモをもとに、学修内容をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳康夫・筒井知己著「標準食品学総論第2版」医歯薬出版

科目名	食品加工学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」、「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」および「食品の表示と規格基準」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、
「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性や食品の安全性に関する知識を基礎に、
食品をより有意義に利用して人間の栄養と健康に寄与するための技術やそれを支える原理を学ぶ。

科目の概要

食品の加工・製造・保存法について知識を得るとともに、それぞれの技術の基礎となる原理を理解する。また、食品の包装、
表示・規格基準についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

講義はスライドと問題演習が中心となるが、ノートを取り確実な知識として身につける。

1. 食品加工の意義・目的、食品保存の原理を理解する。
2. 加工・保存・流過程における食品成分の変化を理解する。
3. 食品の加工・保存方法、加工食品の種類と製造・利用法についての科学的知識を得る。
4. 食品の包装材特性や加工食品の表示、規格基準の概略を理解する。

内容

1	食品加工の意義
2	食品保存の原理と保存法
3	食品加工の原理と方法
4	食品加工に伴う食品・栄養成分の変化
5	食品成分間の反応
6	農産物の加工
7	畜産物の加工
8	水産物の加工
9	食用油脂
10	多糖類の利用
11	調味料、香辛料、甘味料
12	嗜好飲料ほか
13	食品流通と包装
14	加工食品の表示と規格基準
15	まとめ

評価

質疑応答への参加度合を含む授業への取り組み10%、中間試験3回計30%および総合試験60%とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業フォルダにあらかじめ入れられたスライドファイルを参考に、該当する範囲の教科書部分を読んでおく。推薦書を参照すればなおよい。45分程度を目安とする。

【事後学修】スライド解説、教科書の記述および授業内での質疑応答を総合して、自分なりのノートを整理する。45分程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川正、的場輝佳編 『新しい食品加工学』 南江堂

【推薦書】森 友彦、河村幸雄編 『食べ物と健康3』 化学同人

【推薦書】菊池修平編著 『食べ物と健康 新訂食品加工と加工食品』 樹村房

科目名	食品加工学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」、「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」および「食品の表示と規格基準」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、
「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性や食品の安全性に関する知識を基礎に、
食品をより有意義に利用して人間の栄養と健康に寄与するための技術やそれを支える原理を学ぶ。

科目の概要

食品の加工・製造・保存法について知識を得るとともに、それぞれの技術の基礎となる原理を理解する。また、食品の包装、
表示・規格基準についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

講義はスライドと問題演習が中心となるが、ノートを取り確実な知識として身につける。

1. 食品加工の意義・目的、食品保存の原理を理解する。
2. 加工・保存・流過程における食品成分の変化を理解する。
3. 食品の加工・保存方法、加工食品の種類と製造・利用法についての科学的知識を得る。
4. 食品の包装材特性や加工食品の表示、規格基準の概略を理解する。

内容

1	食品加工の意義
2	食品保存の原理と保存法
3	食品加工の原理と方法
4	食品加工に伴う食品・栄養成分の変化
5	食品成分間の反応
6	農産物の加工
7	畜産物の加工
8	水産物の加工
9	食用油脂
10	多糖類の利用
11	調味料、香辛料、甘味料
12	嗜好飲料ほか
13	食品流通と包装
14	加工食品の表示と規格基準
15	まとめ

評価

質疑応答への参加度合を含む授業への取り組み10%、中間試験3回計30%および総合試験60%とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業フォルダにあらかじめ入れられたスライドファイルを参考に、該当する範囲の教科書部分を読んでおく。推薦書を参照すればなおよい。45分程度を目安とする。

【事後学修】スライド解説、教科書の記述および授業内での質疑応答を総合して、自分なりのノートを整理する。45分程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川正、的場輝佳編 『新しい食品加工学』 南江堂

【推薦書】森 友彦、河村幸雄編 『食べ物と健康3』 化学同人

【推薦書】菊池修平編著 『食べ物と健康 新訂食品加工と加工食品』 樹村房

科目名	食品加工学		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」、「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」および「食品の表示と規格基準」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、
「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性や食品の安全性に関する知識を基礎に、食品をより有意義に利用して人間の栄養と健康に寄与するための技術やそれを支える原理を学ぶ。

科目の概要

食品の加工・製造・保存法について知識を得るとともに、それぞれの技術の基礎となる原理を理解する。また、食品の包装、表示・規格基準についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

講義はスライドと問題演習が中心となるが、ノートを取り確実な知識として身につける。

1. 食品加工の意義・目的、食品保存の原理を理解する。
2. 加工・保存・流過程における食品成分の変化を理解する。
3. 食品の加工・保存方法、加工食品の種類と製造・利用法についての科学的知識を得る。
4. 食品の包装材特性や加工食品の表示、規格基準の概略を理解する。

内容

1	食品加工の意義
2	食品保存の原理と保存法
3	食品加工の原理と方法
4	食品加工に伴う食品・栄養成分の変化
5	食品成分間の反応
6	農産物の加工
7	畜産物の加工
8	水産物の加工
9	食用油脂
10	多糖類の利用
11	調味料、香辛料、甘味料
12	嗜好飲料ほか
13	食品流通と包装
14	加工食品の表示と規格基準
15	まとめ

評価

質疑応答への参加度合を含む授業への取り組み10%、中間試験3回計30%および総合試験60%とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業フォルダにあらかじめ入れられたスライドファイルを参考に、該当する範囲の教科書部分を読んでおく。推薦書を参照すればなおよい。45分程度を目安とする。

【事後学修】スライド解説、教科書の記述および授業内での質疑応答を総合して、自分なりのノートを整理する。45分程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小川正、的場輝佳編 『新しい食品加工学』 南江堂

【推薦書】森 友彦、河村幸雄編 『食べ物と健康3』 化学同人

【推薦書】菊池修平編著 『食べ物と健康 新訂食品加工と加工食品』 樹村房

科目名	食品加工学実習		
担当教員名	栗崎 純一、梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」および「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性、食品の安全性について、食材を実際に加工することで知識を確認するとともに、同時に進行する「食品加工学」で学ぶ加工・保存方法を実行して、その意義や原理への理解を深める。

科目の概要

穀類、いも類、豆類、野菜・果実類、きのこ・藻類や乳・肉等の畜産物を加工食材として各種食品の製造実習を行う。また、殺菌、凍結乾燥、包装技術を体験するほか、食品加工に利用される酵素のはたらきを確かめる。実習は5～6人グループで行い、製造した食品はその場で試食かまたは持ち帰る。

学修目標 (= 到達目標)

- テキストに従い、手際よく加工操作を行い、製品を完成させる。各実習項目の内容を理解した上でレポートを提出する。
1. 加工食材・成分の特性と製造原理の関係を理解する。
 2. 加工操作のポイントをとらえる。
 3. 身の回りの加工食品の意義について理解を深める。

内容

加工食材の取扱、工程説明、使用機器解説などの実習講義ののち、以下の項目について実習を行う。

- 穀類の加工 (うどん・パン)
- いも類の加工 (こんにゃく)
- 豆類の加工 (豆腐・油揚げ)
- 野菜・果実類の加工 (いちごジャム缶詰・ビン詰: 殺菌、凍結乾燥)
- 藻類の加工 (寒天等の利用)
- 肉類の加工 (牛肉調理品: レトルトパウチ)
- 卵の加工 (マヨネーズ)
- 乳類の加工 (バター・カッテージチーズ・アイスクリーム・シャーベット)
- 食品で利用する酵素のはたらき

評価

実習への取組姿勢20%、レポート30%および筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布した実習テキストを参照して、当日の実習手順を頭に入れておく。推薦書の該当する項目、加工学の教科書や関連する資料を見ておくことが望ましい。30分程度を目安とする。

【事後学修】実習後速やかにレポートをまとめる。加工食材・成分の特性と製造原理の関係について十分考察する。1時間

程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】実習項目ごとに使用材料、器具と操作を示したテキストを配布する。

【推薦書】仲尾玲子、中川裕子著 『第6版 つくってみよう加工食品』 学文社

科目名	食品加工学実習		
担当教員名	栗崎 純一、梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」および「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性、食品の安全性について、食材を実際に加工することで知識を確認するとともに、同時に進行する「食品加工学」で学ぶ加工・保存方法を実行して、その意義や原理への理解を深める。

科目の概要

穀類、いも類、豆類、野菜・果実類、きのこ・藻類や乳・肉等の畜産物を加工食材として各種食品の製造実習を行う。また、殺菌、凍結乾燥、包装技術を体験するほか、食品加工に利用される酵素のはたらきを確かめる。実習は5～6人グループで行い、製造した食品はその場で試食かまたは持ち帰る。

学修目標 (= 到達目標)

- テキストに従い、手際よく加工操作を行い、製品を完成させる。各実習項目の内容を理解した上でレポートを提出する。
1. 加工食材・成分の特性と製造原理の関係を理解する。
 2. 加工操作のポイントをとらえる。
 3. 身の回りの加工食品の意義について理解を深める。

内容

加工食材の取扱、工程説明、使用機器解説などの実習講義ののち、以下の項目について実習を行う。

- 穀類の加工 (うどん・パン)
- いも類の加工 (こんにゃく)
- 豆類の加工 (豆腐・油揚げ)
- 野菜・果実類の加工 (いちごジャム缶詰・ビン詰: 殺菌、凍結乾燥)
- 藻類の加工 (寒天等の利用)
- 肉類の加工 (牛肉調理品: レトルトパウチ)
- 卵の加工 (マヨネーズ)
- 乳類の加工 (バター・カッテージチーズ・アイスクリーム・シャーベット)
- 食品で利用する酵素のはたらき

評価

実習への取組姿勢20%、レポート30%および筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布した実習テキストを参照して、当日の実習手順を頭に入れておく。推薦書の該当する項目、加工学の教科書や関連する資料を見ておくことが望ましい。30分程度を目安とする。

【事後学修】実習後速やかにレポートをまとめる。加工食材・成分の特性と製造原理の関係について十分考察する。1時間

程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】実習項目ごとに使用材料、器具と操作を示したテキストを配布する。

【推薦書】仲尾玲子、中川裕子著 『第6版 つくってみよう加工食品』 学文社

科目名	食品加工学実習		
担当教員名	栗崎 純一、梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	フードスペシャリスト / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の「食品の分類と食品の成分」および「食品の生産・加工・保存・流通と栄養」に関する科目の一つである。1年次履修「食品学」、「食品学」、「調理学」および「食品衛生学」で学んだ食材・食品成分の基本特性、食品の安全性について、食材を実際に加工することで知識を確認するとともに、同時に進行する「食品加工学」で学ぶ加工・保存方法を実行して、その意義や原理への理解を深める。

科目の概要

穀類、いも類、豆類、野菜・果実類、きのこ・藻類や乳・肉等の畜産物を加工食材として各種食品の製造実習を行う。また、殺菌、凍結乾燥、包装技術を体験するほか、食品加工に利用される酵素のはたらきを確かめる。実習は5～6人グループで行い、製造した食品はその場で試食かまたは持ち帰る。

学修目標 (= 到達目標)

- テキストに従い、手際よく加工操作を行い、製品を完成させる。各実習項目の内容を理解した上でレポートを提出する。
1. 加工食材・成分の特性と製造原理の関係を理解する。
 2. 加工操作のポイントをとらえる。
 3. 身の回りの加工食品の意義について理解を深める。

内容

加工食材の取扱、工程説明、使用機器解説などの実習講義ののち、以下の項目について実習を行う。

- 穀類の加工 (うどん・パン)
- いも類の加工 (こんにゃく)
- 豆類の加工 (豆腐・油揚げ)
- 野菜・果実類の加工 (いちごジャム缶詰・ビン詰: 殺菌、凍結乾燥)
- 藻類の加工 (寒天等の利用)
- 肉類の加工 (牛肉調理品: レトルトパウチ)
- 卵の加工 (マヨネーズ)
- 乳類の加工 (バター・カッテージチーズ・アイスクリーム・シャーベット)
- 食品で利用する酵素のはたらき

評価

実習への取組姿勢20%、レポート30%および筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布した実習テキストを参照して、当日の実習手順を頭に入れておく。推薦書の該当する項目、加工学の教科書や関連する資料を見ておくことが望ましい。30分程度を目安とする。

【事後学修】実習後速やかにレポートをまとめる。加工食材・成分の特性と製造原理の関係について十分考察する。1時間

程度を目安とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】実習項目ごとに使用材料、器具と操作を示したテキストを配布する。

【推薦書】仲尾玲子、中川裕子著 『第6版 つくってみよう加工食品』 学文社

科目名	栄養化学		
担当教員名	山田 和彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「栄養化学」は1年次履修した「人間生物化学」と同じく、管理栄養士養成課程のカリキュラムにおける人体の構造と機能を構成する科目に位置づけられるものである。

「人間生物化学」を基礎として、栄養素代謝の調節作用ならびに生体情報の複製・伝達の詳細な仕組みを中心に講述する。酵素、生体エネルギー、3大栄養素の相互作用、遺伝、情報伝達などについて詳細に学ぶ。

ア．代謝調節の仕組みを理解する。イ．個々の代謝経路の相互関係を理解する。ウ．細胞外情報伝達ならびに細胞内情報伝達を理解する。

内容

- 1). 酵素の性質と作用：酵素の特性・酵素の分類と酵素反応
- 2). 酵素による代謝調節：酵素反応の阻害機構・酵素の代謝調節
- 3). 生体エネルギーの生成と利用：生体エネルギー・高エネルギーリン酸化合物の種類と役割
- 4,5). 生体内の酸化還元反応：高エネルギー化合物の生成・生体エネルギーの利用
- 6,7). 糖質代謝の調節：グリコーゲン生成の調節・糖新生の調節
- 8,9). 脂質代謝の調節：脂肪酸代謝の調節・脂肪酸代謝と糖質代謝の相互作用・コレステロール生成の調節
- 10,11). アミノ酸代謝の調節：アミノ酸代謝と糖質代謝の相互作用・生理活性窒素化合物の構造と機能
- 12). 情報高分子の構造と機能：遺伝子および核酸の構造と機能・ヌクレオチドの代謝
- 13). タンパク質の生成：遺伝情報によるタンパク質生成・遺伝子発現の調節
- 14,15). 個体の調節機能と恒常性：生体における細胞間の情報伝達・神経系による情報伝達・内分泌系による情報伝達・生体内の恒常性の維持・免疫と生体防御

評価

平常点40点、及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでおくこと

【事後学修】授業の内容を振り返り、ノートを整理しながらわからない点がなかったかどうか確認する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】五十嵐脩・志村二三夫編著 『生化学』 光生館 491.4/S

【推薦書】林寛編著 『わかりやすい生化学』 三共出版 491.4/H

科目名	調理学実習（実験を含む）		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門基礎分野：食べ物と健康の実験又は実習"に関する科目の一つであり、学科専門教育科目の選択必修として位置づけられている。管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには必ず履修しなければならない。調理学実習、 で学修した調理スキルを基本とし、「調理学」の講義で学んだ理論を実験、実習を通して確かめることにより調理の応用力を高めることを目的とする。

科目の概要

日常的献立における調理操作をとりあげ、調理操作により生じる食品の組織や物性の変化、栄養成分の変化、おいしさの違いなどについて、自ら実験、実習することにより体得し、管理栄養士として必要な調理技術の理解を深める。

学修目標（=到達目標）

1. 調理学による食品の科学的な変化について実習および実験で確認する。
2. 実習および実験をとおして基礎的な調理技術の習得と向上をめざす。
3. 食品学、栄養学などの基礎科目と関連づけて調理を身につける。

内容	
1	春の日本料理
2	中国料理1：飲茶
3	中国料理2
4	西洋料理1
5	西洋料理2
6	西洋料理3
7	夏の日本料理
8	献立作成および調理実習
9	3種類のだし汁の官能評価
10	砂糖溶液の加熱による変化
11	寒天、カラゲナン、ゼラチンにより調整したゼリーの比較
12	市販増粘剤のテクスチャーと粘度の測定および飲み込み特性
13	鶏卵の鮮度の鑑別、卵液の加熱による凝固、ゆで卵の調整
14	肉の加熱による効果と副材料の影響、粉ふきいものじゃがいもの種類
15	まとめ

評価

ペーパーテスト50点、レポートと自主献立30点、実習態度20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストやプリントで実習内容を予習し、調理手順を理解しておく。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。献立の栄養成分値の計算を行う。実習した料理を家庭で調理してみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習：殿塚婦美子編 三好恵子他共著『大量調理』学建書院、三輪里子監修 飯田文子・藤井恵子編 名倉秀子他共著『あすの健康と調理 食を通して豊かなLife styleを』アイ・ケイコーポレーション、『調理のためのベーシックデータ第4版』女子栄養大学出版部

実験：プリント配布

科目名	調理学実習（実験を含む）		
担当教員名	岡本 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門基礎分野：食べ物と健康の実験又は実習"に関する科目の一つであり、学科専門教育科目の選択必修として位置づけられている。管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには必ず履修しなければならない。調理学実習、で学修した調理スキルを基本とし、「調理学」の講義で学んだ理論を実験、実習を通して確かめることにより調理の応用力を高めることを目的とする。

科目の概要

日常的献立における調理操作をとりあげ、調理操作により生じる食品の組織や物性の変化、栄養成分の変化、おいしさの違いなどについて、自ら実験、実習することにより体得し、管理栄養士として必要な調理技術の理解を深める。

学修目標（=到達目標）

1. 調理学による食品の科学的な変化について実習および実験で確認する。
2. 実習および実験をとおして基礎的な調理技術の習得と向上をめざす。
3. 食品学、栄養学などの基礎科目と関連づけて調理を身につける。

内容	
1	春の日本料理
2	中国料理1：飲茶
3	中国料理2
4	西洋料理1
5	西洋料理2
6	西洋料理3
7	夏の日本料理
8	献立作成および調理実習
9	3種類のだし汁の官能評価
10	砂糖溶液の加熱による変化
11	寒天、カラゲナン、ゼラチンにより調整したゼリーの比較
12	市販増粘剤のテクスチャーと粘度の測定および飲み込み特性
13	鶏卵の鮮度の鑑別、卵液の加熱による凝固、ゆで卵の調整
14	肉の加熱による効果と副材料の影響、粉ふきいものじゃがいもの種類
15	まとめ

評価

ペーパーテスト50点、レポートと自主献立30点、実習態度20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストやプリントで実習内容を予習し、調理手順を理解しておく。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。献立の栄養成分値の計算を行う。実習した料理を家庭で調理してみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習：殿塚婦美子編 三好恵子他共著『大量調理』学建書院、三輪里子監修 飯田文子・藤井恵子編 名倉秀子他共著『あすの健康と調理 食を通して豊かなLife styleを』アイ・ケイコーポレーション、『調理のためのベーシックデータ第4版』女子栄養大学出版部

実験：プリント配布

科目名	調理学実習（実験を含む）		
担当教員名	岡本 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門基礎分野：食べ物と健康の実験又は実習"に関する科目の一つであり、学科専門教育科目の選択必修として位置づけられている。管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには必ず履修しなければならない。調理学実習、で学修した調理スキルを基本とし、「調理学」の講義で学んだ理論を実験、実習を通して確かめることにより調理の応用力を高めることを目的とする。

科目の概要

日常的献立における調理操作をとりあげ、調理操作により生じる食品の組織や物性の変化、栄養成分の変化、おいしさの違いなどについて、自ら実験、実習することにより体得し、管理栄養士として必要な調理技術の理解を深める。

学修目標（=到達目標）

1. 調理学による食品の科学的な変化について実習および実験で確認する。
2. 実習および実験をとおして基礎的な調理技術の習得と向上をめざす。
3. 食品学、栄養学などの基礎科目と関連づけて調理を身につける。

内容	
1	春の日本料理
2	中国料理1：飲茶
3	中国料理2
4	西洋料理1
5	西洋料理2
6	西洋料理3
7	夏の日本料理
8	献立作成および調理実習
9	3種類のだし汁の官能評価
10	砂糖溶液の加熱による変化
11	寒天、カラゲナン、ゼラチンにより調整したゼリーの比較
12	市販増粘剤のテクスチャーと粘度の測定および飲み込み特性
13	鶏卵の鮮度の鑑別、卵液の加熱による凝固、ゆで卵の調整
14	肉の加熱による効果と副材料の影響、粉ふきいものじゃがいもの種類
15	まとめ

評価

ペーパーテスト50点、レポートと自主献立30点、実習態度20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストやプリントで実習内容を予習し、調理手順を理解しておく。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。献立の栄養成分値の計算を行う。実習した料理を家庭で調理してみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習：殿塚婦美子編 三好恵子他共著『大量調理』学建書院、三輪里子監修 飯田文子・藤井恵子編 名倉秀子他共著『あすの健康と調理 食を通して豊かなLife styleを』アイ・ケイコーポレーション、『調理のためのベーシックデータ第4版』女子栄養大学出版部

実験：プリント配布

科目名	調理学実習		
担当教員名	柘植 光代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門基礎分野：食べ物と健康の実験又は実習”に関する科目の一つであり、専門教育科目(A)の選択として位置付けられています。調理学実習 ～ で学修した調理学のスキルは、調理操作の一部であり、限られた料理の品数でした。本科目は調理技術をさらに高めたい、多種、多様な料理に興味がある、さらに学びたいと意欲のある学生に向けて開講されます。

科目の概要

日本料理、西洋料理、中国料理、諸外国の料理を幅広く学修します。特に季節の献立や供応食、行事食を実習し、調理操作、盛り付け、献立構成、食文化について学びます。

学修目標

1. 日常的な調理操作から発展的な調理操作までを理解して、実践する。
2. 季節の献立、供応食、行事食、諸外国の料理を理解し、献立構成や背景にある食文化を理解する。
3. 課題に沿った自主献立を作成して、適切な調理と盛り付けを行う。

内容

1	日本料理；三色おはぎ、みぞれ和えなど
2	沖縄料理；タコライス、ゴーヤチャンプルー、クープイリチー、サターアングギーなど
3	西洋料理；カプリ風サラダ、リゾット、ミラノ風カツレツ、パンナコッタ
4	日本料理；秋の会席献立（向付、吸物、鉢肴、煮物、小鉢）
5	エスニック料理；生春巻き、タンドールチキン、タピオカ入りココナツミルクなど
6	西洋料理；ブイヤベース、チーズヴルストのオープン焼き、ミモザサラダ、レモンパイ
7	日本料理；鶏飯、三平汁、変わり揚げ、真砂和え
8	西洋料理；キッシュロレーヌ、ビーフシチュー、シーザーサラダ、マーブルゼリー
9	自主献立；松花堂弁当
10	中国料理；おもてなし料理（前菜、炸菜、溜菜、湯菜、点心など）
11	クリスマス料理；クリスマススープ、ハーブチキン、ヨーグルトサラダ、ブッシュ・ド・ノエル
12	正月料理；雑煮、岩石卵、日の出老、松風羽子板、梅花羹、昆布巻き、矢羽根れんこんなど
13	韓国料理；ビビムパック、ミヨク、チャプチェ、チヂミ
14	日本料理；初春の会席献立（向付、吸物、口取、鉢肴、煮物、小井、汁代わり、菓子）
15	自主献立；ビュッフェ献立

評価

授業への取り組み50%、実習ノート30%、自主献立20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習スケジュールに沿って、教科書や配布プリントを読んで実習内容を把握する。これまで実習した基礎的調理操作については必ず復習しておく。約1時間。

【事後学修】実習ノートに記録をつけて、理解を深める。さらに家庭でも調理を行って復習し、実習内容の習得と技術向上を目指す。2時間以上。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布します。

【教科書】三輪里子監修 市川芳江・山本誠子編著 名倉秀子他共著

『あすの健康と調理 給食調理へのアプローチ』 アイ・ケイコーポレーション

【推薦書】西堀すき江編著 柘植光代他共著

『食育に役立つ調理学実習』 建帛社

科目名	食品衛生学実験		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：食品衛生学の講義の中で履修した内容について、実験を通じて体験することにより、その理解をさらに深める。さらに正しい実験器具、試薬の取り扱いについて学ぶ。

科目の概要：食品の微生物汚染の指標である、生菌数の測定や大腸菌群の定性試験など微生物学的試験・検査を行う。また、食用色素など食品添加物の定性・定量試験、ポリメラーゼ連鎖反応を活用した、食品の健全性評価などを行う。

学習目標：

1. 基本的実験装置、器具、試薬の取り扱いについて習得する。
2. 種々の試験項目の意義、原理についてよく理解する。
3. 得られたデータの的確なとりまとめ、解析法について理解する。
4. 食品の安全性、健全性を評価する手法についての理解を深める。

内容

1	実験講義
2	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 ((食品からの抽出))
3	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 (比色定量)
4	合成着色料の定性試験 (食品からの抽出、濃縮)
5	合成着色料の定性試験 (薄層クロマトグラフィー)
6	飲料水の化学試験 (物理的性状、アンモニア態・亜硝酸態窒素、過マンガン酸カリウム消費量)
7	食品の残留試験 (デンプン、脂質、タンパク質、合成洗剤)
8	手指の消毒方法の実技と習得、無菌操作の習得
9	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (培地と器具の準備・滅菌)
10	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (試料の希釈と採取、培養)
11	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (観察、滅菌と洗浄)
12	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (食品からのDNAの抽出)
13	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (ポリメラーゼ連鎖反応)
14	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (電気泳動、観察)
15	まとめ

評価

全てのレポートの提出が評価を受けるために必要である。期末試験40%、実験レポート60%により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験日に該当する実験書の範囲を読み、実験手順をメモしておくこと。わからないところは推薦書等で調べ、実験内容をよく理解しておくこと。

【事後学修】実験項目ごとに、レポートを作成提出する。実験の原理・意義など食品衛生のテキスト等を参考によく調べ記載すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを使用する。

【推薦書】厚生労働省監修 『食品衛生検査指針 食品添加物編』、『食品衛生検査指針 理化学編』、『食品衛生検査指針 微生物編』（社）日本食品衛生協会

科目名	食品衛生学実験		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：食品衛生学の講義の中で履修した内容について、実験を通じて体験することにより、その理解をさらに深める。さらに正しい実験器具、試薬の取り扱いについて学ぶ。

科目の概要：食品の微生物汚染の指標である、生菌数の測定や大腸菌群の定性試験など微生物学的試験・検査を行う。また、食用色素など食品添加物の定性・定量試験、ポリメラーゼ連鎖反応を活用した、食品の健全性評価などを行う。

学習目標：

1. 基本的実験装置、器具、試薬の取り扱いについて習得する。
2. 種々の試験項目の意義、原理についてよく理解する。
3. 得られたデータの的確なとりまとめ、解析法について理解する。
4. 食品の安全性、健全性を評価する手法についての理解を深める。

内容

1	実験講義
2	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 ((食品からの抽出)
3	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 (比色定量)
4	合成着色料の定性試験 (食品からの抽出、濃縮)
5	合成着色料の定性試験 (薄層クロマトグラフィー)
6	飲料水の化学試験 (物理的性状、アンモニア態・亜硝酸態窒素、過マンガン酸カリウム消費量)
7	食品の残留試験 (デンプン、脂質、タンパク質、合成洗剤)
8	手指の消毒方法の実技と習得、無菌操作の習得
9	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (培地と器具の準備・滅菌)
10	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (試料の希釈と採取、培養)
11	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (観察、滅菌と洗浄)
12	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (食品からのDNAの抽出)
13	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (ポリメラーゼ連鎖反応)
14	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (電気泳動、観察)
15	まとめ

評価

全てのレポートの提出が評価を受けるために必要である。期末試験40%、実験レポート60%により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験日に該当する実験書の範囲を読み、実験手順をメモしておくこと。わからないところは推薦書等で調べ、実験内容をよく理解しておくこと。

【事後学修】実験項目ごとに、レポートを作成提出する。実験の原理・意義など食品衛生のテキスト等を参考によく調べ記載すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを使用する。

【推薦書】厚生労働省監修 『食品衛生検査指針 食品添加物編』、『食品衛生検査指針 理化学編』、『食品衛生検査指針 微生物編』（社）日本食品衛生協会

科目名	食品衛生学実験		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：食品衛生学の講義の中で履修した内容について、実験を通じて体験することにより、その理解をさらに深める。さらに正しい実験器具、試薬の取り扱いについて学ぶ。

科目の概要：食品の微生物汚染の指標である、生菌数の測定や大腸菌群の定性試験など微生物学的試験・検査を行う。また、食用色素など食品添加物の定性・定量試験、ポリメラーゼ連鎖反応を活用した、食品の健全性評価などを行う。

学習目標：

1. 基本的実験装置、器具、試薬の取り扱いについて習得する。
2. 種々の試験項目の意義、原理についてよく理解する。
3. 得られたデータの的確なとりまとめ、解析法について理解する。
4. 食品の安全性、健全性を評価する手法についての理解を深める。

内容

1	実験講義
2	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 ((食品からの抽出)
3	畜産・水産製品中の亜硝酸の定量 (比色定量)
4	合成着色料の定性試験 (食品からの抽出、濃縮)
5	合成着色料の定性試験 (薄層クロマトグラフィー)
6	飲料水の化学試験 (物理的性状、アンモニア態・亜硝酸態窒素、過マンガン酸カリウム消費量)
7	食品の残留試験 (デンプン、脂質、タンパク質、合成洗剤)
8	手指の消毒方法の実技と習得、無菌操作の習得
9	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (培地と器具の準備・滅菌)
10	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (試料の希釈と採取、培養)
11	微生物学試験 : 生菌数の測定、大腸菌群の定性試験 (観察、滅菌と洗浄)
12	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (食品からのDNAの抽出)
13	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (ポリメラーゼ連鎖反応)
14	ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) を活用した、食品の健全性評価 (電気泳動、観察)
15	まとめ

評価

全てのレポートの提出が評価を受けるために必要である。期末試験40%、実験レポート60%により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実験日に該当する実験書の範囲を読み、実験手順をメモしておくこと。わからないところは推薦書等で調べ、実験内容をよく理解しておくこと。

【事後学修】実験項目ごとに、レポートを作成提出する。実験の原理・意義など食品衛生のテキスト等を参考によく調べ記載すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを使用する。

【推薦書】厚生労働省監修 『食品衛生検査指針 食品添加物編』、『食品衛生検査指針 理化学編』、『食品衛生検査指針 微生物編』（社）日本食品衛生協会

科目名	応用栄養学		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、管理栄養士の実践活動の基本となるものです。応用栄養学は応用栄養学（前期）と応用栄養学（後期）に分かれています。1年間を通して各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を理解していきます。

応用栄養学 では、まず栄養ケア・マネジメントの概念について学び、食事摂取基準の基礎的理解を深めます。さらに、成長、発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分理解することにより、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的な考え方を修得していきます。また、ライフステージの最初の段階として、妊娠期と授乳期の母性栄養を学修します。

応用栄養学 の学修目標は、 栄養状態や心身機能に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方について理解することができる、 日本人の食事摂取基準[2015年版]の策定の考え方や科学的根拠について理解することができる、 成長、発達、加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養の基礎を理解することができる、 妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 の4点です。

内容

1	栄養ケア・マネジメント (1) 栄養ケア・マネジメントの定義およびその過程
2	栄養ケア・マネジメント (2) 栄養アセスメント
3	栄養ケア・マネジメント (3) 栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック
4	食事摂取基準の基礎的理解 (1) 食事摂取基準の意義および策定の基礎理論
5	食事摂取基準の基礎的理解 (2) 食事摂取基準活用の基礎理論
6	食事摂取基準の基礎的理解 (3) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 エネルギー
7	食事摂取基準の基礎的理解 (4) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 たんぱく質
8	食事摂取基準の基礎的理解 (5) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 脂質
9	食事摂取基準の基礎的理解 (6) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 ビタミン・ミネラル
10	成長・発達・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養
11	妊娠期・授乳期 (1) 妊娠期・授乳期の生理的特徴
12	妊娠期・授乳期 (2) 妊婦・授乳婦の食事摂取基準
13	妊娠期・授乳期 (3) 妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア
14	妊娠期・授乳期 (4) 妊娠期・授乳期の栄養と病態・疾患
15	まとめ

評価

各回に実施する確認テスト30点、通常の授業態度10点および筆記試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、授業開始時に前週に学んだ内容の確認テストを実施します。確認テストの内容は、事前に伝えますので

、その内容についてしっかり学修を行ってきてください。

【事後学修】確認テストの内容は、その授業の中で必ず理解しておいて欲しい内容です。毎回のテスト内容の中で、特にできなかった箇所について学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】市丸雄平・岡純編著、小林三智子他著 『三訂 マスター 応用栄養学』 建帛社

【テキスト】厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版

【参考書】木戸康博・真鍋祐之、小林三智子著 『応用栄養学 ライフステージ別・環境別』 医歯薬出版

【参考書】五明紀春・渡邊早苗他編、小林三智子他著 『スタンダード人間栄養学 応用栄養学』 朝倉書店

科目名	応用栄養学		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、管理栄養士の実践活動の基本となるものです。応用栄養学は応用栄養学（前期）と応用栄養学（後期）に分かれています。1年間を通して各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を理解していきます。

応用栄養学 では、まず栄養ケア・マネジメントの概念について学び、食事摂取基準の基礎的理解を深めます。さらに、成長、発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分理解することにより、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的な考え方を修得していきます。また、ライフステージの最初の段階として、妊娠期と授乳期の母性栄養を学修します。

応用栄養学 の学修目標は、 栄養状態や心身機能に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方について理解することができる、 日本人の食事摂取基準[2015年版]の策定の考え方や科学的根拠について理解することができる、 成長、発達、加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養の基礎を理解することができる、 妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 の4点です。

内容

1	栄養ケア・マネジメント (1) 栄養ケア・マネジメントの定義およびその過程
2	栄養ケア・マネジメント (2) 栄養アセスメント
3	栄養ケア・マネジメント (3) 栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック
4	食事摂取基準の基礎的理解 (1) 食事摂取基準の意義および策定の基礎理論
5	食事摂取基準の基礎的理解 (2) 食事摂取基準活用の基礎理論
6	食事摂取基準の基礎的理解 (3) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 エネルギー
7	食事摂取基準の基礎的理解 (4) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 たんぱく質
8	食事摂取基準の基礎的理解 (5) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 脂質
9	食事摂取基準の基礎的理解 (6) エネルギー・栄養素別食事摂取基準 ビタミン・ミネラル
10	成長・発達・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養
11	妊娠期・授乳期 (1) 妊娠期・授乳期の生理的特徴
12	妊娠期・授乳期 (2) 妊婦・授乳婦の食事摂取基準
13	妊娠期・授乳期 (3) 妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア
14	妊娠期・授乳期 (4) 妊娠期・授乳期の栄養と病態・疾患
15	まとめ

評価

各回に実施する確認テスト30点、通常の授業態度10点および筆記試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、授業開始時に前週に学んだ内容の確認テストを実施します。確認テストの内容は、事前に伝えますので

、その内容についてしっかり学修を行ってきてください。

【事後学修】確認テストの内容は、その授業の中で必ず理解しておいて欲しい内容です。毎回のテスト内容の中で、特にできなかった箇所について学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】市丸雄平・岡純編著、小林三智子他著 『三訂 マスター 応用栄養学』 建帛社

【テキスト】厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版

【参考書】木戸康博・真鍋祐之、小林三智子著 『応用栄養学 ライフステージ別・環境別』 医歯薬出版

【参考書】五明紀春・渡邊早苗他編、小林三智子他著 『スタンダード人間栄養学 応用栄養学』 朝倉書店

科目名	応用栄養学		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、管理栄養士の実践活動の基本となるものです。応用栄養学は応用栄養学（前期）と応用栄養学（後期）に分かれています。1年間を通して各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を理解していきます。

応用栄養学 では、応用栄養学 で学んだことを踏まえ、各ライフステージの栄養管理のうち、新生児期・乳児期、成長期（幼児期、学童期、思春期）、成人期および高齢期の特徴と栄養アセスメントを学修します。

応用栄養学 の学修目標は、新生児期・乳児期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、成長期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、成人期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、高齢期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、の4点です。

内容

1	新生児期・乳児期（1）新生児期・乳児期の生理的特徴
2	新生児期・乳児期（2）乳児の食事摂取基準
3	新生児期・乳児期（3）乳児期の栄養補給法、授乳・離乳の支援ガイド
4	新生児期・乳児期（4）新生児期・乳児期の栄養と病態・疾患
5	成長期（1）幼児期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
6	成長期（2）学童期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
7	成長期（3）思春期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
8	成人期（1）成人期の生理的特徴
9	成人期（2）成人の食事摂取基準、肥満とメタボリックシンドローム
10	成人期（3）成人期の栄養アセスメントと栄養ケア
11	高齢期（1）高齢期の生理的特徴
12	高齢期（2）高齢者の食事摂取基準
13	高齢期（3）高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア
14	高齢期（4）咀嚼・嚥下障害への対応、介護予防・合併症予防のための栄養ケア
15	まとめ

評価

各回に実施する確認テスト30点、通常の授業態度10点および筆記試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、授業開始時に前週に学んだ内容の確認テストを実施します。確認テストの内容は事前に伝えますので、その内容についてしっかり学修を行ってきてください。

【事後学修】確認テストの内容は、その授業内で必ず理解しておいて欲しい内容です。毎回のテストの中で、間違った箇所

について重点的に学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】市丸雄平・岡純編著、小林三智子他著 『三訂 マスター 応用栄養学』 建帛社

【テキスト】厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版

【参考書】木戸康博・真鍋祐之、小林三智子著 『応用栄養学 ライフステージ別・環境別』 医歯薬出版

【参考書】五明紀春・渡邊早苗他編、小林三智子他著 『スタンダード人間栄養学 応用栄養学』 朝倉書店

科目名	応用栄養学		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、管理栄養士の実践活動の基本となるものです。応用栄養学は応用栄養学（前期）と応用栄養学（後期）に分かれています。1年間を通して各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を理解していきます。

応用栄養学 では、応用栄養学 で学んだことを踏まえ、各ライフステージの栄養管理のうち、新生児期・乳児期、成長期（幼児期、学童期、思春期）、成人期および高齢期の特徴と栄養アセスメントを学修します。

応用栄養学 の学修目標は、新生児期・乳児期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、成長期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、成人期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、高齢期の生理的特徴と栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、の4点です。

内容

1	新生児期・乳児期（1）新生児期・乳児期の生理的特徴
2	新生児期・乳児期（2）乳児の食事摂取基準
3	新生児期・乳児期（3）乳児期の栄養補給法、授乳・離乳の支援ガイド
4	新生児期・乳児期（4）新生児期・乳児期の栄養と病態・疾患
5	成長期（1）幼児期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
6	成長期（2）学童期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
7	成長期（3）思春期の生理的特徴および栄養アセスメントと栄養ケア
8	成人期（1）成人期の生理的特徴
9	成人期（2）成人の食事摂取基準、肥満とメタボリックシンドローム
10	成人期（3）成人期の栄養アセスメントと栄養ケア
11	高齢期（1）高齢期の生理的特徴
12	高齢期（2）高齢者の食事摂取基準
13	高齢期（3）高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア
14	高齢期（4）咀嚼・嚥下障害への対応、介護予防・合併症予防のための栄養ケア
15	まとめ

評価

各回に実施する確認テスト30点、通常の授業態度10点および筆記試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、授業開始時に前週に学んだ内容の確認テストを実施します。確認テストの内容は事前に伝えますので、その内容についてしっかり学修を行ってきてください。

【事後学修】確認テストの内容は、その授業内で必ず理解しておいて欲しい内容です。毎回のテストの中で、間違った箇所

について重点的に学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】市丸雄平・岡純編著、小林三智子他著 『三訂 マスター 応用栄養学』 建帛社

【テキスト】厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版

【参考書】木戸康博・真鍋祐之、小林三智子著 『応用栄養学 ライフステージ別・環境別』 医歯薬出版

【参考書】五明紀春・渡邊早苗他編、小林三智子他著 『スタンダード人間栄養学 応用栄養学』 朝倉書店

科目名	応用栄養学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

応用栄養学では、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理 (栄養マネジメント) の考え方を理解することを目的としている。応用栄養学3では運動、ストレス、生体リズム、温度や気圧など人間をとりまく環境に対してヒトがどのような生理的応答を示し、それに対してどのような栄養管理をおこなうか学習する

内容

- 1 . 運動とエネルギー代謝 (筋収縮のエネルギー供給機構)
- 2 . 運動とエネルギー代謝 (有酸素運動、無酸素運動)
- 3 . 健康増進と運動
- 4 . スポーツと体力 (筋力発揮の分類)
- 5 . スポーツと体力 (身体組成)
- 6 . トレーニングと栄養補給 (運動時の栄養補給)
- 7 . トレーニングと栄養補給 (体重調節)
- 8 . ストレスと栄養 (恒常性、適応)
- 9 . ストレスと栄養 (代謝、栄養必要量)
- 1 0 . 生体リズムと栄養 (生体機能のリズム)
- 1 1 . 生体リズムと栄養 (代謝のリズム、食事による同調)
- 1 2 . 高温・低音環境と栄養 (高・低圧環境とエネルギー補給)
- 1 3 . 高圧・低圧環境と栄養 (高・低圧環境と栄養問題)
- 1 4 . 無重力環境と栄養
- 1 5 . まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。
- 【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	応用栄養学		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

応用栄養学では、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理 (栄養マネジメント) の考え方を理解することを目的としている。応用栄養学3では運動、ストレス、生体リズム、温度や気圧など人間をとりまく環境に対してヒトがどのような生理的応答を示し、それに対してどのような栄養管理をおこなうか学習する

内容

- 1 . 運動とエネルギー代謝 (筋収縮のエネルギー供給機構)
- 2 . 運動とエネルギー代謝 (有酸素運動、無酸素運動)
- 3 . 健康増進と運動
- 4 . スポーツと体力 (筋力発揮の分類)
- 5 . スポーツと体力 (身体組成)
- 6 . トレーニングと栄養補給 (運動時の栄養補給)
- 7 . トレーニングと栄養補給 (体重調節)
- 8 . ストレスと栄養 (恒常性、適応)
- 9 . ストレスと栄養 (代謝、栄養必要量)
- 10 . 生体リズムと栄養 (生体機能のリズム)
- 11 . 生体リズムと栄養 (代謝のリズム、食事による同調)
- 12 . 高温・低音環境と栄養 (高・低圧環境とエネルギー補給)
- 13 . 高圧・低圧環境と栄養 (高・低圧環境と栄養問題)
- 14 . 無重力環境と栄養
- 15 . まとめ

評価

まとめのレポート50点、各回ごとの小レポート20点、通常の授業態度30点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく (45分) 。
- 【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す (45分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	応用栄養学実習		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

応用栄養学実習では、応用栄養学 および で学修した各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) の知識を基礎として、それらを具体的に実習を通して学んでいきます。

実習の内容は、成長・発達および加齢に伴う身体の機能的変化や、妊娠・授乳期の生理的特徴を理解し、それぞれのライフステージに応じた適切な栄養管理のありかたを学修します。すなわち、日本人の食事摂取基準 (2015年版) を理解し、各ライフステージの栄養適正量を満たす献立を作成し、作成献立を試作し評価していきます。

応用栄養学実習の学修目標は、 食事摂取基準活用の基礎理論を理解することができる、 妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 成長期の栄養アセスメントと栄養ケアを理解することができる、 高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 の4点です。

内容

1	オリエンテーション、食事摂取基準の理解と各自の栄養適正量の算定
2	乳児期における栄養管理 1 : 乳汁栄養、調乳実習
3	乳児期における栄養管理 2 : 乳児期の食事摂取基準、離乳食の献立作成
4	乳児期における栄養管理 3 : 離乳食の試作および評価
5	成長期における栄養管理 1 : 幼児期の食事摂取基準、幼児食および保育所給食の献立作成
6	成長期における栄養管理 2 : 幼児食および保育所給食の試作および評価
7	成人期における栄養管理 1 : 成人女性の1日の食事の献立作成
8	成人期における栄養管理 2 : 成人女性の1日の食事の試作および評価
9	妊娠・授乳期における栄養管理 1 : 妊娠・授乳期の食事摂取基準、妊産婦の1日の食事献立作成
10	妊娠・授乳期における栄養管理 2 : 妊婦、授乳婦の1日の食事の試作および評価
11	更年期における栄養管理 1 : 生活習慣病を予防する更年期の1日の食事の献立作成
12	更年期における栄養管理 2 : 更年期の1日の食事の試作および評価
13	高齢期における栄養管理 1 : 高齢期の食事摂取基準、高齢期の1日の食事の献立作成
14	高齢期における栄養管理 2 : 高齢期の1日の食事の試作および評価
15	まとめ

評価

レポート評価70点および実習態度を30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】食事摂取基準を理解していることが必要になります。応用栄養学 および応用栄養学 で学修した各ライフステージの栄養管理とともに、見直しておきましょう。

【事後学修】試作および評価を行った回では、必ずレポートを提出してもらいます。実習の目的を理解し、実習内容の結果と考察についての的確にまとめましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト】五関正江・小林三智子編著 『改訂 応用栄養学実習 ケーススタディで学ぶ栄養マネジメント』 建帛社
その他、随時プリントを配付する。
- 【参考書】 厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版
- 【参考書】 竹中優・土江節子編,小林三智子他著 『応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第3版』 医歯薬出版
- 【参考書】 食事摂取基準の実践・運用を考える会編 『日本人の食事摂取基準2015年版の実践・運用』 第一出版

科目名	応用栄養学実習		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

応用栄養学実習では、応用栄養学 および で学修した各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) の知識を基礎として、それらを具体的に実習を通して学んでいきます。

実習の内容は、成長・発達および加齢に伴う身体の機能的変化や、妊娠・授乳期の生理的特徴を理解し、それぞれのライフステージに応じた適切な栄養管理のありかたを学修します。すなわち、日本人の食事摂取基準 (2015年版) を理解し、各ライフステージの栄養適正量を満たす献立を作成し、作成献立を試作し評価していきます。

応用栄養学実習の学修目標は、 食事摂取基準活用の基礎理論を理解することができる、 妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 成長期の栄養アセスメントと栄養ケアを理解することができる、 高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 の4点です。

内容

1	オリエンテーション、食事摂取基準の理解と各自の栄養適正量の算定
2	乳児期における栄養管理 1 : 乳汁栄養、調乳実習
3	乳児期における栄養管理 2 : 乳児期の食事摂取基準、離乳食の献立作成
4	乳児期における栄養管理 3 : 離乳食の試作および評価
5	成長期における栄養管理 1 : 幼児期の食事摂取基準、幼児食および保育所給食の献立作成
6	成長期における栄養管理 2 : 幼児食および保育所給食の試作および評価
7	成人期における栄養管理 1 : 成人女性の1日の食事の献立作成
8	成人期における栄養管理 2 : 成人女性の1日の食事の試作および評価
9	妊娠・授乳期における栄養管理 1 : 妊娠・授乳期の食事摂取基準、妊産婦の1日の食事献立作成
10	妊娠・授乳期における栄養管理 2 : 妊婦、授乳婦の1日の食事の試作および評価
11	更年期における栄養管理 1 : 生活習慣病を予防する更年期の1日の食事の献立作成
12	更年期における栄養管理 2 : 更年期の1日の食事の試作および評価
13	高齢期における栄養管理 1 : 高齢期の食事摂取基準、高齢期の1日の食事の献立作成
14	高齢期における栄養管理 2 : 高齢期の1日の食事の試作および評価
15	まとめ

評価

レポート評価70点および実習態度を30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】食事摂取基準を理解していることが必要になります。応用栄養学 および応用栄養学 で学修した各ライフステージの栄養管理とともに、見直しておきましょう。

【事後学修】試作および評価を行った回では、必ずレポートを提出してもらいます。実習の目的を理解し、実習内容の結果と考察についての的確にまとめましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト】五関正江・小林三智子編著 『改訂 応用栄養学実習 ケーススタディで学ぶ栄養マネジメント』 建帛社
その他、随時プリントを配付する。
- 【参考書】 厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版
- 【参考書】 竹中優・土江節子編,小林三智子他著 『応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第3版』 医歯薬出版
- 【参考書】 食事摂取基準の実践・運用を考える会編 『日本人の食事摂取基準2015年版の実践・運用』 第一出版

科目名	応用栄養学実習		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

応用栄養学実習では、応用栄養学 および で学修した各ライフステージの身体状況や栄養状態に応じた栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) の知識を基礎として、それらを具体的に実習を通して学んでいきます。

実習の内容は、成長・発達および加齢に伴う身体の機能的変化や、妊娠・授乳期の生理的特徴を理解し、それぞれのライフステージに応じた適切な栄養管理のありかたを学修します。すなわち、日本人の食事摂取基準 (2015年版) を理解し、各ライフステージの栄養適正量を満たす献立を作成し、作成献立を試作し評価していきます。

応用栄養学実習の学修目標は、 食事摂取基準活用の基礎理論を理解することができる、 妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 成長期の栄養アセスメントと栄養ケアを理解することができる、 高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解することができる、 の4点です。

内容

1	オリエンテーション、食事摂取基準の理解と各自の栄養適正量の算定
2	乳児期における栄養管理 1 : 乳汁栄養、調乳実習
3	乳児期における栄養管理 2 : 乳児期の食事摂取基準、離乳食の献立作成
4	乳児期における栄養管理 3 : 離乳食の試作および評価
5	成長期における栄養管理 1 : 幼児期の食事摂取基準、幼児食および保育所給食の献立作成
6	成長期における栄養管理 2 : 幼児食および保育所給食の試作および評価
7	成人期における栄養管理 1 : 成人女性の1日の食事の献立作成
8	成人期における栄養管理 2 : 成人女性の1日の食事の試作および評価
9	妊娠・授乳期における栄養管理 1 : 妊娠・授乳期の食事摂取基準、妊産婦の1日の食事献立作成
10	妊娠・授乳期における栄養管理 2 : 妊婦、授乳婦の1日の食事の試作および評価
11	更年期における栄養管理 1 : 生活習慣病を予防する更年期の1日の食事の献立作成
12	更年期における栄養管理 2 : 更年期の1日の食事の試作および評価
13	高齢期における栄養管理 1 : 高齢期の食事摂取基準、高齢期の1日の食事の献立作成
14	高齢期における栄養管理 2 : 高齢期の1日の食事の試作および評価
15	まとめ

評価

レポート評価70点および実習態度を30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】食事摂取基準を理解していることが必要になります。応用栄養学 および応用栄養学 で学修した各ライフステージの栄養管理とともに、見直しておきましょう。

【事後学修】試作および評価を行った回では、必ずレポートを提出してもらいます。実習の目的を理解し、実習内容の結果と考察についての的確にまとめましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト】五関正江・小林三智子編著 『改訂 応用栄養学実習 ケーススタディで学ぶ栄養マネジメント』 建帛社
その他、随時プリントを配付する。
- 【参考書】 厚生労働省 『日本人の食事摂取基準〔2015年版〕』 第一出版
- 【参考書】 竹中優・土江節子編,小林三智子他著 『応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第3版』 医歯薬出版
- 【参考書】 食事摂取基準の実践・運用を考える会編 『日本人の食事摂取基準2015年版の実践・運用』 第一出版

科目名	栄養教育論		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための、2年次前期 必修講義科目となります。この講義で理解した内容については、2年次後期に「栄養教育論実習」で自らが体得し、さらに同時期に開講される講義科目「栄養教育論」の基礎となります。

科目の概要 管理栄養士や栄養士は、一次予防（健康増進、疾病予防）、二次予防（早期発見・早期対処）、三次予防（機能回復・再発防止）のいずれの場合においても、食の指導にとどまらず、運動や休養の習慣、生活リズム、食環境なども含めた効果的な栄養教育を実施する事が求められます。そのため、まず最初に、栄養教育の概念を理解し、マネジメントの方法（PDCAサイクル=plan,do,check,action）について知識を修得します。特に "do" に関わる部分では、カウンセリングやコーチング、行動変容技法などについて理解を深めます。

学修目標 (1) 栄養教育の概念を明確に理解する (2) 栄養教育のマネジメント方法（PDCAサイクル）を学ぶ (3) 栄養教育で重要な“伝えるためのコミュニケーション力”について学習し、カウンセリングやコーチングを理解する (4) 行動変容技法を活用できるようになる の4点です。

内容	
1	QOLの向上をめざす栄養教育の概念・定義～栄養・運動・休養の関わり～
2	栄養教育の対象・機会
3	栄養教育の法的根拠
4	栄養教育マネジメント PDCAサイクルについて
5	栄養教育マネジメント～アセスメント（方法）
6	栄養教育マネジメント～アセスメント（個人要因と環境要因）
7	栄養教育マネジメント～目標設定
8	栄養教育マネジメント～プログラムの作成
9	栄養教育マネジメント～プログラムの実施
10	食事・運動・休養などの生活行動の問題点と改善目標を明確化する栄養カウンセリング
11	食事・運動・休養などの生活行動の改善目標達成へと導くコーチング
12	食事・運動・休養などの生活行動の改善を導く行動変容技法の種類と概念
13	食事・運動・休養などの生活行動の改善を導く行動変容技法の活用方法
14	栄養教育マネジメント～プログラムの評価
15	まとめ

評価

中間テスト40点、最終試験60点として、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書「栄養教育論」の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに各章についている演習問題で復習するために、1時間程度の取り組みが必要になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】中山玲子・宮崎由子 編、新食品・栄養科学シリーズ〔栄養教育論〕 化学同人

【推薦書】上田伸男・岸恭一・塚原丘実 編、運動と栄養 講談社

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定委員会報告書〔日本人の食事摂取基準2015年版〕 第一出版

科目名	栄養教育論		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための、2年次前期 必修講義科目となります。この講義で理解した内容については、2年次後期に「栄養教育論実習」で自らが体得し、さらに同時期に開講される講義科目「栄養教育論」の基礎となります。

科目の概要 管理栄養士や栄養士は、一次予防（健康増進、疾病予防）、二次予防（早期発見・早期対処）、三次予防（機能回復・再発防止）のいずれの場においても、食の指導にとどまらず、運動や休養の習慣、生活リズム、食環境なども含めた効果的な栄養教育を実施する事が求められます。そのため、まず最初に、栄養教育の概念を理解し、マネジメントの方法（PDCAサイクル=plan,do,check,action）について知識を修得します。特に "do" に関わる部分では、カウンセリングやコーチング、行動変容技法などについて理解を深めます。

学修目標 (1) 栄養教育の概念を明確に理解する (2) 栄養教育のマネジメント方法（PDCAサイクル）を学ぶ (3) 栄養教育で重要な“伝えるためのコミュニケーション力”について学習し、カウンセリングやコーチングを理解する (4) 行動変容技法を活用できるようになる の4点です。

内容	
1	QOLの向上をめざす栄養教育の概念・定義～栄養・運動・休養の関わり～
2	栄養教育の対象・機会
3	栄養教育の法的根拠
4	栄養教育マネジメント PDCAサイクルについて
5	栄養教育マネジメント～アセスメント（方法）
6	栄養教育マネジメント～アセスメント（個人要因と環境要因）
7	栄養教育マネジメント～目標設定
8	栄養教育マネジメント～プログラムの作成
9	栄養教育マネジメント～プログラムの実施
10	食事・運動・休養などの生活行動の問題点と改善目標を明確化する栄養カウンセリング
11	食事・運動・休養などの生活行動の改善目標達成へと導くコーチング
12	食事・運動・休養などの生活行動の改善を導く行動変容技法の種類と概念
13	食事・運動・休養などの生活行動の改善を導く行動変容技法の活用方法
14	栄養教育マネジメント～プログラムの評価
15	まとめ

評価

中間テスト40点、最終試験60点として、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書「栄養教育論」の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに各章についている演習問題で復習するために、1時間程度の取り組みが必要になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】中山玲子・宮崎由子 編、新食品・栄養科学シリーズ〔栄養教育論〕 化学同人

【推薦書】上田伸男・岸恭一・塚原丘実 編、運動と栄養 講談社

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定委員会報告書〔日本人の食事摂取基準2015年版〕 第一出版

科目名	栄養教育論		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための、2年次後期必修講義科目となります。前期に学んだ「栄養教育論」を基礎に学びを深め、同時開講の「栄養教育論実習」、4年次前期「栄養教育論実習」の学内実習、さらに学外で行われる様々な臨地実習で、栄養教育の実際を学びます。

科目の概要 「栄養教育論」では、栄養教育のマネジメント方法 (アセスメントに基づくPDCAサイクル) や栄養カウンセリングの方法、すなわち実際の展開方法を学習しましたが、さらに効果的に “ 個人や集団の行動変容を自ら促す ” ためには、行動科学の理論やモデルを応用することが求められます。そこで、個人内、個人間、集団や社会それぞれのレベルでの行動変容を促す理論やモデルを修得します。さらに、ライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育の特徴を修得していきます。

学修目標 (1) 個人や集団の行動変容を導くための理論やモデルを理解する (2) 個人や集団に影響を及ぼす食環境について学ぶ (3) ライフステージやライフスタイル別に行うべき栄養教育の特徴を理解する の3点です。

内容	
1	栄養教育の理論的基礎となる行動科学
2	個人レベルの行動変容を導く理論やモデル
3	個人間の行動変容を導く理論やモデル
4	集団や社会レベルで行動変容を導く理論やモデル
5	組織づくり・地域づくりへの展開
6	食環境づくりとの関連
7	栄養教育の国際的動向
8	妊娠・授乳期の栄養教育
9	乳幼児期の栄養教育
10	学童期・思春期の栄養教育
11	成人期の栄養教育
12	傷病者の栄養教育
13	高齢期の栄養教育
14	障がい者の栄養教育
15	まとめ

評価

ミニテスト40点、最終試験60点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書「栄養教育論」の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに各章についている演習問題で復習するために、1時間程度の取り組みが必要になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】丸山千鶴子、足達淑子、武見ゆかり編 健康・栄養科学シリーズ〔栄養教育論〕 南江堂

【推薦書】赤松利恵 〔栄養教育スキルアップブック〕 化学同人

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書 〔日本人の食事摂取基準2015年版〕 第一出版

科目名	栄養教育論		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための、2年次後期必修講義科目となります。前期に学んだ「栄養教育論」を基礎に学びを深め、同時開講の「栄養教育論実習」、4年次前期「栄養教育論実習」の学内実習、さらに学外で行われる様々な臨地実習で、栄養教育の実際を学びます。

科目の概要 「栄養教育論」では、栄養教育のマネジメント方法（アセスメントに基づくPDCAサイクル）や栄養カウンセリングの方法、すなわち実際の展開方法を学習しましたが、さらに効果的に“個人や集団の行動変容を自ら促す”ためには、行動科学の理論やモデルを応用することが求められます。そこで、個人内、個人間、集団や社会それぞれのレベルでの行動変容を促す理論やモデルを修得します。さらに、ライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育の特徴を修得していきます。

学修目標 （1）個人や集団の行動変容を導くための理論やモデルを理解する （2）個人や集団に影響を及ぼす食環境について学ぶ （3）ライフステージやライフスタイル別に行うべき栄養教育の特徴を理解する の3点です。

内容	
1	栄養教育の理論的基礎となる行動科学
2	個人レベルの行動変容を導く理論やモデル
3	個人間の行動変容を導く理論やモデル
4	集団や社会レベルで行動変容を導く理論やモデル
5	組織づくり・地域づくりへの展開
6	食環境づくりとの関連
7	栄養教育の国際的動向
8	妊娠・授乳期の栄養教育
9	乳幼児期の栄養教育
10	学童期・思春期の栄養教育
11	成人期の栄養教育
12	傷病者の栄養教育
13	高齢期の栄養教育
14	障がい者の栄養教育
15	まとめ

評価

ミニテスト40点、最終試験60点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書「栄養教育論」の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに各章についている演習問題で復習するために、1時間程度の取り組みが必要になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】丸山千鶴子、足達淑子、武見ゆかり編 健康・栄養科学シリーズ〔栄養教育論〕 南江堂

【推薦書】赤松利恵 〔栄養教育スキルアップブック〕 化学同人

【参考図書】厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書 〔日本人の食事摂取基準2015年版〕 第一出版

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	徳野 裕子、芝崎 本実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格；栄養教育論実習 は、実践的技術を習得する上で必要な科目である。これまで学んだ基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論 の知識をもとに、対象者の食に関わる具体的問題点を明らかにし、これを伝え、改善できる行動へ結びつけるための一連の方法を体験学習する。

科目の概要；具体的指導・教育として活用され、他の専門職種の人々と食の専門家として強く連携出来るための基礎的技術の習得を目指す。管理栄養士の実践活動は、対象者に、現在の食行動が現在または将来にわたっての健康障害と深く関係する危険性を「気づかせ」、「食生活」の見直しを具体的行動として実践させ、これを継続できるように、「支援」することにある。そのためには対象者の現在の食生活及び栄養状態から、「問題点・ニーズ」を適切に把握し、優先順序を決め、適切に問題解決のための手だてを「計画」し、これを「実施」し、実践したことに対して適切に「評価」することが求められるため、必要な基礎的な技術を学ぶ。

学修目標；

1. 身体計測方法および食事調査方法を理解し、結果をつくれるようにする。
2. 栄養教育に必要な栄養マネジメントを習得し、行動変容の重要性について理解する。
3. プレゼンテーションの方法について習得する。

内容

本実習では、管理栄養士が対象者の食生活状態と栄養状態を適切に把握する「ニーズ評価」方法を具体的に演習するとともに、わかり易い指導・教育方法のあり方を学ぶべく、仮想対象者を想定し、指導・教育計画の作成、媒体作成を試みることにする。

1	オリエンテーションおよび栄養教育実習に関する概要について
2	栄養アセスメント 身体状況の把握
3	栄養アセスメント 栄養状態の把握
4	栄養アセスメント 栄養状態把握と評価
5	栄養アセスメントの実践 問診を行う
6	栄養教育への心構えの把握と実習
7	栄養教育の基礎技術：カウンセリング
8	コンピュータを活用した情報収集
9	模擬集団栄養教育マネジメント：栄養教育計画の立案
10	栄養教育方法の必要な媒体の種類と具体的方法について
11	栄養教育の媒体・シナリオ作成
12	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
13	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
14	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
15	まとめ

評価

レポート5割、媒体作成、教育方法やその技術の習得状況5割から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習予定の範囲を熟読し、不明な点を把握しておく。

【事後学修】実習で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子,川上貴代,久保田恵・編 栄養科学シリーズNEXT『栄養教育論実習』（株）講談社

【参考書】第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準（2010年版）』 第一出版

『調理のためのベーシックデータ』 女子栄養大学出版部

科学技術庁資源調査会編『五訂増補日本食品成分表』 医歯薬出版

今村裕行他著『イラスト健康増進科学概論 - 運動・栄養・休養 - 』 東京教学社

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	徳野 裕子、芝崎 本実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格；栄養教育論実習 は、実践的技術を習得する上で必要な科目である。これまで学んだ基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論 の知識をもとに、対象者の食に関わる具体的問題点を明らかにし、これを伝え、改善できる行動へ結びつけるための一連の方法を体験学習する。

科目の概要；具体的指導・教育として活用され、他の専門職種の人々と食の専門家として強く連携出来るための基礎的技術の習得を目指す。管理栄養士の実践活動は、対象者に、現在の食行動が現在または将来にわたっての健康障害と深く関係する危険性を「気づかせ」、「食生活」の見直しを具体的行動として実践させ、これを継続できるように、「支援」することにある。そのためには対象者の現在の食生活及び栄養状態から、「問題点・ニーズ」を適切に把握し、優先順序を決め、適切に問題解決のための手だてを「計画」し、これを「実施」し、実践したことに対して適切に「評価」することが求められるため、必要な基礎的な技術を学ぶ。

学修目標；

1. 身体計測方法および食事調査方法を理解し、結果をつくれるようにする。
2. 栄養教育に必要な栄養マネジメントを習得し、行動変容の重要性について理解する。
3. プレゼンテーションの方法について習得する。

内容

本実習では、管理栄養士が対象者の食生活状態と栄養状態を適切に把握する「ニーズ評価」方法を具体的に演習するとともに、わかり易い指導・教育方法のあり方を学ぶべく、仮想対象者を想定し、指導・教育計画の作成、媒体作成を試みることをとする。

1	オリエンテーションおよび栄養教育実習に関する概要について
2	栄養アセスメント 身体状況の把握
3	栄養アセスメント 栄養状態の把握
4	栄養アセスメント 栄養状態把握と評価
5	栄養アセスメントの実践 問診を行う
6	栄養教育への心構えの把握と実習
7	栄養教育の基礎技術：カウンセリング
8	コンピュータを活用した情報収集
9	模擬集団栄養教育マネジメント：栄養教育計画の立案
10	栄養教育方法の必要な媒体の種類と具体的方法について
11	栄養教育の媒体・シナリオ作成
12	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
13	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
14	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
15	まとめ

評価

レポート5割、媒体作成、教育方法やその技術の習得状況5割から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習予定の範囲を熟読し、不明な点を把握しておく。

【事後学修】実習で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子,川上貴代,久保田恵・編 栄養科学シリーズNEXT『栄養教育論実習』（株）講談社

【参考書】第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準（2010年版）』 第一出版

『調理のためのベーシックデータ』 女子栄養大学出版部

科学技術庁資源調査会編『五訂増補日本食品成分表』 医歯薬出版

今村裕行他著『イラスト健康増進科学概論 - 運動・栄養・休養 - 』 東京教学社

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	徳野 裕子、芝崎 本実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格；栄養教育論実習 は、実践的技術を習得する上で必要な科目である。これまで学んだ基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論 の知識をもとに、対象者の食に関わる具体的問題点を明らかにし、これを伝え、改善できる行動へ結びつけるための一連の方法を体験学習する。

科目の概要；具体的指導・教育として活用され、他の専門職種の人々と食の専門家として強く連携出来るための基礎的技術の習得を目指す。管理栄養士の実践活動は、対象者に、現在の食行動が現在または将来にわたっての健康障害と深く関係する危険性を「気づかせ」、「食生活」の見直しを具体的行動として実践させ、これを継続できるように、「支援」することにある。そのためには対象者の現在の食生活及び栄養状態から、「問題点・ニーズ」を適切に把握し、優先順序を決め、適切に問題解決のための手だてを「計画」し、これを「実施」し、実践したことに対して適切に「評価」することが求められるため、必要な基礎的な技術を学ぶ。

学修目標；

1. 身体計測方法および食事調査方法を理解し、結果をつくれるようにする。
2. 栄養教育に必要な栄養マネジメントを習得し、行動変容の重要性について理解する。
3. プレゼンテーションの方法について習得する。

内容

本実習では、管理栄養士が対象者の食生活状態と栄養状態を適切に把握する「ニーズ評価」方法を具体的に演習するとともに、わかり易い指導・教育方法のあり方を学ぶべく、仮想対象者を想定し、指導・教育計画の作成、媒体作成を試みることにする。

1	オリエンテーションおよび栄養教育実習に関する概要について
2	栄養アセスメント 身体状況の把握
3	栄養アセスメント 栄養状態の把握
4	栄養アセスメント 栄養状態把握と評価
5	栄養アセスメントの実践 問診を行う
6	栄養教育への心構えの把握と実習
7	栄養教育の基礎技術：カウンセリング
8	コンピュータを活用した情報収集
9	模擬集団栄養教育マネジメント：栄養教育計画の立案
10	栄養教育方法の必要な媒体の種類と具体的方法について
11	栄養教育の媒体・シナリオ作成
12	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
13	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
14	栄養教育指導要領・教育方法・媒体についての発表
15	まとめ

評価

レポート5割、媒体作成、教育方法やその技術の習得状況5割から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習予定の範囲を熟読し、不明な点を把握しておく。

【事後学修】実習で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子,川上貴代,久保田恵・編 栄養科学シリーズNEXT『栄養教育論実習』（株）講談社

【参考書】第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準（2010年版）』 第一出版

『調理のためのベーシックデータ』 女子栄養大学出版部

科学技術庁資源調査会編『五訂増補日本食品成分表』 医歯薬出版

今村裕行他著『イラスト健康増進科学概論 - 運動・栄養・休養 - 』 東京教学社

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための必修実習科目となります。2年次に開講される講義科目「栄養教育論」(前期)ならびに「栄養教育論」(後期)、実習科目「栄養教育論実習」(後期)の修得を前提に、基礎から専門におよぶ管理栄養士養成課程カリキュラムの幅広い分野をおおむね学習した後の4年次(前期)に開講される、集大成的要素を持つ実習科目です。

科目の概要 この実習では、栄養教育の理論と技法を用い、ライフステージやライフスタイル別に設定した個人あるいは集団の対象者の健康・栄養問題をアセスメントにより明確にし、対象者自身による行動変容を導きサポートしていくための栄養教育プログラムの計画、実施、評価に取り組みます。特に、栄養カウンセリングに必要なコミュニケーション力を伸ばします。

学修目標 (1) アセスメントに基づき、行動科学理論を用いた実践的な栄養教育プログラムを計画することができる (2) カウンセリングやコーチング技法を用い、対象者主体の栄養教育プログラムを実施することができる (3) 客観的評価を行った結果をフィードバックし、栄養教育プログラムを改善することができる の3点とします。

内容	
1	オリエンテーション、行動変容を導く栄養教育の展開法
2	コミュニケーション法の実践(カウンセリング・コーチング技法演習)
3	行動変容技法の演習
4	行動科学理論に基づく個別栄養教育プログラムのためのニーズ・アセスメントと計画
5	個別栄養教育の実施
6	個別栄養教育の評価 ・ 計画へのフィードバック
7	個別栄養教育の実施
8	個別栄養教育の評価 とまとめ
9	集団栄養教育プログラムのための対象者のニーズアセスメント
10	集団栄養教育プログラムの計画(カリキュラムの作成、評価法の決定)
11	集団栄養教育プログラムの計画(指導案・媒体・教材の作成)
12	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
13	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
14	集団栄養教育プログラムの効果評価とフィードバック
15	求められる栄養教育についての討論とまとめ

評価
発表内容60点、レポート及び提出物40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習
【事前予習】既に講義で学んだ該当する項目を、教科書[栄養教育論]の該当する章で復習しておきましょう。

【事後学修】実習内容について復習するだけでなく様々な事例検討を試み、個別栄養教育あるいは集団栄養教育の特徴や手技を明確に捉えましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子・川上貴代・久保田恵編 栄養科学シリーズ〔栄養教育論実習〕 講談社

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】小松啓子・大谷 貴美子編 栄養科学シリーズ〔栄養カウンセリング論〕 講談社

【推薦書】柳澤厚生編著 / 鱸伸子・平野美由紀著 臨床栄養別冊〔ニュートリション コーチング〕 医歯薬出版

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための必修実習科目となります。2年次に開講される講義科目「栄養教育論」(前期)ならびに「栄養教育論」(後期)、実習科目「栄養教育論実習」(後期)の修得を前提に、基礎から専門におよぶ管理栄養士養成課程カリキュラムの幅広い分野をおおむね学習した後の4年次(前期)に開講される、集大成的要素を持つ実習科目です。

科目の概要 この実習では、栄養教育の理論と技法を用い、ライフステージやライフスタイル別に設定した個人あるいは集団の対象者の健康・栄養問題をアセスメントにより明確にし、対象者自身による行動変容を導きサポートしていくための栄養教育プログラムの計画、実施、評価に取り組みます。特に、栄養カウンセリングに必要なコミュニケーション力を伸ばします。

学修目標 (1) アセスメントに基づき、行動科学理論を用いた実践的な栄養教育プログラムを計画することができる (2) カウンセリングやコーチング技法を用い、対象者主体の栄養教育プログラムを実施することができる (3) 客観的評価を行った結果をフィードバックし、栄養教育プログラムを改善することができる の3点とします。

内容	
1	オリエンテーション、行動変容を導く栄養教育の展開法
2	コミュニケーション法の実践(カウンセリング・コーチング技法演習)
3	行動変容技法の演習
4	行動科学理論に基づく個別栄養教育プログラムのためのニーズ・アセスメントと計画
5	個別栄養教育の実施
6	個別栄養教育の評価 ・ 計画へのフィードバック
7	個別栄養教育の実施
8	個別栄養教育の評価 とまとめ
9	集団栄養教育プログラムのための対象者のニーズアセスメント
10	集団栄養教育プログラムの計画(カリキュラムの作成、評価法の決定)
11	集団栄養教育プログラムの計画(指導案・媒体・教材の作成)
12	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
13	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
14	集団栄養教育プログラムの効果評価とフィードバック
15	求められる栄養教育についての討論とまとめ

評価
発表内容60点、レポート及び提出物40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習
【事前予習】既に講義で学んだ該当する項目を、教科書[栄養教育論]の該当する章で復習しておきましょう。

【事後学修】実習内容について復習するだけでなく様々な事例検討を試み、個別栄養教育あるいは集団栄養教育の特徴や手技を明確に捉えましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子・川上貴代・久保田恵編 栄養科学シリーズ〔栄養教育論実習〕 講談社

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】小松啓子・大谷 貴美子編 栄養科学シリーズ〔栄養カウンセリング論〕 講談社

【推薦書】柳澤厚生編著 / 鱸伸子・平野美由紀著 臨床栄養別冊〔ニュートリション コーチング〕 医歯薬出版

科目名	栄養教育論実習		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 この科目は、栄養士資格・管理栄養士国家試験受験資格を取得するための必修実習科目となります。2年次に開講される講義科目「栄養教育論」(前期)ならびに「栄養教育論」(後期)、実習科目「栄養教育論実習」(後期)の修得を前提に、基礎から専門におよぶ管理栄養士養成課程カリキュラムの幅広い分野をおおむね学習した後の4年次(前期)に開講される、集大成的要素を持つ実習科目です。

科目の概要 この実習では、栄養教育の理論と技法を用い、ライフステージやライフスタイル別に設定した個人あるいは集団の対象者の健康・栄養問題をアセスメントにより明確にし、対象者自身による行動変容を導きサポートしていくための栄養教育プログラムの計画、実施、評価に取り組みます。特に、栄養カウンセリングに必要なコミュニケーション力を伸ばします。

学修目標 (1) アセスメントに基づき、行動科学理論を用いた実践的な栄養教育プログラムを計画することができる (2) カウンセリングやコーチング技法を用い、対象者主体の栄養教育プログラムを実施することができる (3) 客観的評価を行った結果をフィードバックし、栄養教育プログラムを改善することができる の3点とします。

内容	
1	オリエンテーション、行動変容を導く栄養教育の展開法
2	コミュニケーション法の実践(カウンセリング・コーチング技法演習)
3	行動変容技法の演習
4	行動科学理論に基づく個別栄養教育プログラムのためのニーズ・アセスメントと計画
5	個別栄養教育の実施
6	個別栄養教育の評価 ・ 計画へのフィードバック
7	個別栄養教育の実施
8	個別栄養教育の評価 とまとめ
9	集団栄養教育プログラムのための対象者のニーズアセスメント
10	集団栄養教育プログラムの計画(カリキュラムの作成、評価法の決定)
11	集団栄養教育プログラムの計画(指導案・媒体・教材の作成)
12	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
13	集団栄養教育プログラムの実施 (プレゼンテーション)
14	集団栄養教育プログラムの効果評価とフィードバック
15	求められる栄養教育についての討論とまとめ

評価
発表内容60点、レポート及び提出物40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習
【事前予習】既に講義で学んだ該当する項目を、教科書[栄養教育論]の該当する章で復習しておきましょう。

【事後学修】実習内容について復習するだけでなく様々な事例検討を試み、個別栄養教育あるいは集団栄養教育の特徴や手技を明確に捉えましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片井加奈子・川上貴代・久保田恵編 栄養科学シリーズ〔栄養教育論実習〕 講談社

【教科書】吉田勉 監修、土江節子編著 食物と栄養学基礎シリーズ〔栄養教育論〕 学文社

【推薦書】小松啓子・大谷 貴美子編 栄養科学シリーズ〔栄養カウンセリング論〕 講談社

【推薦書】柳澤厚生編著 / 鱸伸子・平野美由紀著 臨床栄養別冊〔ニュートリション コーチング〕 医歯薬出版

科目名	カウンセリング論（演習を含む）		
担当教員名	金子 智栄子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カウンセリングは、広く個人の適応上の問題を解決するために指導助言を与えることを意味する。

本講義では、栄養指導に焦点をあてて講義を進めながら、来談者が自分自身で健康を回復し、さらに健康を維持し増進するような自律的な食物摂取の態度をいかにして形成していくかを理解する。また、カウンセラーとしての態度を育成するためにトレーニングを取り入れる予定である。

この授業は、管理栄養士が、栄養指導を行うにあたって必要とされるカウンセリングの基礎的知識や技能を獲得することを目標にしている。

内容

1. カウンセリングとは何か：カウンセリングを定義し、栄養指導でのカウンセリングの重要性を理解する。
2. カウンセリングにおける人間観：カウンセリングの根底にある人間に対する肯定的な見方について学ぶ。
3. カウンセラーの基本的態度：カウンセラーの純粋性、無条件の肯定的配慮、統合性などについて学ぶ。
4. カウンセリングの学派：指示的・非指示的・折衷的・行動的・開発的カウンセリングの特徴を学ぶ。
5. カウンセリングの技法：受容や傾聴とは何かを理解し、基本的な技法の活用を学ぶ。
6. 家族へのアプローチ：患者を取り巻く家族に対して栄養指導を行うにあたって、カウンセラーとしての留意点を学ぶ。
7. カウンセリング・ロールプレイ：カウンセラー、クライアント、オブザーバーの3者の役割をローテーションしながらカウンセリングを体験する。
8. 面接に必要な感性について1：カウンセラーとしての自己を分析する。
9. 面接に必要な感性について2：カウンセラーとしての自分の特徴を理解する。
10. ノンバーバル・コミュニケーションの活用1：描画法などを体験する。
11. ノンバーバル・コミュニケーションの活用2：コラージュなどを体験する。
12. カウンセリング体験の発表1：栄養指導体験を各自発表する。
13. カウンセリング体験の発表2：栄養指導体験を各自発表する。
14. カウンセリング体験の発表3：栄養指導体験を各自発表する。
15. まとめ

評価

レポート（90%）、授業に対する意欲・関心・態度（10%）とし、総合評価60点以上以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教科書の熟読
- 【事後学修】ノート整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】金子智栄子編著 『子どもの発達理解とカウンセリング』 樹村房

科目名	カウンセリング論（演習を含む）		
担当教員名	金子 智栄子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

カウンセリングは、広く個人の適応上の問題を解決するために指導助言を与えることを意味する。

本講義では、栄養指導に焦点をあてて講義を進めながら、来談者が自分自身で健康を回復し、さらに健康を維持し増進するような自律的な食物摂取の態度をいかにして形成していくかを理解する。また、カウンセラーとしての態度を育成するためにトレーニングを取り入れる予定である。

この授業は、管理栄養士が、栄養指導を行うにあたって必要とされるカウンセリングの基礎的知識や技能を獲得することを目標にしている。

内容

1. カウンセリングとは何か：カウンセリングを定義し、栄養指導でのカウンセリングの重要性を理解する。
2. カウンセリングにおける人間観：カウンセリングの根底にある人間に対する肯定的な見方について学ぶ。
3. カウンセラーの基本的態度：カウンセラーの純粋性、無条件の肯定的配慮、統合性などについて学ぶ。
4. カウンセリングの学派：指示的・非指示的・折衷的・行動的・開発的カウンセリングの特徴を学ぶ。
5. カウンセリングの技法：受容や傾聴とは何かを理解し、基本的な技法の活用を学ぶ。
6. 家族へのアプローチ：患者を取り巻く家族に対して栄養指導を行うにあたって、カウンセラーとしての留意点を学ぶ。
7. カウンセリング・ロールプレイ：カウンセラー、クライアント、オブザーバーの3者の役割をローテーションしながらカウンセリングを体験する。
8. 面接に必要な感性について1：カウンセラーとしての自己を分析する。
9. 面接に必要な感性について2：カウンセラーとしての自分の特徴を理解する。
10. ノンバーバル・コミュニケーションの活用1：描画法などを体験する。
11. ノンバーバル・コミュニケーションの活用2：コラージュなどを体験する。
12. カウンセリング体験の発表1：栄養指導体験を各自発表する。
13. カウンセリング体験の発表2：栄養指導体験を各自発表する。
14. カウンセリング体験の発表3：栄養指導体験を各自発表する。
15. まとめ

評価

レポート（90%）、授業に対する意欲・関心・態度（10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教科書の熟読
- 【事後学修】ノート整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】金子智栄子編著 『子どもの発達理解とカウンセリング』 樹村房

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な必修科目である。傷病者や要介護者の栄養管理を行う上で必要となる基本的な知識と技術の概要について学ぶ。臨床栄養学 ・ ・ ，臨床栄養学実習 ・ ，臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる科目である。

科目の概要

臨床栄養学の目的，医療・介護制度，医療における栄養管理の意義を学ぶ。また，病態や栄養状態の特徴に基づいた的確な栄養療法を行うための基本となる栄養アセスメントや栄養必要量の算定，栄養投与の方法，栄養教育などについて学習する。

学修目標

1. 医療・介護制度，管理栄養士の役割，栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する。
2. 栄養アセスメントの方法について理解する。
3. 栄養必要量の算定について理解する。
4. 栄養補給法について理解する。
5. 傷病者・要介護者を対象とした栄養教育の概要について理解する。

内容

1	臨床栄養学の基礎(1) 意義と目的，医療と介護保険制度，チーム医療における役割
2	臨床栄養学の基礎(2) 医療と臨床栄養，福祉介護と臨床栄養
3	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(1) 栄養スクリーニングとアセスメント
4	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(2) 問診，観察
5	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(3) 身体計測
6	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(4) 臨床検査
7	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(5) 栄養・食事調査
8	栄養必要量の算定
9	栄養・食事療法と栄養補給法
10	経口栄養法
11	経腸栄養法
12	経静脈栄養法
13	傷病者・要介護者への栄養教育
14	栄養ケアの記録
15	まとめ

評価

中間テスト (40%) ，期末テスト (60%) により評価を行い，60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む（30分）。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する（40分）。

プリントの練習問題を行う（20分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，松崎政三編『三訂 臨床栄養管理』建帛社

奈良信雄著『臨床検査ハンドブック 第5版』医歯薬出版

【推薦書】 本田佳子，土江節子，曾根博仁 編『臨床栄養学 基礎編』羊土社

【参考図書】大熊利忠，金谷節子 編『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要な必修科目である。傷病者や要介護者の栄養管理を行う上で必要となる基本的な知識と技術の概要について学ぶ。臨床栄養学 ・ ・ ，臨床栄養学実習 ・ ，臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる科目である。

科目の概要

臨床栄養学の目的、医療・介護制度、医療における栄養管理の意義を学ぶ。また、病態や栄養状態の特徴に基づいた的確な栄養療法を行うための基本となる栄養アセスメントや栄養必要量の算定、栄養投与の方法、栄養教育などについて学習する。

学修目標

1. 医療・介護制度、管理栄養士の役割、栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する。
2. 栄養アセスメントの方法について理解する。
3. 栄養必要量の算定について理解する。
4. 栄養補給法について理解する。
5. 傷病者・要介護者を対象とした栄養教育の概要について理解する。

内容

1	臨床栄養学の基礎(1) 意義と目的、医療と介護保険制度、チーム医療における役割
2	臨床栄養学の基礎(2) 医療と臨床栄養、福祉介護と臨床栄養
3	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(1) 栄養スクリーニングとアセスメント
4	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(2) 問診、観察
5	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(3) 身体計測
6	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(4) 臨床検査
7	傷病者・要介護者の栄養アセスメント(5) 栄養・食事調査
8	栄養必要量の算定
9	栄養・食事療法と栄養補給法
10	経口栄養法
11	経腸栄養法
12	経静脈栄養法
13	傷病者・要介護者への栄養教育
14	栄養ケアの記録
15	まとめ

評価

中間テスト(40%)、期末テスト(60%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む（30分）。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する（40分）。

プリントの練習問題を行う（20分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，松崎政三編『三訂 臨床栄養管理』建帛社

奈良信雄著『臨床検査ハンドブック 第5版』医歯薬出版

【推薦書】 本田佳子，土江節子，曾根博仁 編『臨床栄養学 基礎編』羊土社

【参考図書】大熊利忠，金谷節子 編『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、医療の現場において、医師・看護師・薬剤師などのチーム医療の一翼を担うことができる管理栄養士の養成を目的としている。さらに、栄養と疾患の関連を理解し、傷病者・要介護者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の能力を養うことを目的としている。

2年前期までに履修した解剖生理学、人間生物化学、病態生理学などを踏まえて本科目を理解する必要がある。また、3年次に履修する臨床栄養学・、臨床栄養学実習・および臨床栄養臨地実習・へと繋がる科目である。

科目の概要

臨床栄養学 では、消化器系疾患、栄養障害、肥満・代謝疾患における栄養マネジメントを中心に学習するとともに、代表的な疾患の症例のアセスメントと栄養ケア計画についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 各疾患の治療法や栄養・食事支援について基礎的な事項を理解する。
2. 主要な疾患の病態や心身機能の評価・判定について理解する。
3. 評価・判定に基づく栄養補給や栄養教育の方法について理解する。

内容

1	ガイドンス、消化器系疾患の栄養管理 (1) 食道・胃・十二指腸疾患
2	消化器系疾患の栄養管理 (2) 過敏性腸症候群、炎症性腸疾患
3	消化器系疾患の栄養管理 (3) 胃腸疾患症例の栄養管理
4	消化器系疾患の栄養管理 (4) 肝炎・肝硬変
5	消化器系疾患の栄養管理 (5) 脂肪肝
6	消化器系疾患の栄養管理 (6) 肝疾患症例の栄養管理
7	消化器系疾患の栄養管理 (7) 胆石・胆嚢炎
8	消化器系疾患の栄養管理 (8) 膵炎
9	消化器系疾患の栄養管理 (9) 胆嚢・膵臓疾患症例の栄養管理
10	栄養障害の栄養管理
11	肥満・メタボリックシンドロームの栄養管理
12	代謝疾患の栄養管理 (1) 糖尿病
13	代謝疾患の栄養管理 (2) 糖尿病の合併症
14	代謝疾患の栄養管理 (3) 肥満・糖尿病症例の栄養管理
15	まとめ

評価

小テスト30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 学習する疾患の成因、病態、一般的治療法、関連臓器の構造や機能、栄養素の代謝などについて、2年前期までの関連科目を復習する。 学習予定範囲の教科書を読んでおく。

【事後学修】 学習した内容を教科書等で再確認し、まとめノートを作成する。小テストや定期試験の準備とともに管理栄養士国家試験対策にも繋がる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 (1) 佐藤和人・本間健・小松龍史編『エッセンシャル 臨床栄養学 第7版』（医歯薬出版株式会社）、(2) 竹田津文俊著『病態生理 基礎のキソ第2版 絵で見てわかる病気のしくみ』（学研メディカル秀潤社）

【推薦書】 日本糖尿病学会編『糖尿病治療ガイド2014-2015』（文光堂）、奈良信雄著『看護・栄養指導のための 臨床検査ハンドブック 第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】 医学情報科学研究所編『病気がみえる vol.1消化器 第4版』（メディックメディア）、医学情報科学研究所編『病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第4版』（メディックメディア）

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、医療の現場において、医師・看護師・薬剤師などのチーム医療の一翼を担うことができる管理栄養士の養成を目的としている。さらに、栄養と疾患の関連を理解し、傷病者・要介護者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の能力を養うことを目的としている。

2年前期までに履修した解剖生理学、人間生物化学、病態生理学などを踏まえて本科目を理解する必要がある。また、3年次に履修する臨床栄養学・、臨床栄養学実習・ および臨床栄養臨地実習・ へと繋がる科目である。

科目の概要

臨床栄養学 では、消化器系疾患、栄養障害、肥満・代謝疾患における栄養マネジメントを中心に学習するとともに、代表的な疾患の症例のアセスメントと栄養ケア計画についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 各疾患の治療法や栄養・食事支援について基礎的な事項を理解する。
2. 主要な疾患の病態や心身機能の評価・判定について理解する。
3. 評価・判定に基づく栄養補給や栄養教育の方法について理解する。

内容

1	ガイドンス、消化器系疾患の栄養管理 (1) 食道・胃・十二指腸疾患
2	消化器系疾患の栄養管理 (2) 過敏性腸症候群、炎症性腸疾患
3	消化器系疾患の栄養管理 (3) 胃腸疾患症例の栄養管理
4	消化器系疾患の栄養管理 (4) 肝炎・肝硬変
5	消化器系疾患の栄養管理 (5) 脂肪肝
6	消化器系疾患の栄養管理 (6) 肝疾患症例の栄養管理
7	消化器系疾患の栄養管理 (7) 胆石・胆嚢炎
8	消化器系疾患の栄養管理 (8) 膵炎
9	消化器系疾患の栄養管理 (9) 胆嚢・膵臓疾患症例の栄養管理
10	栄養障害の栄養管理
11	肥満・メタボリックシンドロームの栄養管理
12	代謝疾患の栄養管理 (1) 糖尿病
13	代謝疾患の栄養管理 (2) 糖尿病の合併症
14	代謝疾患の栄養管理 (3) 肥満・糖尿病症例の栄養管理
15	まとめ

評価

小テスト30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 学習する疾患の成因、病態、一般的治療法、関連臓器の構造や機能、栄養素の代謝などについて、2年前期までの関連科目を復習する。 学習予定範囲の教科書を読んでおく。

【事後学修】 学習した内容を教科書等で再確認し、まとめノートを作成する。小テストや定期試験の準備とともに管理栄養士国家試験対策にも繋がる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 (1) 佐藤和人・本間健・小松龍史編『エッセンシャル 臨床栄養学 第7版』（医歯薬出版株式会社）、(2) 竹田津文俊著『病態生理 基礎のキソ第2版 絵で見てわかる病気のしくみ』（学研メディカル秀潤社）

【推薦書】 日本糖尿病学会編『糖尿病治療ガイド2014-2015』（文光堂）、奈良信雄著『看護・栄養指導のための 臨床検査ハンドブック 第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】 医学情報科学研究所編『病気がみえる vol.1消化器 第4版』（メディックメディア）、医学情報科学研究所編『病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第4版』（メディックメディア）

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、臨床栄養学 と同様に管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目であり、臨床栄養の現場でチーム医療の一翼を担うことができる管理栄養士の養成を目標としている。また、栄養と疾患の関連を理解し、傷病者・要介護者の栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の能力を養うことを目的としている。

3年次までに履修した専門科目や臨床栄養学 ・ などを踏まえて本科目を理解することが必要である。また、後期に実施する臨床栄養学 、臨床栄養学実習 および臨床栄養臨地実習に繋がる科目である。

科目の概要

臨床栄養学 では、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、咀嚼・嚥下障害、摂食機能障害、身体知的障害における栄養管理とともに薬剤と栄養・食物の相互作用についても学習する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 各疾患の治療法や栄養・食事支援について基礎的な事項を理解する。
2. 主要な疾患の病態や心身機能の評価・判定について理解する。
3. 評価判定に基づく栄養補給や栄養教育の方法を理解する。
4. 高齢者や障害者などハンディキャップを有する者への栄養・食事ケアの方法を理解する。
5. 薬剤と栄養・食物の相互作用について基本的な事項を理解する。

内容

1	代謝疾患の栄養管理 (4) 脂質異常症
2	代謝疾患の栄養管理 (5) 高尿酸血症・痛風
3	代謝疾患の栄養管理 (6) 代謝疾患症例の栄養管理
4	内分泌疾患の栄養管理
5	循環器疾患の栄養管理 (1) 動脈硬化症、高血圧症
6	循環器疾患の栄養管理 (2) 虚血性心疾患
7	循環器疾患の栄養管理 (3) 心不全
8	循環器疾患の栄養管理 (4) 循環器疾患症例の栄養管理
9	神経疾患の栄養管理
10	摂食・嚥下機能障害の栄養管理
11	摂食障害の栄養管理
12	身体・知的障害の栄養管理
13	老年症候群の栄養管理
14	薬剤と栄養・食物の相互作用
15	まとめ

評価

小テスト30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 学習する疾患の成因、病態、一般的治療法、関連臓器の構造や機能などについて、これまでに学んだ関連科目を復習する。 学習予定範囲の教科書を読んでおく。

【事後学修】 学習した内容を教科書で再確認し、まとめノートを作成する。小テストや定期試験の準備とともに、管理栄養士国家試験対策にも繋がる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 (1) 佐藤和人・本間健・小松龍史編『エッセンシャル臨床栄養学第7版』（医歯薬出版株式会社）、(2) 竹田津文俊著『病態生理基礎のキソ第2版 絵で見てわかる病気のしくみ』（学研メディカル秀潤社）、(3) 松崎政三・福井富雄・田中明編『改訂 臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社）

【推薦書】 日本糖尿病学会編『糖尿病治療ガイド2014-2015』（文光堂）、渡邊早苗・松崎政三・寺本房子編著『Nブックス三訂 臨床栄養管理』（建帛社）、奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】 医学情報科学研究所編『病気がみえるvol.2循環器 第3版』（メディックメディア）

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、臨床栄養学 と同様に管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目であり、臨床栄養の現場でチーム医療の一翼を担うことができる管理栄養士の養成を目標としている。また、栄養と疾患の関連を理解し、傷病者・要介護者の栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の能力を養うことを目的としている。

3年次までに履修した専門科目や臨床栄養学 ・ などを踏まえて本科目を理解することが必要である。また、後期に実施する臨床栄養学 、臨床栄養学実習 および臨床栄養臨地実習に繋がる科目である。

科目の概要

臨床栄養学 では、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、咀嚼・嚥下障害、摂食機能障害、身体知的障害における栄養管理とともに薬剤と栄養・食物の相互作用についても学習する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 各疾患の治療法や栄養・食事支援について基礎的な事項を理解する。
2. 主要な疾患の病態や心身機能の評価・判定について理解する。
3. 評価判定に基づく栄養補給や栄養教育の方法を理解する。
4. 高齢者や障害者などハンディキャップを有する者への栄養・食事ケアの方法を理解する。
5. 薬剤と栄養・食物の相互作用について基本的な事項を理解する。

内容

1	代謝疾患の栄養管理 (4) 脂質異常症
2	代謝疾患の栄養管理 (5) 高尿酸血症・痛風
3	代謝疾患の栄養管理 (6) 代謝疾患症例の栄養管理
4	内分泌疾患の栄養管理
5	循環器疾患の栄養管理 (1) 動脈硬化症、高血圧症
6	循環器疾患の栄養管理 (2) 虚血性心疾患
7	循環器疾患の栄養管理 (3) 心不全
8	循環器疾患の栄養管理 (4) 循環器疾患症例の栄養管理
9	神経疾患の栄養管理
10	摂食・嚥下機能障害の栄養管理
11	摂食障害の栄養管理
12	身体・知的障害の栄養管理
13	老年症候群の栄養管理
14	薬剤と栄養・食物の相互作用
15	まとめ

評価

小テスト30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 学習する疾患の成因、病態、一般的治療法、関連臓器の構造や機能などについて、これまでに学んだ関連科目を復習する。 学習予定範囲の教科書を読んでおく。

【事後学修】 学習した内容を教科書で再確認し、まとめノートを作成する。小テストや定期試験の準備とともに、管理栄養士国家試験対策にも繋がる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 (1) 佐藤和人・本間健・小松龍史編『エッセンシャル臨床栄養学第7版』（医歯薬出版株式会社）、(2) 竹田津文俊著『病態生理基礎のキソ第2版 絵で見てわかる病気のしくみ』（学研メディカル秀潤社）、(3) 松崎政三・福井富雄・田中明編『改訂 臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社）

【推薦書】 日本糖尿病学会編『糖尿病治療ガイド2014-2015』（文光堂）、渡邊早苗・松崎政三・寺本房子編著『Nブックス三訂 臨床栄養管理』（建帛社）、奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】 医学情報科学研究所編『病気がみえるvol.2循環器 第3版』（メディックメディア）

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる。疾患・病態別、ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントを実施するための能力を養うための科目であり、臨床栄養臨地実習 の基礎となる。

科目の概要

疾患・病態別、ライフステージ別に病気の原因や生理的特徴、栄養代謝異常を理解したうえで、疾患・病態に応じた適切な栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。さらに、栄養食事療法のケアプランの作成方法について症例を用いて検討し、理解を深める。

学修目標

1. 疾患の概要や病態と栄養との関連について理解する。
2. 疾患・病態別の栄養アセスメントについて理解する。
3. 疾患や病態に対応した適正な栄養食事療法について理解する。

内容

1	腎臓疾患(1) 急性腎炎, 急性腎不全, ネフローゼ症候群の病態と栄養ケア・マネジメント
2	腎臓疾患(2) 慢性腎臓病, 糖尿病腎症の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
3	腎臓疾患(3) 透析の栄養ケア・マネジメント
4	呼吸器系の疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
5	血液疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
6	筋・骨格疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
7	免疫・アレルギー疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
8	感染症の病態と栄養ケア・マネジメント
9	癌の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
10	癌の末期医療(ターミナルケア)の病態と栄養ケア・マネジメント
11	周術期患者の管理(1) 術前・術後の栄養ケア・マネジメント
12	周術期患者の管理(2) 周術期患者の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
13	クリティカルケア 侵襲期の代謝変動, 熱傷の病態と栄養ケア・マネジメント
14	小児疾患の病態と栄養ケア・マネジメント
15	まとめ

評価

中間テスト(40%), 期末テスト(60%)により評価を行い, 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む（30分）。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する（40分）。

プリントの練習問題を行う（20分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，松崎政三 編『Nブックス 三訂 臨床栄養管理』建帛社

佐藤和人，本間 健，小松龍史 編『臨床栄養学 第7版』 医歯薬出版

奈良信雄 著『臨床検査ハンドブック 第4版』医歯薬出版

【推薦書】 竹田津 文敏 著『病態生理基礎のキソ 第2版』学研

中村丁次，小松龍史，杉山みち子，川島由起子 編 『臨床栄養学』南江堂

【参考図書】大熊利忠，金谷節子 編『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる。疾患・病態別、ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントを実施するための能力を養うための科目であり、臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる。

科目の概要

疾患・病態別、ライフステージ別に病気の原因や生理的特徴、栄養代謝異常を理解したうえで、疾患・病態に応じた適切な栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。さらに、栄養食事療法のケアプランの作成方法について症例を用いて検討し、理解を深める。

学修目標

1. 疾患の概要や病態と栄養との関連について理解する。
2. 疾患・病態別の栄養アセスメントについて理解する。
3. 疾患や病態に対応した適正な栄養食事療法について理解する。

内容

1	腎臓疾患(1) 急性腎炎, 急性腎不全, ネフローゼ症候群の病態と栄養ケア・マネジメント
2	腎臓疾患(2) 慢性腎臓病, 糖尿病腎症の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
3	腎臓疾患(3) 透析の栄養ケア・マネジメント
4	呼吸器系の疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
5	血液疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
6	筋・骨格疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
7	免疫・アレルギー疾患の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
8	感染症の病態と栄養ケア・マネジメント
9	癌の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
10	癌の末期医療(ターミナルケア)の病態と栄養ケア・マネジメント
11	周術期患者の管理(1) 術前・術後の栄養ケア・マネジメント
12	周術期患者の管理(2) 周術期患者の病態と治療, 栄養ケア・マネジメント
13	クリティカルケア 侵襲期の代謝変動, 熱傷の病態と栄養ケア・マネジメント
14	小児疾患の病態と栄養ケア・マネジメント
15	まとめ

評価

中間テスト(40%), 期末テスト(60%)により評価を行い, 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む(30分)。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する（40分）。
プリントの練習問題を行う（20分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，松崎政三 編『Nブックス 三訂 臨床栄養管理』建帛社
佐藤和人，本間 健，小松龍史 編『臨床栄養学 第7版』 医歯薬出版
奈良信雄 著『臨床検査ハンドブック 第4版』医歯薬出版
- 【推薦書】 竹田津 文敏 著『病態生理基礎のキソ 第2版』学研
中村丁次，小松龍史，杉山みち子，川島由起子 編 『臨床栄養学』南江堂
- 【参考図書】大熊利忠，金谷節子 編『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、講義科目である臨床栄養学とともに試験科目の一つである「臨床栄養学」を構成している。臨床栄養学で学んだ理論を基礎に、栄養アセスメントに基づく適切な栄養補給の方法、栄養・食事計画立案の技術を学び、治療食の調製および供食などを通して、病状や栄養状態に対応した栄養ケアプランの作成力を身につけるとともに、患者情報の収集や臨床栄養教育計画案の作成と実施など臨床現場で必要とされる技術の習得を目指す。

科目の概要

本科目は演習と実習からなる。演習では、臨床現場における治療食献立作成手法、症例に対応した栄養食事計画の作成、糖尿病食品交換表を活用した食事記録の評価および食生活情報の把握・集団栄養食事指導の実際（ロールプレイ）を学ぶ。また、治療食調製実習では、一般治療食分粥、易消化食、エネルギーコントロール食、ナトリウムコントロール食および脂質コントロール食を実施する。

学修目標（＝到達目標）

1. 献立展開の手法を用いて各種治療食献立を作成することができる。
2. 糖尿病食品交換表を用いた食事記録の評価と献立計画を作成することができる。
3. 症例に対応した栄養ケア計画を作成することができる。
4. 基本的な疾患について、集団栄養食事指導計画の作成と指導を実際に行うことができる。

内容

1	演習：一般治療食の献立展開
2	実習：栄養アセスメント（ベッドサイドにおける身体計測）
3	演習：流動食・経管栄養法の実際
4	実習：経口栄養法（一般治療食軟食）
5	演習：特別治療食への献立展開（エネルギーコントロール食）、食品交換表の使い方
6	実習：エネルギーコントロール食の調製
7	演習：症例に対応した献立計画（ 型糖尿病患者）
8	演習：患者食事情報の聞き取りの実際 ロールプレイ
9	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成（1）
10	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成（2）
11	実習：特別治療食への献立展開（2）〔ナトリウムコントロール食の調製〕
12	演習：「集団栄養食事指導」の実施（1） ロールプレイ
13	演習：「集団栄養食事指導」の実施（2） ロールプレイ
14	実習：特別治療食への献立展開（3）〔脂質コントロール食の調製〕
15	まとめ

評価

講義で学んだ知識を技術として展開できることが評価基準の一つとなるため、定期試験60%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 給食経営管理論における健康人の栄養管理、献立作成、衛生管理などを復習する。

栄養ケア計画の対象疾患について病態、食事療法、栄養指導内容等をまとめる。

【事後学修】 教科書以外にも文献や資料を収集し、読み取れることを自分なりにまとめる。

情報をさまざまな角度から検討し、必要なものを抽出し、課題作成に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】(1) 渡邊早苗・寺本房子・笠原賀子・松崎政三編『新しい臨床栄養管理 第3版』（医歯薬出版）、(2) 芦川修貳・服部富子・古畑公編『栄養士になるための臨床栄養学実習 食事療養実務入門』第5版』（学建書院）、(3) 芦川修貳・田中弘之・古畑公編『よくわかる病気のときの食事と生活』（ちょうえい出版）、(4) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』第7版（文光堂）

【推薦書】宗像伸子編『カラー版 一品料理500選治療食への展開 第2版』（医歯薬出版）

奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】適宜教室で紹介する。

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、講義科目である臨床栄養学とともに試験科目の一つである「臨床栄養学」を構成している。臨床栄養学で学んだ理論を基礎に、栄養アセスメントに基づく適切な栄養補給の方法、栄養・食事計画立案の技術を学び、治療食の調製および供食などを通して、病状や栄養状態に対応した栄養ケアプランの作成力を身につけるとともに、患者情報の収集や臨床栄養教育計画案の作成と実施など臨床現場で必要とされる技術の習得を目指す。

科目の概要

本科目は演習と実習からなる。演習では、臨床現場における治療食献立作成手法、症例に対応した栄養食事計画の作成、糖尿病食品交換表を活用した食事記録の評価および食生活情報の把握・集団栄養食事指導の実際 (ロールプレイ) を学ぶ。また、治療食調製実習では、一般治療食分粥、易消化食、エネルギーコントロール食、ナトリウムコントロール食および脂質コントロール食を実施する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 献立展開の手法を用いて各種治療食献立を作成することができる。
2. 糖尿病食品交換表を用いた食事記録の評価と献立計画を作成することができる。
3. 症例に対応した栄養ケア計画を作成することができる。
4. 基本的な疾患について、集団栄養食事指導計画の作成と指導を実際に行うことができる。

内容

1	演習：一般治療食の献立展開
2	実習：栄養アセスメント (ベッドサイドにおける身体計測)
3	演習：流動食・経管栄養法の実際
4	実習：経口栄養法 (一般治療食軟食)
5	演習：特別治療食への献立展開 (エネルギーコントロール食)、食品交換表の使い方
6	実習：エネルギーコントロール食の調製
7	演習：症例に対応した献立計画 (型糖尿病患者)
8	演習：患者食事情報の聞き取りの実際 ロールプレイ
9	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成 (1)
10	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成 (2)
11	実習：特別治療食への献立展開 (2) [ナトリウムコントロール食の調製]
12	演習：「集団栄養食事指導」の実施 (1) ロールプレイ
13	演習：「集団栄養食事指導」の実施 (2) ロールプレイ
14	実習：特別治療食への献立展開 (3) [脂質コントロール食の調製]
15	まとめ

評価

講義で学んだ知識を技術として展開できることが評価基準の一つとなるため、定期試験60%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 給食経営管理論における健康人の栄養管理、献立作成、衛生管理などを復習する。

栄養ケア計画の対象疾患について病態、食事療法、栄養指導内容等をまとめる。

【事後学修】 教科書以外にも文献や資料を収集し、読み取れることを自分なりにまとめる。

情報をさまざまな角度から検討し、必要なものを抽出し、課題作成に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】(1) 渡邊早苗・寺本房子・笠原賀子・松崎政三編『新しい臨床栄養管理 第3版』（医歯薬出版）、(2) 芦川修貳・服部富子・古畑公編『栄養士になるための臨床栄養学実習 食事療養実務入門』第5版』（学建書院）、(3) 芦川修貳・田中弘之・古畑公編『よくわかる病気のときの食事と生活』（ちょうえい出版）、(4) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』第7版（文光堂）

【推薦書】宗像伸子編『カラー版 一品料理500選治療食への展開 第2版』（医歯薬出版）

奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】適宜教室で紹介する。

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、講義科目である臨床栄養学とともに試験科目の一つである「臨床栄養学」を構成している。臨床栄養学で学んだ理論を基礎に、栄養アセスメントに基づく適切な栄養補給の方法、栄養・食事計画立案の技術を学び、治療食の調製および供食などを通して、病状や栄養状態に対応した栄養ケアプランの作成力を身につけるとともに、患者情報の収集や臨床栄養教育計画案の作成と実施など臨床現場で必要とされる技術の習得を目指す。

科目の概要

本科目は演習と実習からなる。演習では、臨床現場における治療食献立作成手法、症例に対応した栄養食事計画の作成、糖尿病食品交換表を活用した食事記録の評価および食生活情報の把握・集団栄養食事指導の実際（ロールプレイ）を学ぶ。また、治療食調製実習では、一般治療食分粥、易消化食、エネルギーコントロール食、ナトリウムコントロール食および脂質コントロール食を実施する。

学修目標（＝到達目標）

1. 献立展開の手法を用いて各種治療食献立を作成することができる。
2. 糖尿病食品交換表を用いた食事記録の評価と献立計画を作成することができる。
3. 症例に対応した栄養ケア計画を作成することができる。
4. 基本的な疾患について、集団栄養食事指導計画の作成と指導を実際に行うことができる。

内容

1	演習：一般治療食の献立展開
2	実習：栄養アセスメント（ベッドサイドにおける身体計測）
3	演習：流動食・経管栄養法の実際
4	実習：経口栄養法（一般治療食軟食）
5	演習：特別治療食への献立展開（エネルギーコントロール食）、食品交換表の使い方
6	実習：エネルギーコントロール食の調製
7	演習：症例に対応した献立計画（ 型糖尿病患者）
8	演習：患者食事情報の聞き取りの実際 ロールプレイ
9	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成（1）
10	演習：臨床栄養教育計画「集団栄養食事指導」計画案の作成（2）
11	実習：特別治療食への献立展開（2）〔ナトリウムコントロール食の調製〕
12	演習：「集団栄養食事指導」の実施（1） ロールプレイ
13	演習：「集団栄養食事指導」の実施（2） ロールプレイ
14	実習：特別治療食への献立展開（3）〔脂質コントロール食の調製〕
15	まとめ

評価

講義で学んだ知識を技術として展開できることが評価基準の一つとなるため、定期試験60%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 給食経営管理論における健康人の栄養管理、献立作成、衛生管理などを復習する。

栄養ケア計画の対象疾患について病態、食事療法、栄養指導内容等をまとめる。

【事後学修】 教科書以外にも文献や資料を収集し、読み取れることを自分なりにまとめる。

情報をさまざまな角度から検討し、必要なものを抽出し、課題作成に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】(1) 渡邊早苗・寺本房子・笠原賀子・松崎政三編『新しい臨床栄養管理 第3版』（医歯薬出版）、(2) 芦川修貳・服部富子・古畑公編『栄養士になるための臨床栄養学実習 食事療養実務入門』第5版』（学建書院）、(3) 芦川修貳・田中弘之・古畑公編『よくわかる病気のときの食事と生活』（ちょうえい出版）、(4) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』第7版（文光堂）

【推薦書】宗像伸子編『カラー版 一品料理500選治療食への展開 第2版』（医歯薬出版）

奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版』（医歯薬出版株式会社）

【参考図書】適宜教室で紹介する。

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる。医療チームの一員として「傷病者における栄養ケア・マネジメント」を適正かつ効率的に実践化するための具体的な手法について理解し習得するための科目であり、臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる。

科目の概要

栄養アセスメントに基づいた栄養補給法および栄養必要量、栄養食事内容の検討から患者への栄養教育にいたるまでの流れを理解し、栄養ケアプランの作成、治療食の実施、評価へと展開させる。病態や栄養状態に対応した栄養ケア・マネジメントを実施する技術を学ぶ。

学修目標

1. 症例検討における傷病者の栄養状態を評価できる。
2. 傷病者の栄養アセスメントの結果に基づいた栄養ケアプランが作成できる。
3. 傷病者の病態に対応した栄養教育を実施できる。
4. 問題志向型診療記録の作成、叙事的記録(SOAP)に基づいた栄養カルテの記載ができる。
5. 要介護レベルに対応した栄養ケア・マネジメントができる。

内容

1	栄養スクリーニング 症例の主観的包括的評価
2	栄養アセスメント(1) 臨床検査からの栄養状態および病態の評価
3	栄養ケアプランの作成
4	糖尿病の栄養ケア・マネジメント 治療食の調製と評価
5	脂質異常症の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
6	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(1) 症例のアセスメント、ケアプランの作成
7	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(2) 治療食の調製と評価
8	慢性腎不全・透析期の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
9	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
10	個別栄養食事指導の計画
11	嚥下障害者の栄養ケア・マネジメント 栄養治療計画に基づいた治療食の調製と評価
12	経腸栄養、静脈栄養の種類と管理 症例の栄養補給法の検討
13	個別栄養食事指導のロールプレイ(1) 1~7班の発表
14	個別栄養食事指導のロールプレイ(2) 8~14班の発表
15	まとめ

評価

実習への取組姿勢(20%)、課題レポート(30%)、期末テスト(50%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめる。授業で出された課題を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，笠原賀子 他編 『新しい臨床栄養管理 第3版』医歯薬出版

浅野誠一・吉利和監修 『腎臓病食品交換表 第8版』 医歯薬出版

佐藤和人，本間 健，小松龍史 編 『臨床栄養学 第7版』 医歯薬出版

奈良信雄 著 『臨床検査ハンドブック 第5版』 医歯薬出版

【推薦書】 本田佳子 編 『栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント 第9版』

本田佳子，松崎政三 編 『症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト』医歯薬出版

【参考著書】大熊利忠，金谷節子 編 『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる。医療チームの一員として「傷病者における栄養ケア・マネジメント」を適正かつ効率的に実践化するための具体的な手法について理解し習得するための科目であり、臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる。

科目の概要

栄養アセスメントに基づいた栄養補給法および栄養必要量、栄養食事内容の検討から患者への栄養教育にいたるまでの流れを理解し、栄養ケアプランの作成、治療食の実施、評価へと展開させる。病態や栄養状態に対応した栄養ケア・マネジメントを実施する技術を学ぶ。

学修目標

1. 症例検討における傷病者の栄養状態を評価できる。
2. 傷病者の栄養アセスメントの結果に基づいた栄養ケアプランが作成できる。
3. 傷病者の病態に対応した栄養教育を実施できる。
4. 問題志向型診療記録の作成、叙事的記録(SOAP)に基づいた栄養カルテの記載ができる。
5. 要介護レベルに対応した栄養ケア・マネジメントができる。

内容

1	栄養スクリーニング 症例の主観的包括的評価
2	栄養アセスメント(1) 臨床検査からの栄養状態および病態の評価
3	栄養ケアプランの作成
4	糖尿病の栄養ケア・マネジメント 治療食の調製と評価
5	脂質異常症の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
6	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(1) 症例のアセスメント、ケアプランの作成
7	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(2) 治療食の調製と評価
8	慢性腎不全・透析期の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
9	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント、ケアプランの作成
10	個別栄養食事指導の計画
11	嚥下障害者の栄養ケア・マネジメント 栄養治療計画に基づいた治療食の調製と評価
12	経腸栄養、静脈栄養の種類と管理 症例の栄養補給法の検討
13	個別栄養食事指導のロールプレイ(1) 1~7班の発表
14	個別栄養食事指導のロールプレイ(2) 8~14班の発表
15	まとめ

評価

実習への取組姿勢(20%)、課題レポート(30%)、期末テスト(50%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめる。授業で出された課題を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，笠原賀子 他編 『新しい臨床栄養管理 第3版』医歯薬出版

浅野誠一・吉利和監修 『腎臓病食品交換表 第8版』 医歯薬出版

佐藤和人，本間 健，小松龍史 編 『臨床栄養学 第7版』 医歯薬出版

奈良信雄 著 『臨床検査ハンドブック 第5版』 医歯薬出版

【推薦書】 本田佳子 編 『栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント 第9版』

本田佳子，松崎政三 編 『症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト』医歯薬出版

【参考著書】大熊利忠，金谷節子 編 『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	臨床栄養学実習		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格を得るために必要となる。医療チームの一員として「傷病者における栄養ケア・マネジメント」を適正かつ効率的に実践化するための具体的な手法について理解し習得するための科目であり、臨床栄養臨地実習 ・ の基礎となる。

科目の概要

栄養アセスメントに基づいた栄養補給法および栄養必要量、栄養食事内容の検討から患者への栄養教育にいたるまでの流れを理解し、栄養ケアプランの作成、治療食の実施、評価へと展開させる。病態や栄養状態に対応した栄養ケア・マネジメントを実施する技術を学ぶ。

学修目標

1. 症例検討における傷病者の栄養状態を評価できる。
2. 傷病者の栄養アセスメントの結果に基づいた栄養ケアプランが作成できる。
3. 傷病者の病態に対応した栄養教育を実施できる。
4. 問題志向型診療記録の作成、叙事的記録(SOAP)に基づいた栄養カルテの記載ができる。
5. 要介護レベルに対応した栄養ケア・マネジメントができる。

内容

1	栄養スクリーニング 症例の主観的包括的評価
2	栄養アセスメント(1) 臨床検査からの栄養状態および病態の評価
3	栄養ケアプランの作成
4	糖尿病の栄養ケア・マネジメント 治療食の作成と評価
5	脂質異常症の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント, ケアプランの作成
6	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(1) 症例のアセスメント, ケアプランの作成
7	慢性腎臓病の栄養ケア・マネジメント(2) 治療食の作成と評価
8	慢性腎不全・透析期の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント, ケアプランの作成
9	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 症例のアセスメント, ケアプランの作成
10	個別栄養食事指導の計画
11	嚥下障害者の栄養ケア・マネジメント 栄養治療計画に基づいた治療食の実施と評価
12	経腸栄養, 静脈栄養の種類と管理 症例の栄養補給法の検討
13	個別栄養食事指導のロールプレイ(1) 1~7班の発表
14	個別栄養食事指導のロールプレイ(2) 8~14班の発表
15	まとめ

評価

実習への取組姿勢(20%), 課題レポート(30%), 期末テスト(50%)により評価を行い, 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめる。授業で出された課題を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 渡邊早苗，寺本房子，笠原賀子 他編 『新しい臨床栄養管理 第3版』医歯薬出版

浅野誠一・吉利和監修 『腎臓病食品交換表 第8版』 医歯薬出版

佐藤和人，本間 健，小松龍史 編 『臨床栄養学 第7版』 医歯薬出版

奈良信雄 著 『臨床検査ハンドブック 第5版』 医歯薬出版

【推薦書】 本田佳子 編 『栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント 第9版』

本田佳子，松崎政三 編 『症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト』医歯薬出版

【参考著書】大熊利忠，金谷節子 編 『キーワードでわかる臨床栄養 改定版』羊土社

科目名	公衆栄養学		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、卒業必修科目で、公衆栄養学、公衆栄養学実習とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する保健所や保健センターで働く行政栄養士の業務について学ぶ。学修目標は、地域や職域などの健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合して評価・判定する能力を養う。保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

内容

1	公衆栄養の概念
2	公衆栄養活動
3	社会環境と健康・栄養問題
4	健康状態・食事・食生活の変化
5	食環境の変化
6	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題
7	わが国の公衆栄養活動
8	公衆栄養関連法規 (地域保健法・健康増進法)
9	公衆栄養関連法規 (食育基本法・その他の法規)
10	わが国の管理栄養士・栄養士制度
11	国民健康・栄養調査
12	指針・ツール (食生活指針・食事バランスガイド)
13	国の健康増進基本方針と地方計画
14	諸外国の健康・栄養政策
15	まとめ

評価

学修目標に基づくペーパーテスト (80点)、通常の授業態度 (20点) により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。授業用パワーポイントを印刷しておく。

【事後学修】配布プリントにより、学習内容を復習し、教科書を参考にしながら、配布した復習ミニテストをやる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】八倉巻和子・井上浩一ほか 『公衆栄養学』 建帛社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士 / 健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、卒業必修科目で、公衆栄養学、公衆栄養学実習とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する保健所や保健センターで働く行政栄養士の業務について学ぶ。学修目標は、地域や職域などの健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合して評価・判定する能力を養う。保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

内容

1	公衆栄養の概念
2	公衆栄養活動
3	社会環境と健康・栄養問題
4	健康状態・食事・食生活の変化
5	食環境の変化
6	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題
7	わが国の公衆栄養活動
8	公衆栄養関連法規 (地域保健法・健康増進法)
9	公衆栄養関連法規 (食育基本法・その他の法規)
10	わが国の管理栄養士・栄養士制度
11	国民健康・栄養調査
12	指針・ツール (食生活指針・食事バランスガイド)
13	国の健康増進基本方針と地方計画
14	諸外国の健康・栄養政策
15	まとめ

評価

学修目標に基づくペーパーテスト (80点)、通常の授業態度 (20点) により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。授業用パワーポイントを印刷しておく。

【事後学修】配布プリントにより、学習内容を復習し、教科書を参考にしながら、配布した復習ミニテストをやる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】八倉巻和子・井上浩一ほか 『公衆栄養学』 建帛社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、公衆栄養学、公衆栄養学実習とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する保健所や保健センターで働く行政栄養士の業務について学ぶ。学修目標は、地域や職域などの健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合して評価・判定する能力を養う。保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

内容

1	栄養疫学の概要と役割
2	曝露情報としての食事摂取量
3	食事摂取量の測定方法 (24時間思い出し法と記録法)
4	食事摂取量の測定方法 (食物摂取頻度調査法とその妥当性・再現性)
5	食事摂取量の評価方法 (食事摂取基準、総エネルギー調整栄養素摂取量)
6	公衆栄養マネジメントの考え方
7	公衆栄養アセスメント (アセスメントの目的、食事摂取基準の地域集団への活用)
8	公衆栄養アセスメント (質問調査の方法と活用)
9	公衆栄養プログラムの目標設定
10	公衆栄養プログラムの計画、実施、評価 (運営面、政策面のアセスメント、計画策定)
11	公衆栄養プログラムの計画、実施、評価 (評価の種類・デザイン)
12	地域特性に対応したプログラムの展開
13	食環境づくりのためのプログラムの展開
14	地域集団の特性別プログラムの展開
15	まとめ

評価

学修目標に基づくペーパーテスト (80点)、通常の授業態度 (20点) で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。授業用パワーポイントを印刷しておく。

【事後学修】配布プリントにより、学習内容を復習し、教科書を参考にしながら、配布した復習ミニテストをやる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】八倉巻和子・井上浩一ほか 『公衆栄養学』 建帛社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、公衆栄養学、公衆栄養学実習とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する保健所や保健センターで働く行政栄養士の業務について学ぶ。学修目標は、地域や職域などの健康・栄養問題とそれを取り巻く自然・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合して評価・判定する能力を養う。保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

内容

1	栄養疫学の概要と役割
2	曝露情報としての食事摂取量
3	食事摂取量の測定方法 (24時間思い出し法と記録法)
4	食事摂取量の測定方法 (食物摂取頻度調査法とその妥当性・再現性)
5	食事摂取量の評価方法 (食事摂取基準、総エネルギー調整栄養素摂取量)
6	公衆栄養マネジメントの考え方
7	公衆栄養アセスメント (アセスメントの目的、食事摂取基準の地域集団への活用)
8	公衆栄養アセスメント (質問調査の方法と活用)
9	公衆栄養プログラムの目標設定
10	公衆栄養プログラムの計画、実施、評価 (運営面、政策面のアセスメント、計画策定)
11	公衆栄養プログラムの計画、実施、評価 (評価の種類・デザイン)
12	地域特性に対応したプログラムの展開
13	食環境づくりのためのプログラムの展開
14	地域集団の特性別プログラムの展開
15	まとめ

評価

学修目標に基づくペーパーテスト (80点)、通常の授業態度 (20点) で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。授業用パワーポイントを印刷しておく。

【事後学修】配布プリントにより、学習内容を復習し、教科書を参考にしながら、配布した復習ミニテストをやる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】八倉巻和子・井上浩一ほか 『公衆栄養学』 建帛社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学実習		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、公衆栄養学、とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する行政栄養士の実務について学ぶ。学修目標は、集団のニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を修得する。栄養疫学の理論と方法について、調査デザイン、調査方法、データ収集、統計解析の技法を修得する。文献検索、調査結果のまとめ方、調査報告書の作成方法などに関する実習を通して、地域社会における健康・栄養問題に取り組むことができる実践的な能力を養う。

内容

1	公衆栄養学の考え方と目的
2	公衆栄養学の情報の検索方法
3	公衆栄養施策と食品表示制度
4	栄養調査の種類と具体的な方法
5	健康栄養調査の集計と解析 (基本統計)
6	健康栄養調査の集計と解析 (統計解析)
7	地域診断の進め方
8	公衆栄養プログラム
9	公衆栄養計画と評価
10	公衆栄養事業計画表作成
11	公衆栄養プログラム計画案作成
12	公衆栄養プログラム計画媒体作成
13	公衆栄養プログラムの発表 (前半)
14	公衆栄養プログラムの発表 (後半)
15	まとめ

評価

各課題・レポート提出30点、実習中の受講態度20点、事業計画発表50点で評価を行い 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。

【事後学修】配布プリントに書かれた課題により、レポートを作成する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】上田伸男編 エキスパート管理栄養士養成シリーズ『公衆栄養学実習』 化学同人

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学実習		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、公衆栄養学、とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する行政栄養士の実務について学ぶ。学修目標は、集団のニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を修得する。栄養疫学の理論と方法について、調査デザイン、調査方法、データ収集、統計解析の技法を修得する。文献検索、調査結果のまとめ方、調査報告書の作成方法などに関する実習を通して、地域社会における健康・栄養問題に取り組むことができる実践的な能力を養う。

内容

1	公衆栄養学の考え方と目的
2	公衆栄養学の情報の検索方法
3	公衆栄養施策と食品表示制度
4	栄養調査の種類と具体的な方法
5	健康栄養調査の集計と解析 (基本統計)
6	健康栄養調査の集計と解析 (統計解析)
7	地域診断の進め方
8	公衆栄養プログラム
9	公衆栄養計画と評価
10	公衆栄養事業計画表作成
11	公衆栄養プログラム計画案作成
12	公衆栄養プログラム計画媒体作成
13	公衆栄養プログラムの発表 (前半)
14	公衆栄養プログラムの発表 (後半)
15	まとめ

評価

各課題・レポート提出30点、実習中の受講態度20点、事業計画発表50点で評価を行い 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。

【事後学修】配布プリントに書かれた課題により、レポートを作成する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】上田伸男編 エキスパート管理栄養士養成シリーズ『公衆栄養学実習』 化学同人

【推薦書】

【参考図書】

科目名	公衆栄養学実習		
担当教員名	徳野 裕子、堀井 貴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、公衆栄養学、とともに栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実践する行政栄養士の実務について学ぶ。学修目標は、集団のニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を修得する。栄養疫学の理論と方法について、調査デザイン、調査方法、データ収集、統計解析の技法を修得する。文献検索、調査結果のまとめ方、調査報告書の作成方法などに関する実習を通して、地域社会における健康・栄養問題に取り組むことができる実践的な能力を養う。

内容

1	公衆栄養学の考え方と目的
2	公衆栄養学の情報の検索方法
3	公衆栄養施策と食品表示制度
4	栄養調査の種類と具体的な方法
5	健康栄養調査の集計と解析 (基本統計)
6	健康栄養調査の集計と解析 (統計解析)
7	地域診断の進め方
8	公衆栄養プログラム
9	公衆栄養計画と評価
10	公衆栄養事業計画表作成
11	公衆栄養プログラム計画案作成
12	公衆栄養プログラム計画媒体作成
13	公衆栄養プログラムの発表 (前半)
14	公衆栄養プログラムの発表 (後半)
15	まとめ

評価

各課題・レポート提出30点、実習中の受講態度20点、事業計画発表50点で評価を行い 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでくる。

【事後学修】配布プリントに書かれた課題により、レポートを作成する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】上田伸男編 エキスパート管理栄養士養成シリーズ『公衆栄養学実習』 化学同人

【推薦書】

【参考図書】

科目名	給食経営管理論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門分野：給食経営管理論”に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目 (A) に位置付けられ、栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

科目の概要は、“給食とは何か”そして給食運営におけるマネジメントについて、基礎的な給食経営管理に関する用語の確認、理解、および各給食施設の運営にかかわる法令の確認、理解の上で、給食経営管理に関する基礎的な内容を学びます。給食経営管理におけるマネジメント、栄養・食事管理についてアセスメント、食事計画、実施、評価と改善の一連の流れ、給食の安全・衛生を学びます。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は、次に示す3点です。給食の意義および給食経営管理の概要を理解する事ができる。特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供にかかわる栄養・食事管理を理解する事ができる。給食の運営方法 (衛生管理) とそのマネジメントについて理解する事ができる。いずれも、給食の経営管理を実践するための理解を求めています。

内容

1	給食の概要、給食施設における管理栄養士の役割
2	給食を提供する施設と関連法規 (主に健康増進法に基づく)
3	給食システムの概念、トータルシステムとサブシステム
4	給食経営管理における栄養・食事管理
5	栄養・食事管理とPDCAサイクル
6	栄養・食事の計画 (給与エネルギー量と栄養素量、栄養補給法と食事形態)
7	栄養・食事の計画と実施 (献立作成基準、個別対応の方法)
8	栄養・食事計画の評価と改善
9	給食の安全・衛生の意義 (HACCPについて、大量調理施設衛生管理マニュアル)
10	給食の安全・衛生の実際
11	給食における危機管理対策 (インシデントとアクシデント)
12	給食における災害時対策
13	品質管理の概念
14	給食の品質管理
15	まとめ

評価

学修目標に関する毎回のレポート (20%) と試験 (60%) 、授業への参加度 (20%) により評価を行い、60点以上

を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに示した内容、授業でのアナウンスに基づきテキストの必要な部分を読み、不明な用語（給食経営管理論の専門用語）について調べて、ノートに記述する。

【事後学修】授業で示す学修の目標に合わせたポイントを確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】名倉秀子編著 『給食経営管理論』学文社。

給食経営管理学会監修 『給食経営管理用語辞典』 第一出版

【推薦書】石田裕美・富田教代編 名倉秀子他著，給食経営管理論 医歯薬出版株式会社

松崎政三・君羅満・岩井達編 名倉秀子他著，『Nブック給食経営管理論』建帛社

【参考図書】日本人の食事摂取基準[2015年版]

科目名	給食経営管理論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門分野：給食経営管理論”に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目 (A) に位置付けられ、栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

科目の概要は、“給食とは何か”そして給食運営におけるマネジメントについて、基礎的な給食経営管理に関する用語の確認、理解、および各給食施設の運営にかかわる法令の確認、理解の上で、給食経営管理に関する基礎的な内容を学びます。給食経営管理におけるマネジメント、栄養・食事管理についてアセスメント、食事計画、実施、評価と改善の一連の流れ、給食の安全・衛生を学びます。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は、次に示す3点です。給食の意義および給食経営管理の概要を理解する事ができる。特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供にかかわる栄養・食事管理を理解する事ができる。給食の運営方法 (衛生管理) とそのマネジメントについて理解する事ができる。いずれも、給食の経営管理を実践するための理解を求めています。

内容	
1	給食の概要、給食施設における管理栄養士の役割
2	給食を提供する施設と関連法規 (主に健康増進法に基づく)
3	給食システムの概念、トータルシステムとサブシステム
4	給食経営管理における栄養・食事管理
5	栄養・食事管理とPDCAサイクル
6	栄養・食事の計画 (給与エネルギー量と栄養素量、栄養補給法と食事形態)
7	栄養・食事の計画と実施 (献立作成基準、個別対応の方法)
8	栄養・食事計画の評価と改善
9	給食の安全・衛生の意義 (HACCPについて、大量調理施設衛生管理マニュアル)
10	給食の安全・衛生の実際
11	給食における危機管理対策 (インシデントとアクシデント)
12	給食における災害時対策
13	品質管理の概念
14	給食の品質管理
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (20%) と試験 (60%) ，授業への参加度 (20%) により評価を行い、60点以上を合格

とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに示した内容、授業でのアナウンスに基づきテキストの必要な部分を読み，不明な用語（給食経営管理論の専門用語）について調べて，ノートに記述する。

【事後学修】授業で示す学修の目標に合わせたポイントを確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】名倉秀子編著 『給食経営管理論』学文社。

給食経営管理学会監修 『給食経営管理用語辞典』第一出版

【推薦書】石田裕美・富田教代編 名倉秀子他著，給食経営管理論 医歯薬出版株式会社

松崎政三・君羅満・岩井達編 名倉秀子他著，『Nブック給食経営管理論』建帛社

【参考図書】日本人の食事摂取基準[2015年版]

科目名	給食経営管理論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門分野：給食経営管理論”に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目 (A) に位置付けられ、栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

科目の概要は、“給食とは何か”そして給食経営管理におけるマネジメントについて、基礎的な給食経営に関する専門用語の確認、理解、各給食施設の給食運営にかかわる法令等の確認、理解の上で、給食経営管理に関する基礎的な内容を学びます。給食運営管理におけるマネジメントについて、給食の生産管理、給食の施設や設備、給食に係わる人事や情報など、“人・物・金・情報”の視点から学びます。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は次に示す3点です。給食の意義および給食経営管理の概要を理解する事ができる。特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状態、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供にかかわる栄養・食事管理を理解する事ができる。給食の運営方法とそのマネジメントについて理解する事ができる。いずれも、給食の経営管理を実践するための理解を求めています。

内容	
1	給食の運営に係わるマネジメント
2	給食を提供する施設と関連法規 (各施設別による)
3	給食の経営管理の概要
4	給食とマーケティング
5	給食経営と組織
6	給食の生産管理とは (ロジスティクスについて)
7	給食の生産管理 (食材, 流通, 在庫)
8	給食の生産管理 (オペレーション, 生産計画)
9	給食の生産管理 (大量調理の調理科学)
10	給食の会計管理 (原価, 財務諸表)
11	生産施設の概要, 設備設計 (関連法規を含む)
12	食事環境の設計と設備
13	給食業務従事者の人事関連業務
14	給食経営管理のための事務業務
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (20%) と試験 (60%) , 通常の授業態度 (20%) により評価し, 60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】シラバスに示した内容、授業でのアナウンスに基づきテキストの必要な部分を読み、不明な用語（給食経営管理論の専門用語）について調べて、ノートに記述する。

【事後学修】授業で示す学修の目標に合わせたポイントを確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石田裕美・富田教代編 名倉秀子著『給食経営管理論』医歯薬出版株式会社

【推薦書】名倉秀子編著『給食経営管理論』学文社

殿塚婦美子編，『大量調理』学建書院

松崎政三・君羅満・岩井達編 名倉秀子他著，『Nブック給食経営管理論』建帛社

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	給食経営管理論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門分野：給食経営管理論”に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目 (A) に位置付けられ、栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

科目の概要は、“給食とは何か”そして給食経営管理におけるマネジメントについて、基礎的な給食経営に関する専門用語の確認、理解、各給食施設の給食運営にかかわる法令等の確認、理解の上で、給食経営管理に関する基礎的な内容を学びます。給食運営管理におけるマネジメントについて、給食の生産管理、給食の施設や設備、給食に係わる人事や情報など、“人・物・金・情報”の視点から学びます。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は次に示す3点です。給食の意義および給食経営管理の概要を理解する事ができる。特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状態、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供にかかわる栄養・食事管理を理解する事ができる。給食の運営方法とそのマネジメントについて理解する事ができる。いずれも、給食の経営管理を実践するための理解を求めています。

内容	
1	給食の運営に係わるマネジメント
2	給食を提供する施設と関連法規 (各施設別による)
3	給食の経営管理の概要
4	給食とマーケティング
5	給食経営と組織
6	給食の生産管理とは (ロジスティクスについて)
7	給食の生産管理 (食材, 流通, 在庫)
8	給食の生産管理 (オペレーション, 生産計画)
9	給食の生産管理 (大量調理の調理科学)
10	給食の会計管理 (原価, 財務諸表)
11	生産施設の概要, 設備設計 (関連法規を含む)
12	食事環境の設計と設備
13	給食業務従事者の人事関連業務
14	給食経営管理のための事務業務
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート (20%) と試験 (60%) , 授業への参加度 (20%) により評価し, 60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】シラバスに示した内容、授業でのアナウンスに基づきテキストの必要な部分を読み、不明な用語（給食経営管理論の専門用語）について調べて、ノートに記述する。

【事後学修】授業で示す学修の目標に合わせたポイントを確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石田裕美・富田教代編 名倉秀子著『給食経営管理論』医歯薬出版株式会社

【推薦書】名倉秀子編著『給食経営管理論』学文社

殿塚婦美子編，『大量調理』学建書院

松崎政三・君羅満・岩井達編 名倉秀子他著，『Nブック給食経営管理論』建帛社

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	給食経営管理論実習		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門分野：給食経営管理論における実験又は実習"に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目に位置づけられています。栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

給食経営管理論で学んだ知識を基礎として、給食サービスである栄養・食事計画、その実施、そして評価および改善を学生自らがを行い、給食経営管理者に必要な調和と責任感、他人の立場への配慮などの円滑な人間関係を、実践的、総合的に学ぶ実習内容です。栄養・食事管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事・労務管理、会計管理、生産管理、品質管理などの知識と技術を体験的に理解することができます。グループごとに運営計画、給食実施、給食運営や経営の評価を行い、一連の流れを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

実践的な給食運営管理の実習を通して、給食の運営方法とそのマネジメントについて理解することができ、臨地実習として各給食施設の現場で管理栄養士、栄養士がどのような運営方法を実施しているのかを理解できる能力を身につけることす

。

内容	
1	オリエンテーション (実習内容についての概要)
2	給食による栄養・食事管理 (栄養・食事のアセスメント、栄養・食事計画)
3	給食による栄養・食事管理 (献立計画、食材料購入計画、運営計画)
4	給食による栄養・食事計画の実施
5	給食の提供、サービスの実際
6	給食の提供、サービスによる評価と改善
7	給食におけるPDCAの検討
8	給食経営管理における人事管理
9	給食経営管理における原価管理
10	給食経営管理における栄養・食事管理
11	給食経営管理における事務管理
12	給食施設における安全・衛生管理、施設・設備管理
13	給食におけるオペレーション
14	給食施設での生産管理
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（20点）、テスト（40点）および学習に対する取り組み状況（40点）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書、参考書を読んでおくこと。大量調理施設衛生管理マニュアルを憶えておくこと。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】殿塚婦美子・三好恵子編著 名倉秀子他共著 『給食運営管理実習・学内編』 建帛社

【参考図書】殿塚婦美子編 三好恵子他共著 『大量調理』 学建書院、吉田勉監修 名倉秀子編著 『食物と栄養学基礎シリーズ12 給食経営管理論』 学文社

【推薦書】宮澤節子・太田美穂編著 『ニューコーディネートのための食材別料理集』 同文書院

科目名	給食経営管理論実習		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門分野：給食経営管理論における実験又は実習"に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目に位置づけられています。栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

給食経営管理論で学んだ知識を基礎として、給食サービスである栄養・食事計画、その実施、そして評価および改善を学生自らがを行い、給食経営管理者に必要な調和と責任感、他人の立場への配慮などの円滑な人間関係を、実践的、総合的に学ぶ実習内容です。栄養・食事管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事・労務管理、会計管理、生産管理、品質管理などの知識と技術を体験的に理解することができます。グループごとに運営計画、給食実施、給食運営や経営の評価を行い、一連の流れを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

実践的な給食運営管理の実習を通して、給食の運営方法とそのマネジメントについて理解することができ、臨地実習として各給食施設の現場で管理栄養士、栄養士がどのような運営方法を実施しているかを理解できる能力を身につけることです。

内容

1	オリエンテーション (実習内容についての概要)
2	給食による栄養・食事管理 (栄養・食事のアセスメント、栄養・食事計画)
3	給食による栄養・食事管理 (献立計画、食材料購入計画、運営計画)
4	給食による栄養・食事計画の実施
5	給食の提供、サービスの実際
6	給食の提供、サービスによる評価と改善
7	給食におけるPDCAの検討
8	給食経営管理における人事管理
9	給食経営管理における原価管理
10	給食経営管理における栄養・食事管理
11	給食経営管理における事務管理
12	給食施設における安全・衛生管理、施設・設備管理
13	給食におけるオペレーション
14	給食施設での生産管理
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（20点）、テスト（40点）および学習に対する取り組み状況（40点）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書、参考書を読んでおくこと。大量調理施設衛生管理マニュアルを憶えておくこと。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】殿塚婦美子・三好恵子編著 名倉秀子他共著『給食運営管理実習・学内編』建帛社

【参考図書】殿塚婦美子編 三好恵子他共著『大量調理』学建書院、吉田勉監修 名倉秀子編著『食物と栄養学基礎シリーズ12 給食経営管理論』学文社

【推薦書】宮澤節子・太田美穂編著『ニューコーディネートのための食材別料理集』同文書院

科目名	給食経営管理論実習		
担当教員名	岡本 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける"専門分野：給食経営管理論における実験又は実習"に関する科目の一つであり、食物栄養学科専門教育科目に位置づけられています。栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには履修しなければなりません。

科目の概要

給食経営管理論で学んだ知識を基礎として、給食サービスである栄養・食事計画、その実施、そして評価および改善を学生自らがを行い、給食経営管理者に必要な調和と責任感、他人の立場への配慮などの円滑な人間関係を、実践的、総合的に学ぶ実習内容です。栄養・食事管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事・労務管理、会計管理、生産管理、品質管理などの知識と技術を体験的に理解することができます。グループごとに運営計画、給食実施、給食運営や経営の評価を行い、一連の流れを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

実践的な給食運営管理の実習を通して、給食の運営方法とそのマネジメントについて理解することができ、臨地実習として各給食施設の現場で管理栄養士、栄養士がどのような運営方法を実施しているかを理解できる能力を身につけることです。

内容	
1	オリエンテーション (実習内容についての概要)
2	給食による栄養・食事管理 (栄養・食事のアセスメント、栄養・食事計画)
3	給食による栄養・食事管理 (献立計画、食材料購入計画、運営計画)
4	給食による栄養・食事計画の実施
5	給食の提供、サービスの実際
6	給食の提供、サービスによる評価と改善
7	給食におけるPDCAの検討
8	給食経営管理における人事管理
9	給食経営管理における原価管理
10	給食経営管理における栄養・食事管理
11	給食経営管理における事務管理
12	給食施設における安全・衛生管理、施設・設備管理
13	給食におけるオペレーション
14	給食施設での生産管理
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（20点）、テスト（40点）および学習に対する取り組み状況（40点）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書、参考書を読んでおくこと。大量調理施設衛生管理マニュアルを憶えておくこと。

【事後学修】実習内容をノートやレポートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】殿塚婦美子・三好恵子編著 名倉秀子他共著『給食運営管理実習・学内編』建帛社

【参考図書】殿塚婦美子編 三好恵子他共著『大量調理』学建書院、吉田勉監修 名倉秀子編著『食物と栄養学基礎シリーズ12 給食経営管理論』学文社

【推薦書】宮澤節子・太田美穂編著『ニューコーディネートのための食材別料理集』同文書院

科目名	総合演習		
担当教員名	長澤 伸江、小林 三智子、岩本 珠美、梶野 涼子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

総合演習 は、卒業必修科目である。授業は応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの担当教員が、分担指導する演習形式により進める。学修目標は、各専門科目で習得する基本的な学習内容を実践の場で応用・体系化し、栄養アセスメントに基づいた適正な栄養管理がおこなえる能力を養う。それぞれの専門分野を横断した栄養管理や栄養評価が行える総合的な能力を養う。

内容

1	オリエンテーション
2	栄養リスク者の改善指標やリスクの程度を評価・判定
3	評価・判定後のケアプラン策定と、有効性や問題点について評価
4	重複疾患のある患者のための食事療法
5	咀嚼・嚥下障害者のための食事療法
6	健康増進法における管理栄養士の役割について
7	地域保健法における管理栄養士の役割について
8	「健康日本21」が目指す一次予防のための栄養教育
9	生活習慣に着目した疾病対策
10	栄養・給食関連サービスのマネジメント
11	個人対応の栄養・給食関連サービスのマネジメント
12	マーケティングの原理に基づいた栄養・給食関連サービスのマネジメント
13	Evidence Based Nutrition のための疫学、栄養情報処理・統計学
14	発表・討論
15	まとめ

評価

各担当教員が課題レポート80点、授業の取り組み姿勢20点でそれぞれ評価を行い、平均した総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】各教科の教科書を事前に読んでおく (30分)
- 【事後学修】課題レポートを作成する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】授業内で指示する
- 【推薦書】

【参考図書】

科目名	総合演習		
担当教員名	長澤 伸江、井上 久美子、岩本 珠美、梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。3年次・4年次に履修する臨地実習をより効果的に実施するための事前および事後教育を行う。そのため通年科目で、3・4年次連続履修とする。

学修目標は、各臨地実習施設の管理栄養士業務を事前学習し、研究課題を設定して臨地実習に備える。各臨地実習での学びをまとめ報告会でプレゼンテーションする。他施設での報告会発表から、新たな学びを得る。

内容

1	1-3週	実習事前教育、臨地実習の目的、目標、心構え
2	4-5週	実習の事前準備、開始時と実習中の注意
3	6-7週	給食運営臨地実習の具体的な目標、課題について
4	8-9週	給食経営管理臨地実習の具体的な目標、課題について
5	10-11週	臨床栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
6	12-13週	公衆栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
7	14-15週	特定給食施設における衛生管理
8	16週	実習事後の教育、臨地実習報告会実施に向けて
9	17-18週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養パワーポイント)
10	19-20週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養ポスター)
11	21-22週	実習報告会資料作成 (公衆栄養パワーポイント)
12	23-24週	実習報告会予行
13	25-26週	報告会 (給食経営管理・臨床栄養)
14	27-28週	報告会 (公衆栄養)
15	29-30週	各まとめ

評価

実習課題研究レポート30点、報告会発表50点、報告会からの学びレポート20点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキスト、臨地実習の資料を事前に読んでおく (30分)

【事後学修】実習課題のまとめ、報告会発表の準備をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	総合演習		
担当教員名	岡本 節子、和田 安代、中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。3年次・4年次に履修する臨地実習をより効果的に実施するための事前および事後教育を行う。そのため通年科目で、3・4年次連続履修とする。

学修目標は、各臨地実習施設の管理栄養士業務を事前学習し、研究課題を設定して臨地実習に備える。各臨地実習での学びをまとめ報告会でプレゼンテーションする。他施設での報告会発表から、新たな学びを得る。

内容

1	1-3週	実習事前教育、臨地実習の目的、目標、心構え
2	4-5週	実習の事前準備、開始時と実習中の注意
3	6-7週	給食運営臨地実習の具体的な目標、課題について
4	8-9週	給食経営管理臨地実習の具体的な目標、課題について
5	10-11週	臨床栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
6	12-13週	公衆栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
7	14-15週	特定給食施設における衛生管理
8	16週	実習事後の教育、臨地実習報告会実施に向けて
9	17-18週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養パワーポイント)
10	19-20週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養ポスター)
11	21-22週	実習報告会資料作成 (公衆栄養パワーポイント)
12	23-24週	実習報告会予行
13	25-26週	報告会 (給食経営管理・臨床栄養)
14	27-28週	報告会 (公衆栄養)
15	29-30週	各まとめ

評価

実習課題研究レポート30点、報告会発表50点、報告会からの学びレポート20点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキスト、臨地実習の資料を事前に読んでおく (30分)

【事後学修】実習課題のまとめ、報告会発表の準備をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	総合演習		
担当教員名	長澤 伸江、岩本 珠美、井上 久美子、梶野 涼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。3年次・4年次に履修する臨地実習をより効果的に実施するための事前および事後教育を行う。そのため通年科目で、3・4年次連続履修とする。

学修目標は、各臨地実習施設の管理栄養士業務を事前学習し、研究課題を設定して臨地実習に備える。各臨地実習での学びをまとめ報告会でプレゼンテーションする。他施設での報告会発表から、新たな学びを得る。

内容

1	1-3週	実習事前教育、臨地実習の目的、目標、心構え
2	4-5週	実習の事前準備、開始時と実習中の注意
3	6-7週	給食運営臨地実習の具体的な目標、課題について
4	8-9週	給食経営管理臨地実習の具体的な目標、課題について
5	10-11週	臨床栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
6	12-13週	公衆栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
7	14-15週	特定給食施設における衛生管理
8	16週	実習事後の教育、臨地実習報告会実施に向けて
9	17-18週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養パワーポイント)
10	19-20週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養ポスター)
11	21-22週	実習報告会資料作成 (公衆栄養パワーポイント)
12	23-24週	実習報告会予行
13	25-26週	報告会 (給食経営管理・臨床栄養)
14	27-28週	報告会 (公衆栄養)
15	29-30週	各まとめ

評価

実習課題研究レポート30点、報告会発表50点、報告会からの学びレポート20点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキスト、臨地実習の資料を事前に読んでおく (30分)

【事後学修】実習課題のまとめ、報告会発表の準備をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	総合演習		
担当教員名	岡本 節子、和田 安代、中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、栄養士免許・管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目である。3年次・4年次に履修する臨地実習をより効果的に実施するための事前および事後教育を行う。そのため通年科目で、3・4年次連続履修とする。

学修目標は、各臨地実習施設の管理栄養士業務を事前学習し、研究課題を設定して臨地実習に備える。各臨地実習での学びをまとめ報告会でプレゼンテーションする。他施設での報告会発表から、新たな学びを得る。

内容

1	1-3週	実習事前教育、臨地実習の目的、目標、心構え
2	4-5週	実習の事前準備、開始時と実習中の注意
3	6-7週	給食運営臨地実習の具体的な目標、課題について
4	8-9週	給食経営管理臨地実習の具体的な目標、課題について
5	10-11週	臨床栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
6	12-13週	公衆栄養臨地実習の具体的な目標、課題について
7	14-15週	特定給食施設における衛生管理
8	16週	実習事後の教育、臨地実習報告会実施に向けて
9	17-18週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養パワーポイント)
10	19-20週	実習報告会資料作成 (給食経営管理・臨床栄養ポスター)
11	21-22週	実習報告会資料作成 (公衆栄養パワーポイント)
12	23-24週	実習報告会予行
13	25-26週	報告会 (給食経営管理・臨床栄養)
14	27-28週	報告会 (公衆栄養)
15	29-30週	各まとめ

評価

実習課題研究レポート30点、報告会発表50点、報告会からの学びレポート20点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキスト、臨地実習の資料を事前に読んでおく (30分)

【事後学修】実習課題のまとめ、報告会発表の準備をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	臨床栄養臨地実習		
担当教員名	岩本 珠美、中村 禎子、山崎 優子、和田 安代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目である。実際に病院行われているシステム、ベッドサイド指導、栄養食事指導などを観察、体験することにより、臨床栄養学で学んだ知識と臨床栄養学実習において習得した技術が、どのように活用されているかを知るとともに、臨床栄養管理の意義やチーム医療における管理栄養士の役割の実際について理解することを目標とする。

科目の概要

3年次の春季休暇中に病院の栄養部門において、2週間～3週間の実習を行う。

本実習を行うに当たり、事前オリエンテーション、直前指導および事後の実習報告など(「総合演習」)を実施する。また、実習施設における事前オリエンテーションが実施される場合もある。

学修目標

傷病者・要介護者を対象とした臨床栄養管理および栄養食事指導の知識・技術の集大成として位置づけられるため、実習期間中の健康管理に留意し、主体的に取り組むことが必要となる。

1. 臨床現場における管理栄養士業務の重要性、業務上の問題点や課題に気づく。
2. 臨床栄養学をはじめとする大学で学んだ様々な知識や技術を使って積極的に取り組む。
3. 適切な臨床栄養マネジメントを行うために必要な専門的知識および技術の実際を理解する。

内容

実習内容と学習課題

- (1) 栄養部門内外の関連施設、業務内容および併設施設の見学
- (2) 治療食の供食システムの見学・体験
- (3) 臨床栄養マネジメント関連業務の体験
- (4) 外来患者および入院患者を対象とした栄養食事指導の見学・体験
- (5) 診療科やベッドサイドへの訪問およびカルテ閲覧等による患者の栄養問題の把握
- (6) 栄養アセスメントの実施、ケア・カンファレンスへの参加、栄養ケアプランの立案
- (7) 個別栄養管理の実際
- (8) 供食支援システムの見学・体験
- (9) 栄養食事指導記録票および栄養管理報告書への記録の実際
- (10) チーム医療および関連業務の見学、クリニカルパス等の実際
- (11) 医療スタッフの一員としての患者対応やマナー等
- (12) ケーススタディの方法
- (13) その他

上記に挙げた項目の中から、各病院において選択した内容を実習プログラムとする。

病院において事前オリエンテーションが実施される場合には、実習前に参加する。

評価

実習期間中は、「臨床栄養臨地実習ノート」に上記の実習内容および学習課題について毎日記録を行い、実習終了後の指定された期日までに提出すること。

各病院の実習担当管理栄養士の評価（40%）および実習ノート（60%）を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】 主要疾患の食事療法における栄養管理や栄養指導をすすめる上での栄養アセスメントの方法、ケア計画作成などを復習する。 実習病院の医療特性や研究課題(班・個人)の学習を深める。

【事後学修】 班の課題や個人課題をまとめ、臨床栄養臨地実習ノートを完成する。 臨地実習施設報告書を作成する。 臨地実習報告会のプレゼンテーション資料の準備をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西岡葉子・齋藤禮子・芦川修貳・古畑公編集『特定給食施設給食管理事例集』学建書院

【推薦書】宗像伸子編『一品料理500選 治療食への展開（第2版）5訂増補・食品成分表準拠』医歯薬出版

【参考図書】実習病院の医療特性などにより異なる場合が多いので、適宜教室で紹介する。

科目名	臨床栄養臨地実習		
担当教員名	和田 安代、中村 禎子、梶野 涼子、岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目である。実際に病院で行われているシステム、ベッドサイド指導、栄養食事指導などを観察、体験することにより、臨床栄養学で学んだ知識と臨床栄養学実習において習得した技術が、どのように活用されているかを知るとともに、臨床栄養管理の意義やチーム医療における管理栄養士の役割の実際について理解することを目標とする。

科目の概要

3年次の春季休暇中に病院の栄養部門において、2～3週間の実習を行う。

本実習を行うに当たり、事前オリエンテーション、直前指導および事後の実習報告など (「総合演習 」) を実施する。また、実習施設における事前オリエンテーションが実施される場合もある。

学修目標 (= 到達目標)

傷病者・要介護者を対象とした臨床栄養管理および栄養食事指導の知識・技術の集大成として位置づけられるため、実習期間中の健康管理に留意し、主体的に取り組むことが必要となる。

1. 臨床現場における管理栄養士業務の重要性、業務上の問題点や課題に気づく。
2. 臨床栄養学をはじめとする大学で学んだ様々な知識や技術を使って積極的に取り組む。
3. 適切な臨床栄養マネジメントを行うために必要な専門的知識および技術の実際を理解する。

内容

実習内容と学習課題

- (1) 栄養部門内外の関連施設、業務内容および併設施設の見学
- (2) 治療食の供食システムの見学・体験
- (3) 臨床栄養マネジメント関連業務の体験
- (4) 外来患者および入院患者を対象とした栄養食事指導の見学・体験
- (5) 診療科やベッドサイドへの訪問およびカルテ閲覧等による患者の栄養問題の把握
- (6) 栄養アセスメントの実施、ケア・カンファレンスへの参加、栄養ケアプランの立案
- (7) 個別栄養管理の実際
- (8) 供食支援システムの見学・体験
- (9) 栄養食事指導記録票および栄養管理報告書への記録の実際
- (10) チーム医療および関連業務の見学、クリニカルパス等の実際
- (11) 医療スタッフの一員としての患者対応やマナー等
- (12) ケーススタディの方法
- (13) 担当症例の検討やケア計画作成を通じた専門職としての視点のまとめ
- (14) その他

上記に挙げた項目の中から、各病院において選択した内容を実習プログラムとする。

病院において事前オリエンテーションが実施される場合には、実習前に参加する。

実習期間中は、「臨床栄養臨地実習ノート」に上記の実習内容および学習課題について毎日記録を行い、実習終了後の指定された期日までに提出すること。

評価

各病院の実習担当管理栄養士の評価（40%）および実習ノート（60%）を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】 主要疾患の食事療法における栄養管理や栄養指導をすすめる上での栄養アセスメントの方法、ケア計画作成などを復習する。 実習病院の医療特性や研究課題(班・個人)の学習を深める。

【事後学修】 班の課題や個人課題をまとめ、臨床栄養臨地実習ノートを完成する。 臨地実習施設報告書を作成する。 臨地実習報告会のプレゼンテーション資料の準備をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 芦川修貳・西岡葉子・齋藤禮子編集 『特定給食施設給食管理事例集』学建書院

【推薦書】 宗像伸子編 『一品料理500選 治療食への展開（第2版）日本食品標準成分表2010準拠』医歯薬出版

【参考図書】 実習病院の医療特性などにより異なる場合が多いので、適宜教室で紹介する。

科目名	公衆栄養臨地実習		
担当教員名	長澤 伸江、中村 禎子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

臨地実習については、「給食の運営」（必修）、「給食経営管理」、「臨床栄養」、「公衆栄養」を組み合わせで4単位履修する。公衆栄養臨地実習では、わが国の栄養施策や公衆栄養活動を実施している保健所または市町村保健センターなどで行政栄養士の業務について学ぶ。地域公衆栄養活動、地区組織の育成と活動、特定給食施設指導、健康づくりおよび対人保健サービス関係の事業が、行政組織を通じて地域住民に展開されている実際を見学、体験または実習することを目的とする。

学修目標は、 地域保健活動を推進するための業務内容、地域住民の健康維持・増進のための保健計画とその実施方法について理解する。 実践活動の場での課題発見(気づき)、問題解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識と技術の統合を図る。

内容

埼玉県下の保健所または市町村保健センターにおいて、公衆栄養活動における栄養行政の概要と管理栄養士の業務内容について学ぶ。期間は1週間。

評価

臨地実習先の評価70点、実習ノート30点により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】総合演習 の事前学習で学んだことを確認する。
- 【事後学修】実習課題のまとめ、実習ノートの整理、報告会の準備をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】授業内で指示する。
- 【推薦書】
- 【参考図書】

科目名	給食経営管理臨地実習		
担当教員名	名倉 秀子、中村 禎子、梶野 涼子、岡本 節子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける“専門分野：臨地実習”に関する科目のひとつであり、食物栄養学科専門教育科目 (A)として位置付けられています。栄養士資格取得では、給食運営を履修します。さらに、管理栄養士国家試験受験資格を得るためには、臨床栄養臨地実習、臨床栄養臨地実習、公衆栄養臨地実習、そして給食経営管理臨地実習の4科目より合わせて3単位以上の履修が必要となり、そのための選択科目です。

科目の概要

科目の概要は、高度な資質を備えた管理栄養士の養成を目標とし、給食運営におけるマネジメントとして、栄養面、安全面 (HACCPに基づく衛生管理も含む)、経済面全般のマネジメントを行う能力、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を特定給食施設の実習を通して体得します。

学修目標 (= 到達目標)

学修目標は、特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状況、栄養状況、生活習慣等に基づいた食事の提供に係わる栄養・食事管理、および給食経営管理を大局的に捉え、自ら問題提起し、その解決を図る能力を身につけ、実践できる。

内容

実習施設先は学校給食施設、事業所給食施設、福祉給食施設、病院給食施設などの特定給食施設であり、施設の管理栄養士の指導の下で、1週間にわたり管理栄養士業務を実践する実習です。実習施設、実習期日、実習グループ等については、担当教員より具体的な説明があり、掲示板等を確認し、指示に従いながら、学修目標の内容を臨地実習する。

評価

臨地実習に関するレポート (60点)、臨地実習先の評価 (40点) を基に評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】給食運営臨地実習および総合演習と連動して、授業の中で連絡するため、その内容について予習する。

【事後学修】レポート、実習ノートのまとめを作成をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習用の記録ノート

松崎政三・名倉秀子編『全施設における臨地実習マニュアル - 給食経営管理論・給食の運営 - 』建帛社

【推薦書】給食経営管理論の講義および実習で使用したテキスト

【参考図書】医歯薬出版編『最新日本食品成分表』

菱田 明，佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準（2015年版）』 第一出版

科目名	給食運営臨地実習		
担当教員名	岡本 節子、中村 禎子、梶野 涼子、山崎 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養士 / 管理栄養士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格；給食運営臨地実習は、栄養士養成カリキュラムの給食の運営の校外実習科目であり、管理栄養士養成カリキュラムにおいて、管理栄養士として具備すべき知識及び技術を習得するために必要な科目である。

科目の概要；給食運営臨地実習は、事業所等の集団給食施設において実施、管理栄養士又は栄養士の専従する施設で実習を行う。実践教育科目として重要な位置を占め、給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。

学修目標；1. 集団給食における調理技術の習得をする。2. 給食計画立案能力を習得する。3. 給食事務に関する処理能力を習得する。

内容

医療関連施設・学校・事業所・福祉施設などの特定給食施設において、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、管理栄養士・栄養士として具備すべき知識および技術を1週間の実習で習得する。

管理栄養士・栄養士が果たすべき専門領域に関する基本となる能力を身につける。

管理栄養士・栄養士に必要とされる知識、技能、態度および考え方の総合的能力を身につける。

栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を身につける。

給食の運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳、下膳、衛生管理などの基本的業務に関する実習を行う。

それぞれの施設の対象者や施設設備、供食形態などを十分に把握したうえで、実習に臨むこと。

評価

実習施設における評価50点、臨地実習ノート50点により評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習する施設について十分に学習し、テーマを設定し、臨地実習に臨むこと。これまでに学修した関連科目の復習を行うこと。

【事後学修】1週間の実習内容、実習テーマに関する考察などを実習ノートにまとめる。実習グループごとに実習報告書（パワーポイント）を作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西岡葉子他編集『特定給食施設食管理事例集』学建書院

【参考書】厚生労働省『日本人の食事摂取基準（2015年版）』第一出版

【参考書】『日本人の食事摂取基準（2015年版）の実践・運用特定給食施設における栄養・食事管理』第一出版

科目名	食育論		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は食物栄養学科専門科目教育課程における食物栄養関連科目の選択科目に位置づけられている。

科目の概要

食は生きることの原点である。食は日常生活を営むためのエネルギー源であり、筋肉や骨格、体液などの身体を形作り、維持する。さらに精神的な満足を与えるという重要な役割も担っている。近年わが国では、食を大切にする心の欠如、栄養バランスの偏った食事や不規則な食事が増加している。また肥満や生活習慣の増加の一方で過度の痩身が見られる。さらに食の安全上の問題が多発し、食の海外依存や伝統的な食文化の喪失など食に関する多くの問題を抱えている。私たちの心身の健康増進と豊かな人間形成を目指し、食べ物と食べ方のかかわりを考えていく。

学修目標 (= 到達目標)

1. 食とは何かを考えるよるなる。
2. 食育とは何かを考えるようになる。
3. 現在の食育を取り巻く環境について問題意識とその解決策について考えられるようになる。

内容

1	食育論を学ぶにあたって
2	健康とは、健康を支える食育とは
3	家庭教育、学校教育、社会教育における食教育の現状
4	現在の食教育の課題
5	4つのハウショク-豊食・飽食・崩食・放食-と栄養教育
6	食物の安全・安心、環境と食育
7	人間と食事のかかわり、食事の満足感と脳のシステム
8	記憶に残る食事 - 食事風景から見えてくるもの -
9	社会・家庭の変化と食事、価値観の変化と食事観の変化
10	食文化からみた食事教育
11	食文化からみた食事教育
12	ライフステージと栄養教育 - 乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期 -
13	高齢者の食事教育と栄養教育 - 高齢者をとりまく食環境 -
14	これからの食育 - 心の豊かさを実感できる食育 -
15	まとめ

評価

振り返りレポート（50％）、論述試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日ごろから新聞や本や他の授業を通して食育に関連するテーマに興味を持つようにする。

【事後学修】授業を通して学んだことをまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山本茂他編『食育・食生活論』講談社サイエンティフィック

【参考図書】内閣府『食育白書』、黒岩比佐子著『食育のススメ』文春新書、福田靖子編著『食育入門-豊かな心と食事観の形成-』建帛社

科目名	食文化人類学		
担当教員名	山本 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

食の文化と健康について考える

アメリカ人の極端な肥満はなぜ起こるか、そして世界中の人たちがアメリカのようになりやすい環境にある。その原因がわからなければ、解決策は生まれない。身近な例から、栄養と健康の問題を考えていく。

食と健康について、日頃気づかないこと、誤っていることなどを知り、栄養学の面白さ、奥深さを身近な内容から学ぶ。

内容

回 内容

- 1 食の嗜好に男女差はあるか？
- 2 アメリカ人は脂と砂糖が好き、日本人塩分が好き、食嗜好について考える。
- 3 旨味と健康は関係があるだろうか。
- 4 サンゴ礁がもたらした沖縄の長寿
- 5 米は糖尿病の原因になるか？
- 6 お茶や油で痩せることはできるだろうか？
- 7 日本人の食生活は欧米化したか？
- 8 肥満と痩せはどちらが美しい？ 変わる望ましいボディ・イメージ
- 9 学校給食に牛乳は食文化的におかしいか？
- 10 野菜料理の国際比較、野菜を煮炊きする民族は多くない。
- 11 和食はなぜ世界文化遺産になったのか？
- 12 日本の学校給食のすごさに気が付いているだろうか？
- 13 牛乳は体に悪いか？豆腐との比較から。
- 14 糖類摂取量の国際比較。ソフトドリンク類の糖は砂糖ではない
- 15 学生との討論会

評価

テスト (50%) と授業の参加度 (50%) で評価し、合計60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】不要

【事後学修】講義の内容を議論・批判して、食・栄養と健康に関する自分の考えをきちんと持てるようになってほしい。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使わない。講義の1週間前に十文字のHPにアップするので、印刷してもってきてください。

科目名	食と環境		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科の専門科目の中でも、食物栄養関連科目の一つとなります。食に関する幅広い視野を広げてもらうことを目的としています。

科目の概要

今、地球には71億人以上の人々が住んでいます。その人々を養うための食糧はどのくらい必要なのでしょう。日々人口が増え続ける中で、地球は果たして私たちを維持することができるのでしょうか。「私は地球に何をしていますか？」という質問に答えられるように、食の面から考えて行きたいと思います。

学修目標 (= 到達目標)

1. 人口と食糧の問題を考えられるようになる。
2. 環境と食糧について理解できるようになる。
3. 食を通して地球に何ができるのか考え始めるようになる。

内容

この授業では、食生活に関する環境を問うよりも、直接地球における環境の変化が、私たちの食にどのような変化をもたらしているのかを考える。

1	ガイダンス・総論
2	世界の食料需給
3	世界の食料需給
4	農業と土地環境
5	農業と土地環境
6	水資源と食
7	食料生産と環境汚染
8	漁業と環境汚染
9	食の安全、安心
10	食の安全、安心
11	環境を守る農業
12	スローフード
13	農業、漁業の未来
14	農業、漁業の未来

評価

予習レポート（50点）、最終レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次のテーマに関する事を調べる

【事後学修】授業を通して学んだ知識から自分の考えをまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 必要な時に渡します。

【推薦書】「たべものがたり 食と環境7の話」山本良一 監修、ダイヤモンド社

「食と環境－問われている日本のフードシステム」若森章孝 著、晃洋書房

【参考図書】「環境白書」環境庁

科目名	食生活論		
担当教員名	柘植 光代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は「フードスペシャリスト認定試験受験資格を得るための科目」に該当する。
食物史、食料経済、食育論、食文化人類学、調理学とも関連性がある。

科目の概要

私たちの食生活の現状を多角的、また総合的な見地から把握するために、日本と世界の食生活を歴史・文化・科学・環境・経済・情報などの視点から理解する。またこれからの食生活のあり方を考察する。

学修目標

- 1．日本と世界の食生活の歴史、文化を理解する。
- 2．食生活と科学、経済、環境、情報との関係を理解する。
- 3．現代日本の食生活の状況と課題を認識して、これからの食生活のあり方を考察する。

内容

- 1．ヒトは一生にどれだけ食べるか、食生活の機能は何か
- 2．食生活に影響を与える要因は何か
- 3．食の変遷からみた食生活のすがた
- 4．食事様式からみた食生活のすがた
- 5．食文化・食習慣から見た食生活のすがた
- 6．食器・食具からみた食生活のすがた
- 7．おいしさとは何か
- 8．食べ物の生産から消費までのシステム
- 9．食生活と地球環境のつながり
- 10．食生活と経済・社会・政治のかかわり
- 11．食生活に必要な情報とは
- 12．食生活と安全・健康
- 13．食生活の現状と課題
- 14．これからの食生活を考える
- 15．まとめ

評価

授業への取り組み10%、レポート30%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】 予め示す次回授業の重要事項、専門用語などについて、資料を利用して調べる。約1時間以上。

【事後学修】 ノートを整理して、授業時に示した重要事項やキーワードについて復習する。レポートや課題を作成する。約1時間以上。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。テーマごとに資料を配布し、視聴覚教材も使用する。

推薦書と参考図書は授業の中で紹介する。

科目名	食品機能論		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト / 養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：食品の持つ重要な特性として、生体の代謝、免疫系、内分泌系等を制御することにより健康の維持・増進と疾病の予防・治療に資する、三次機能（生体調節機能）がある。本講義ではこの食品の三次機能に関して、述べる。最新の知見を紹介するもので、理解には食品学、食品化学の講義で習得した食品の特性に関する知識とともに、栄養学、栄養化学、人間生物化学、分子栄養学等の科目で習得した基本的知識が幅広く要求される。

科目の概要：食品の持つ抗酸化機能、消化吸收促進機能、代謝改善機能、吸収阻害機能、微生物活性化機能、脂質代謝改善機能等について基本的メカニズム、食品成分の作用点、機能を活用した食品の実例などについて解説する。

学習目標：

- 1.健康維持・疾病予防と関連する生体の代謝機構等について基本的なことから学び理解する
- 2.食品中の機能成分がどのようなメカニズムで生体調節機能を発揮するかを学び理解する
- 3.三次機能を活用した食品について学ぶ
- 4.健康の維持・疾病の予防に有効な食生活について学び理解する

内容

1	食品の機能とは
2	機能性食品の現状（栄養機能食品、特定保健用食品）
3	抗酸化機能（活性酸素の生成と生体への影響）
4	抗酸化機能（抗酸化物質）
5	抗酸化機能（抗酸化機能食品）
6	消化吸收促進と代謝改善機能（消化吸収のメカニズム）
7	消化吸收促進と代謝改善機能（ミネラル吸収のメカニズムと吸収促進物質）
8	消化吸收促進と代謝改善機能（ビタミン吸収のメカニズム）
9	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（食物繊維）
10	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（糖アルコール、オリゴ糖）
11	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（プレバイオティクスとプロバイオティクス）
12	脂質代謝改善機能（脂質代謝とその制御メカニズム）
13	脂質代謝改善機能（多価不飽和脂肪酸、大豆タンパク質、リン脂質）
14	脂質代謝改善機能（ジアシルグリセロール、共役リノール酸、フラボノイド、リグナン）
15	まとめ

評価

期末試験(70%)および授業中に出す課題に対する取り組み(30%)を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】講義日に該当する教科書範囲を読んでおくこと。また、事前に講義内容資料をパワーポイントファイルとして

、授業ホルダーに格納するので、事前に読んでおくこと。

【事後学修】教科書の各章終了ごとに、確認テストを行う。教科書・資料で復習、解答し、提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳康夫編著、有田政信、太田英明、大野信子、園田勝、辻英明共著 『改訂食品機能学[第2版]』建帛社

科目名	食のリスクアナリシス論		
担当教員名	齊藤 登		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

食品に関係する人が必ず身につけておかなければならない食品安全の基本となる考え方を学ぶ科目である。栄養学、食品化学等を食品の安全性の観点から理解する上で必要な基盤を提供する。

科目の概要

食品安全の基礎となるリスクアナリシスの考え方の基本とその具体的な適用について理解する。

学修目標

リスクアナリシスの考え方を理解する。

リスクアナリシスの国際的な展開について理解する。

わが国のリスクアナリシスの実施体制とその具体的な適用について理解する。

リスクアナリシスの今後の展開方向について理解する。

内容

1	はじめに リスクアナリシスとは何か その歴史的展開
2	リスクアナリシスの3要素
3	国際機関の取り組み(Codexを中心に) 諸外国の取り組み
4	日本での導入の経緯 検討の流れ
5	食品安全基本法の制定と食品安全委員会の設立 リスク評価機関としての食品安全委員会の役割
6	リスク管理機関(その1) 厚生労働省の役割
7	リスク管理機関(その2) 農林水産省などの役割
8	事例研究(その1) 農薬のケース (注)事例研究の題材は状況に応じ変更する場合がある。
9	事例研究(その2) 食中毒原因微生物のケース
10	事例研究(その3) 放射性物質のケース
11	食にかかわる関係者の役割
12	リスクコミュニケーション
13	表示制度と消費者庁の役割
14	食品安全にまつわるいくつかの話題 今後の展開方向など
15	まとめ

評価

レポート(30%)、筆記試験(70%)によるものとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】食品安全関係の新聞や雑誌などの記事を読んで、食品安全上の問題点について考えておく。

【事後学修】毎回の授業内容を十分復習する。また、食品安全関連ホームページなどを調べ、リスクアナリシスの適用につ

いて具体的に復習し考えてみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じプリント配布する。

- 【参考図書】新山陽子編（2004）食品安全システムの実践理論 昭和堂
日本食品衛生学会編集（2009）食品安全の事典 朝倉書店
中谷内一也（2008）安全。でも、安心できない（ちくま新書746）筑摩書房

科目名	食薬理学		
担当教員名	小島 彩子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は、食物栄養学科専門教育科目 (A) に該当する選択科目である。「病態生理学」および「系統別疾病学」で学習した内容を踏まえて理解されたい。「臨床栄養学」「臨床栄養学」「臨床栄養学」とも関連性がある。同時に本科目は、養護教員一種免許取得のための教育課程における「養護に関する科目」のうち「微生物学、免疫学、薬理概論」区分に該当する選択科目でもある。

科目の概要 食品成分も医薬品と同様に一つの化学物質としてとらえ、それら物質の人体に対する作用を薬理的な観点から理解するための基礎知識を習得する。その基礎知識を踏まえて、食品と医薬品の違い、相互作用、安全性・有効性の評価に関する事項を理解し、氾濫する食品情報に適切に対応でき、さらに傷病者の栄養管理にも対応できる知識を習得する。

学習目標 テキストに対応したプリントを随時配布する。テキストを事前によく読み、講義中はプリントの内容を補いながら講義内容を理解してほしい。学習目標は以下の3点である。

- ・食品と医薬品の相違について正しく理解する。
- ・いわゆる健康食品の安全性・有効性を踏まえた適正な利用方法を理解する。
- ・各種疾患で使用される治療薬について、その作用に関する基礎的な知識と、食品成分との相互作用について理解する。

内容

1	総論	食品と医薬品の特性と区分
2	総論	薬理学の基礎的知識
3	総論	食品成分および医薬品の体内動態 (吸収・分布・代謝・排泄)
4	総論	食品成分および医薬品の体内動態に影響を与える因子
5	総論	食品-医薬品相互作用の事例 その1
6	総論	食品-医薬品相互作用の事例 その2
7	総論	医薬品およびいわゆる健康食品による健康被害
8	総論	食品と医薬品の安全性・有効性評価
9	総論	いわゆる健康食品をとりまく現状と保健機能食品制度
10	各論	治療薬の作用機序と、薬の体内動態に影響する因子 (代謝・内分泌疾患作用薬)
11	各論	同上 (末梢神経および中枢神経作用薬)
12	各論	同上 (循環器系作用薬)
13	各論	同上 (呼吸器系作用薬および消化器系作用薬)
14	各論	同上 (免疫・アレルギー系作用薬および抗感染症薬)
15		まとめ

評価

小テスト (20%)、ペーパーテスト (80%) により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合

は再試験を実施する。

授業外学習

【事前予習】事前に教科書を読んでくる。質問したい点があれば、要点をまとめてくる。

【事後学修】配布したプリントおよび教科書の内容を復習した後、大学の総合教育システム（LiveCampus）に登録してある小テストに取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】川添禎浩・古賀信幸編 栄養科学シリーズNEXT『栄養薬学・薬理学入門』講談社サイエンティフィック

【推薦書】安原一・小口勝司編 『わかりやすい薬理学』 ヌ - ヴェルヒロカワ

渡辺他編著 『クスリのことわかる本』 地人書館 499.1/K

独立行政法人国立健康・栄養研究所監修 『健康・栄養食品アドバイザーリースタッフ・テキストブック』 第一出版

田中正敏著 『薬はなぜ効くか』 講談社 491.5/T

科目名	人間生命科学		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：科学的素養としての基礎生命科学の初歩や、生命体としての人体の構成と特性を学ぶ選択・講義科目であり、“食物栄養関連科目”に配置されている。近年めざましく発展したバイオサイエンスの基本を学び、“生命とは何か”という問いに対して科学的視点で思索する力を向上させる。

科目の概要：科学的素養としての基礎生命科学の初歩や、生命体としての人体の構成と特性等を学び、“生命は化学物質の存在様式である”ことを共通理解とする。物質生化学や代謝生化学の基本的な知識・理解を充実させるとともに、簡単な医化学的知識を身につけることもめざす。生体機械論に対する拒絶や偏見を取り除くこともねらいとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 細胞が生命の基本単位であることを理解する。
2. 細胞はタンパク質の働きで構築され、機能することを理解する。
3. DNA makes RNA makes Protein makes Cell makes Lifeの流れを理解する。
4. “生命は化学物質の存在様式である”ことを理解する
5. 現代の生命科学の諸課題について概要を理解する。

内容

1	生命とは何か：物質・生物・植物・動物・人物、人と人間
2	生物の本質的属性：生存機械とエネルギー
3	生命の基本単位：細胞
4	生命の基本単位：細胞
5	生命とエネルギー・生体の秩序
6	タンパク質（ミクロの機械）の存在様式としての生命
7	タンパク質（ミクロの機械）の存在様式としての生命
8	ミクロの機械のエネルギー源としてのATP
9	遺伝子はタンパク質の設計図：遺伝子とその発現
10	遺伝子はタンパク質の設計図：遺伝子とその発現
11	遺伝子はタンパク質の設計図：遺伝子とその発現、geneとmeme
12	生きることは栄養すること：なぜ人間は他の生命体を食べるのか
13	エネルギー栄養素は体内では燃えない：どのようにATPをつくり、酸素を利用するのか
14	エネルギー栄養素は体内では燃えない：どのようにATPをつくり、酸素を利用するのか
15	まとめ

評価

レポート2割(20%)、筆記試験8割(80%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提示した事項について、配布資料・教科書を参照して予習する。

【事後学修】授業内容に基づく演習問題に解答し、レポートとして提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【資料】オリジナルファイル・プリント

【教科書】志村二三夫・岡 純・山田和彦(編著)栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』、羊土社

【推薦書】五十嵐脩・志村二三夫(編著)『生化学』、光生館

科目名	分子栄養学		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：分子生物学の視点から栄養現象の理解をめざす講義科目であり、“食物栄養関連科目”に配置されている。人間生物化学や生物有機化学で培った専門基礎知識を発展させる科目である。これからの管理栄養士には、分子栄養学の知識・理解が必須であり、管理栄養士養成カリキュラムにおいても重要視されている。

科目の概要：分子栄養学の基盤となる分子生物学は、生命現象を分子、とくに核酸やタンパク質等の生体高分子の構造と機能に基づいて理解しようとする学問である。分子栄養学は、この分子生物学の視点から栄養現象の理解をめざす学問で、その発展はめざましい。本科目では、分子栄養学の近年の成果も取り入れて、栄養現象、栄養素の代謝や生活習慣病と体質との関連等に関する知識・理解を深め・拡張する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 生命現象を分子生物学の視点に立って考察・理解することを学修する。
2. 栄養現象を分子生物学の視点に立って考察・理解することを学修する。
3. 生物個体としての人体の特性を分子生物学の視点に立って考察・理解することを学修する。
4. 人体の遺伝的特性に応じた望ましい栄養のあり方について考察・理解することを学修する。

内容

1	分子生物学と栄養
2	分子生物学と栄養
3	生体膜と細胞の分子栄養学
4	糖質代謝の分子栄養学
5	糖質代謝の分子栄養学
6	脂質代謝の分子栄養学
7	脂質代謝の分子栄養学
8	エネルギー代謝の分子栄養学
9	タンパク質・アミノ酸代謝の分子栄養学
10	タンパク質・アミノ酸代謝の分子栄養学
11	血液の分子栄養学
12	生体内情報伝達の分子栄養学
13	生体内情報伝達の分子栄養学
14	ニュートリゲノミクス：SNPs(一塩基多型)解析、生活習慣病の分子栄養学
15	まとめ

評価

レポート2割(20%)筆記試験8割(80%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提示した事項について、教科書を参照して予習する。

【事後学修】授業内容に基づく演習問題に解答し、レポートとして提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【資料】オリジナルプリント

【教科書】五十嵐脩・志村二三夫（編著）『生化学』 光生館

【参考書】志村二三夫・岡 純・山田和彦（編著）栄養科学イラストレイテッド『解剖生理学』 羊土社

【推薦書】奥恒行（編著）『基礎から学ぶ生化学』 南江堂

科目名	保健指導カウンセリング論(演習を含む)		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格；保健指導カウンセリング論は、運動および栄養領域における栄養カウンセリングをより実践的な方法で技術を習得することを目的とする。

科目の概要：これまで学んできたカウンセリング手法と栄養指導方法について確認しながら、他の角度からも”教育方法”というものを考えていく必要なコミュニケーション技術も実習する。

学修目標；

1. 様々な側面から行動変容について考える。
2. 実践的な保健指導カウンセリングを身につける。

内容

1	保健指導カウンセリング論の概要
2	個人栄養教育マネジメントについて
3	栄養教育に必要な情報について
4	栄養教育に必要な情報について
5	模擬個人栄養教育：ロールプレイ
6	模擬個人栄養教育：相談ロールプレイ
7	模擬個人栄養教育：計画
8	模擬個人栄養教育：評価
9	生活習慣病予防の保健指導システムについて
10	生活習慣病予防の保健指導のロールプレー：初回面接
11	生活習慣病予防の保健指導のロールプレー：継続的な支援
12	集団栄養教育指導：計画
13	集団栄養教育指導：実施
14	集団栄養教育指導：評価
15	まとめ

評価

媒体作成、教育方法やその技術の習得状況から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】実習予定の範囲を熟読し、不明な点を把握しておく。
- 【事後学修】実習で学んだことをまとめる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】片井加奈子他 「栄養科学シリーズ 栄養教育論実習」講談社サイエンティフィック

科目名	実践臨床カウンセリング論(演習を含む)		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は食物栄養学科専門教育科目(B)に位置づけられている。臨床栄養学，栄養教育論で学んだ栄養食事療法や栄養教育の技法を基に臨床における栄養カウンセリングの理論と技術を学ぶ。

科目の概要

患者の行動変容を促すためには，その人の考え方や気持ちを引き出し，行動修正をする方法を導入する必要がある。それには，管理栄養士はガイダンス，コンサルテーションおよびカウンセリングの手法を理論的，体験的に習得することが求められる。本科目では，栄養カウンセリングの基本的な理論と技法を学び，実際の場面でどのように使用するかをロールプレイにより学修する。さらに，状況に応じた栄養カウンセリングの特徴や方法を疾患別に学ぶ。

学修目標

1. 栄養カウンセリングの基本的な考え方を理解する。
2. 栄養カウンセリングを行うために必要な基本姿勢を習得する。
3. 栄養カウンセリングの基本的な技法を習得し，コミュニケーション能力を高める。

内容

1	栄養カウンセリングの意義と必要性
2	健康行動科学の理論
3	栄養カウンセリングの基本姿勢(1)
4	栄養カウンセリングの基本姿勢(2)
5	基本技法と展開(1)
6	基本技法と展開(2)
7	基本技法と展開(3)
8	糖尿病患者の栄養カウンセリング(1)
9	糖尿病患者の栄養カウンセリング(2)
10	肥満患者の栄養カウンセリング
11	脂質異常症患者の栄養カウンセリング
12	高血圧患者の栄養カウンセリング
13	慢性腎臓病患者の栄養カウンセリング
14	透析患者の栄養カウンセリング
15	まとめ

評価

授業での発表(40%)，レポート(60%)を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む（30分）。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめる（30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント配布

【推薦書】宗像恒次 編 『栄養指導と患者ケアの実践ヘルスカウンセリング』 医歯薬出版(株)

久保克彦 著 『患者の行動変容を促す！栄養指導から栄養教育へ！ 実践 栄養カウンセリング』メディカ出版

科目名	World of the Food and Nutrition		
担当教員名	山本 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

基本的な食文化や栄養についてやさしい英語で教える。

基礎的な栄養学を英語で説明したり理解できるようになる。

世界の人々と栄養についてを語るときに、より重要なのは栄養の知識であり、英語はコミュニケーションのツールにすぎないことを知ってもらいたい。何を伝えるのかが一番大切、次にその方法としての言葉(この場合は英語)の基礎をもちさえすれば、国際的にも通用するようになるでしょう。反対に英語がいくらできても、栄養学の知識がなければ、会話の内容は薄く、興味のないものになることを知ってもらいたい。

教官と学生が英語で会話をしながら学ぶ授業であるために、人数制限を行う場合もある。

内容

1	食事の時に使う英語1
2	食事の時に使う英語2
3	料理の作り方を英語で説明する 1
4	料理の作り方を英語で説明する 2
5	料理の作り方を英語で説明する 3
6	料理の作り方を英語で説明する 4
7	日本の食文化を英語で説明する 1
8	日本の食文化を英語で説明する 2
9	日本人の食と健康に関する英語 1
10	日本人の食と健康に関する英語 1
11	日本人の食と健康に関する英語 3
12	易しい病気の英語 1
13	易しい病気の英語 2
14	易しい病気の英語 3
15	まとめ

評価

試験50%、授業への参加度50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】十文字のWe d上にアップしてありますので、コピーをつくり、なるべく質問ができるようにしておいてください。

【事後学修】山本の研究室に来て、大学院留学生と実際に使って話をしてみてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教官が前もって十文字学園女子大学のホームページの学習サポートの教官「山本茂」に掲載するので、

学生は各人で打ち出して授業にもってくる。

科目名	食物栄養学演習		
担当教員名	井手 隆、岡本 節子、中村 禎子、山崎 優子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は食物栄養学科専門科目の食物栄養関連科目に配置されています。3年次までに講義や実験・実習で培ってきた管理栄養士に求められる知識・技術の補強・ステップアップを図るために、学科専門科目の各教科におけるトピカルな内容について、食物栄養学科教員によるオムニバス形式の演習授業を通して学びます。

科目の概要

講義では、社会や環境と健康の関わり、人体の構造や機能、主要疾患の成因・病態・診断・治療等、食品の各種成分、エネルギー・栄養素の代謝と生理的意義等を理解習得し、栄養状態や心身機能に応じた栄養管理、傷病者に対する療養のために必要な栄養の指導、個人の身体状況や栄養状態等に応じた高度の専門的知識、健康の保持増進のための栄養の指導、利用者の身体状況や利用状況に応じた配慮を必要とする給食管理等に関して学修します。

学修目標 (= 到達目標)

3年次までに学んだ知識・技術の理解を深め、食・栄養・健康に関する理論と実践の能力向上を図ることを目標とします

内容

1	社会・環境と健康 (健康管理概論)
2	社会・環境と健康 (公衆衛生学)
3	人体の構造と機能 (解剖生理学)
4	人体の構造と機能 (人間生活生理学)
5	疾病の成り立ち (系統別疾病学・病態生理学)
6	食物と健康 (食品学)
7	食物と健康 (食品衛生学)
8	食物と健康 (調理学)
9	基礎栄養学
10	応用栄養学
11	栄養教育論
12	臨床栄養学
13	公衆栄養学
14	給食経営管理論
15	まとめ

評価

レポート等30点及び試験70点により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキストを読み、復習しておく。

【事後学修】課題に対するレポートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科のテキスト。

【推薦書】担当教員より適宜指示がある。

【参考図書】担当教員より適宜指示がある。

科目名	食物栄養学演習		
担当教員名	井手 隆、松本 晃裕、栗崎 純一、梶野 涼子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は食物栄養学科専門科目の食物栄養関連科目に配置されています。3年次までに講義や実験・実習で培ってきた管理栄養士に求められる知識・技術の補強・ステップアップを図るために、学科専門科目の各教科におけるトピカルな内容について、食物栄養学科教員によるオムニバス形式の演習授業を通して学びます。

科目の概要

講義では、社会や環境と健康の関わり、人体の構造や機能、主要疾患の成因・病態・診断・治療等、食品の各種成分、エネルギー・栄養素の代謝と生理的意義等を理解習得し、栄養状態や心身機能に応じた栄養管理、傷病者に対する療養のために必要な栄養の指導、個人の身体状況や栄養状態等に応じた高度の専門的知識、健康の保持増進のための栄養の指導、利用者の身体状況や利用状況に応じた配慮を必要とする給食管理等に関して学修します。

学修目標 (= 到達目標)

3年次までに学んだ知識・技術の理解を深め、食・栄養・健康に関する理論と実践の能力向上を図ることを目標とします

内容

1	社会・環境と健康 (健康管理概論)
2	社会・環境と健康 (公衆衛生学)
3	人体の構造と機能 (解剖生理学)
4	人体の構造と機能 (人間生活生理学)
5	疾病の成り立ち (系統別疾病学・病態生理学)
6	食物と健康 (食品学)
7	食物と健康 (食品衛生学)
8	食物と健康 (調理学)
9	基礎栄養学
10	応用栄養学
11	栄養教育論
12	臨床栄養学
13	公衆栄養学
14	給食経営管理論
15	まとめ

評価

レポート等30点及び試験70点により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキストを読み、復習しておく。

【事後学修】課題に対するレポートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科のテキスト。

【推薦書】担当教員より適宜指示がある。

【参考図書】担当教員より適宜指示がある。

科目名	食物栄養学演習		
担当教員名	井手 隆、梶野 涼子、松本 晃裕、志村 二三夫 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は食物栄養学科専門科目の食物栄養関連科目に配置されています。3年次までに講義や実験・実習で培ってきた管理栄養士に求められる知識・技術の補強・ステップアップを図るために、学科専門科目の各教科におけるトピカルな内容について、食物栄養学科教員によるオムニバス形式の演習授業を通して学びます。

科目の概要

講義では、社会や環境と健康の関わり、人体の構造や機能、主要疾患の成因・病態・診断・治療等、食品の各種成分、エネルギー・栄養素の代謝と生理的意義等を理解習得し、栄養状態や心身機能に応じた栄養管理、傷病者に対する療養のために必要な栄養の指導、個人の身体状況や栄養状態等に応じた高度の専門的知識、健康の保持増進のための栄養の指導、利用者の身体状況や利用状況に応じた配慮を必要とする給食管理等に関して学修します。

学修目標 (= 到達目標)

3年次までに学んだ知識・技術の理解を深め、食・栄養・健康に関する理論と実践の能力向上を図ることを目標とします

内容

1	社会・環境と健康 (健康管理概論)
2	社会・環境と健康 (公衆衛生学)
3	人体の構造と機能 (解剖生理学)
4	人体の構造と機能 (人間生活生理学)
5	疾病の成り立ち (系統別疾病学・病態生理学)
6	食物と健康 (食品学)
7	食物と健康 (食品衛生学)
8	食物と健康 (調理学)
9	基礎栄養学
10	応用栄養学
11	栄養教育論
12	臨床栄養学
13	公衆栄養学
14	給食経営管理論
15	まとめ

評価

レポート等30点及び試験70点により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各教科のテキストを読み、復習しておく。

【事後学修】課題に対するレポートを作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科のテキスト。

【推薦書】担当教員より適宜指示がある。

【参考図書】担当教員より適宜指示がある。

科目名	フードスペシャリスト論		
担当教員名	柘植 光代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格を得るための必修科目である。資格認定試験の受験へ向けて、食に関する総合的な知識を修得できるよう授業を進める。食に関する専門知識に基づき、フードスペシャリストとして活躍できる力を獲得することを目指す。

科目の概要

フードスペシャリストの概念、世界と日本の食の歴史と現状、現代日本の食生活の特徴、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食の安全、食情報と消費者保護などを講義する。

学修目標 (= 到達目標)

1. フードスペシャリストの役割と責務について説明できる。
2. 世界と日本の食の歴史と現状について理解できる。
3. 食品産業の役割を理解できる。
4. 食品の品質規格と表示について説明できる。
5. 食の安全、食情報、消費者保護について習得する。

内容

1	フードスペシャリストの役割、業務、責務
2	世界と日本における人類の歩みと食物
3	食品の加工と保存技術の歴史
4	世界の食文化の概要 - 食作法、禁忌、各地域の食の特徴
5	日本の食文化 (1) 食の歴史
6	日本の食文化 (2) 地域の食文化の特徴
7	現代日本の食生活の変容
8	地球環境と食生活のかかわり
9	食品産業の役割 (1) 食品製造業と食品流通業の役割と特徴
10	食品産業の役割 (2) 外食産業の役割と特徴
11	食品の品質規格と表示 (1) 法体系、品質規格
12	食品の品質規格と表示 (2) 食品の表示
13	食情報の特性と問題点
14	食品の安全性および消費者保護の課題
15	まとめ

評価

授業への取り組み20%、レポート20%、中間試験と期末試験の合計60%の比率とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予め示す重要事項について、教科書や資料を利用して調べる。新聞、雑誌、テレビ、インターネットの情報を精査して、課題を把握する。各自の食品の購入時に食品表示を確認して理解する。

【事後学修】ノートを整理して、授業時に提示した重要事項について復習する。レポートや課題を作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

『四訂 フードスペシャリスト論 第2版』（公社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社（2014年）

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】プリントを配布する。

科目名	食品の官能評価・鑑別論		
担当教員名	大田原 美保		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格に必要な科目である。授業は講義と実習を組み合わせながら行う。

科目の概要

講義では、食品評価の一手法である官能評価の種類と特徴、実施における留意事項を詳説する。また、食品の鑑別方法についても概説する。

実習では、数名のグループ単位で食品の官能評価の計画立案からデータ収集までを行う。収集したデータを用いて統計処理の基礎的な方法を学ぶ。

食品の鑑別については数種の食品を用いて実習し、鑑別する際の基礎的考え方、見方を学ぶ。

学修目標

- 1) 官能評価の種類と特徴についての理解
- 2) 官能評価の立案から実施に至るまでの留意事項の理解
- 3) 収集データの統計的処理に関する基本的事項の理解
- 4) 食品鑑別のための基本的事項の理解

内容

1	官能評価の目的と意義
2	食品の「おいしさ」と官能評価
3	官能評価の設計 (1) 予備評価の必要性
4	官能評価の設計 (2) 質問項目の検討
5	官能評価の設計 (3) パネルの選定、 評価条件とデータ変動
6	官能評価実習 (1)
7	官能評価実習 (2)
8	官能評価実習 (3)
9	官能評価実習 (4)
10	食品の鑑別とは
11	食品鑑別に必要な基礎知識 (1)
12	食品鑑別に必要な基礎知識 (2)
13	食品の鑑別実習 (1)
14	食品の鑑別実習 (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度 10%、実習に関するレポート 40%、筆記試験 50%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業中に次回の事前学習を指示する。

【事後学修】授業中に事後学習について指示し、各自レポートとして提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』 建帛社

【推薦書】古川秀子 『おいしさを測る』 幸書房

日本官能評価学会編 『官能評価士テキスト』 建帛社

大越ひろ・神宮英夫 編著 『食の官能評価入門』 光生館

【参考図書】新版 官能検査ハンドブック 日科技連出版社

科目名	食品の官能評価・鑑別論		
担当教員名	大田原 美保		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格に必要な科目である。授業は講義と実習を組み合わせながら行う。

科目の概要

講義では、食品評価の一手法である官能評価の種類と特徴、実施における留意事項を詳説する。また、食品の鑑別方法についても概説する。

実習では、数名のグループ単位で食品の官能評価の計画立案からデータ収集までを行う。収集したデータを用いて統計処理の基礎的な方法を学ぶ。

食品の鑑別については数種の食品を用いて実習し、鑑別する際の基礎的考え方、見方を学ぶ。

学修目標

- 1)官能評価の種類と特徴についての理解
- 2)官能評価の立案から実施に至るまでの留意事項の理解
- 3)収集データの統計的処理に関する基本的事項の理解
- 4)食品鑑別のための基本的事項の理解

内容

1	官能評価の目的と意義
2	食品の「おいしさ」と官能評価
3	官能評価の設計 (1) 予備評価の必要性
4	官能評価の設計 (2) 質問項目の検討
5	官能評価の設計 (3) パネルの選定、 評価条件とデータ変動
6	官能評価実習 (1)
7	官能評価実習 (2)
8	官能評価実習 (3)
9	官能評価実習 (4)
10	食品の鑑別とは
11	食品鑑別に必要な基礎知識 (1)
12	食品鑑別に必要な基礎知識 (2)
13	食品の鑑別実習 (1)
14	食品の鑑別実習 (2)
15	まとめ

評価

授業への参加度 10%、実習に関するレポート 40%、筆記試験 50%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業中に次回の事前学習を指示する。

【事後学修】授業中に事後学習について指示し、各自レポートとして提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』 建帛社

【推薦書】古川秀子 『おいしさを測る』 幸書房

日本官能評価学会編 『官能評価士テキスト』 建帛社

大越ひろ・神宮英夫 編著 『食の官能評価入門』 光生館

【参考図書】新版 官能検査ハンドブック 日科技連出版社

科目名	フードコーディネート論		
担当教員名	赤堀 博美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	フードスペシャリスト		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

フードスペシャリストの資格取得のための科目である。

科目の概要

フードコーディネートとは、食にまつわるすべての事象を目的に合わせてコーディネートすることである。栄養士としての知識を基盤に食ビジネスの実践を身につける

学修目標 (= 到達目標)

フードスペシャリスト試験の合格と食業人としてスキルを持って社会で活躍できるようになること。

内容

テキストに沿って授業を進める。

授業の進み具合で内容は変更される。

1	フードコーディネーターの仕事 (1 章)	企画力 食企画の実践コーディネート (8 章)
2	食事の文化 (2 章)	
3	食事の文化 (2 章)	
4	食卓のコーディネート (3 章)	
5	食卓のコーディネート (3 章)	
6	サービスとマナー (4 章)	
7	サービスとマナー (4 章)	
8	メニュープランニング (5 章)	レポート課題説明
9	メニュープランニング (5 章)	
10	食空間のコーディネート (6 章)	
11	食空間のコーディネーター (6 章)	
12	フードサービスマネジメント (7 章)	
13	フードサービスマネジメント (7 章)	
14	食の企画の実践コーディネート (8 章)	
15	まとめ	

評価

出席、レポート提出で 50%、試験 50% の比率とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】食に関わるニュースをさまざまな媒体から貪欲に入手し、自分なりに考えること。デパート、スーパー、コンビニの惣菜、弁当はこれでいいのか？街中にあふれかえるレストランはどうやって経営が成り立っているのか。テレビに映るおいしそうなお料理はどのように作られているのか。

【事後学修】自分で考えた企画、レシピなどをストックする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「三訂 フードコーディネーター論」、(社)日本フードスペシャリスト協会編 建ぱく社

【推薦書】「フードコーディネーター教本」、日本フードコーディネーター協会編 柴田書店

【参考図書】授業ごとに提示

科目名	生涯発達人間学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間生活学部児童幼児教育学科児童教育専攻及び食物栄養学科の3・4年次を対象とした、学部専門科目（共通科目）（選択）である。

科目の概要

人は生まれてから死ぬまで生涯を通じて発達していく存在であるという生涯発達の観点から、人の一生の各時期の特徴を学ぶ。特に、加速する少子高齢化に焦点を当てて、人生の最初期である乳幼児期と65歳以上の高齢期における、心身のさまざまな特徴や生じうる問題点を学び、他者への援助のあり方を含めた人間についての理解を深める。

学修目標

毎回、授業の内容に関するリアクションペーパーを提出する。

各発達時期の特徴及びそこで生じうる問題点について、各自が概観しまとめることができるようにする。

内容

1	生涯発達とは
2	乳児期 1
3	乳児期 2
4	幼児期 1
5	幼児期 2
6	幼児期 3
7	児童期
8	前半のまとめ
9	思春期
10	青年期
11	成人期
12	高齢期 1
13	高齢期 2
14	高齢期 3
15	まとめ

評価

毎回のリアクションペーパー30点、期末筆記試験70点で評価を行う。60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】指定テキストの次回該当箇所を熟読しておくこと。

【事後学修】授業内容をよく復習し，理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・大坪治彦・岡本祐子 『よくわかる発達心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』 ミネルヴァ書房

【推薦書】内田伸子編「よくわかる乳幼児心理学」ミネルヴァ書房

伊藤亜矢子編「エピソードでつかむ児童心理学」ミネルヴァ書房

白井利明編「よくわかる青年心理学」ミネルヴァ書房

大川一郎他編「エピソードでつかむ老年心理学」ミネルヴァ書房

科目名	エアロビック運動（水泳・水中運動）		
担当教員名	池川 繁樹、飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

健康運動実践指導者の資格を習得するために必要な、エアロビック運動について理論を学び、実際に実技を通して習得する。

エアロビック運動における水泳・水中運動に必要な基本知識を学習し、技術を習得する。また水とからだの衛生環境から、水泳をおこなう環境、救急法などの安全対策について習得する。

内容

- 1．オリエンテーション
- 2．水とからだの衛生および環境について
- 3．エアロビック運動（水泳・水中運動）の基本
- 4．エアロビック運動の実際1（水中運動での抵抗感）
- 5．エアロビック運動の実際2（水中運動での心拍数と運動強度）
- 6．エアロビック運動の実際3（水中運動での運動・動作）
- 7．エアロビック運動の実際4（水中運動での運動プログラムの作成）
- 8．エアロビック運動の実際5（水中運動での運動プログラムの実施）
- 9．エアロビック運動の実際6（水中運動での呼吸法および身体各部位の動作）
- 10．エアロビック運動の実際7（水中運動での各種泳法）
- 11．エアロビック運動の実際3（水中運動でのエネルギー消費、運動強度の理解）
- 12．救急法などの安全対策
- 13．実技試験（4分間の運動プログラムの実践）
- 14．実技試験（4分間の運動プログラムの実践）
- 15．筆記試験

実技は学外のプールでおこなう

評価

通常の授業態度60%、実技及び筆記試験40%

三分の二以上の出席で評価を受けることができる

授業外学習

【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか資料等を予め読んでおく（45分）。

【事後学修】授業時に学んだことを思い出し、資料やメモにもう一度見直す（45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	エアロビック運動（エアロビックダンス）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：健康運動実践指導者の資格を取得するために必要な、エアロビック運動について実技を通して習得する。

科目の概要：エアロビック運動におけるエアロビックダンスに必要な基本知識を学習し、技術を習得する。また、運動を行う時の服装から環境条件、および運動実施上の留意点について習得する。

学修目標：単に技術習得だけでなく、自分自身も運動のよるこびを知り、楽しんで動くことを人に伝えられるようにする。

内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 エアロビックダンスに必要な基本知識1（服装、環境条件、運動実施上の留意点）
- 第3回 エアロビックダンスに必要な基本知識2（特性と効果）
- 第4回 エアロビックダンスに必要な基本知識3（運動動作と運動強度）
- 第5回 エアロビックダンスに必要な基本知識4（音楽の特徴と指導方法）
- 第6回 エアロビックダンスの実際1（一連の運動動作の実習）
- 第7回 エアロビックダンスの実際2（一連の運動動作の実習と運動上の留意点の習得）
- 第8回 エアロビックダンスの実際3（運動プログラムの作成）
- 第9回 エアロビックダンスの実際4（運動プログラムの作成）
- 第11回 エアロビックダンスの実際5（運動プログラムの実施）
- 第12回 エアロビックダンスの実際6（運動上の留意点に注意した運動プログラムの実施）
- 第13回 実技試験（4分間での運動プログラムの実施）
- 第14回 実技試験（4分間での運動プログラムの実施）
- 第15回 まとめ

全体の人数やレベル、進度などの状況により柔軟に対応する場合もある。

評価

平常点：60%（授業に対する意欲・関心・態度等。時間厳守。20分以上の遅刻は欠席）

試験（実技）：40%

忘れものは減点とする。

以上を総合し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	エアロビック運動 (ジョギング・ウォーキング)		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

健康運動実践指導者の資格を習得するために必要な、エアロビック運動について理論を学び、実際に実技を通して習得する。

エアロビック運動におけるジョギング・ウォーキングに必要な基本知識を学習し、技術を習得する。また、シューズの選択方法から水分摂取方法および実施上の留意点について習得する。

内容

- 1 . オリエンテーション
- 2 . ジョギング・ウォーキングの実施における留意点 (シューズ選択方法・水分摂取方法など)
- 3 . エアロビック運動 (ジョギング・ウォーキング) の基本
- 4 . エアロビック運動の実際 1 (心拍数を考慮した相違する速度によるジョギング)
- 5 . エアロビック運動の実際 2 (生体反応の特性、エネルギー消費を考慮したジョギング)
- 6 . エアロビック運動の実際 3 (個人差・速度を考慮したウォーキング)
- 7 . エアロビック運動の実際 4 (ウォーキングの基本姿勢)
- 8 . エアロビック運動の実際 5 (心拍数を考慮した相違する速度によるウォーキング)
- 9 . エアロビック運動の実際 6 (5 種類の速度でのウォーキング)
- 10 . エアロビック運動の実際 7 (ジョギング・ウォーキングでの安全に関する留意点)
- 11 . エアロビック運動の実際 8 (ジョギング・ウォーキングでの運動プログラムの作成)
- 12 . エアロビック運動の実際 9 (ジョギング・ウォーキングでの運動プログラムの実施)
- 13 . 実技試験 (4 分間の運動プログラムの実践)
- 14 . 実技試験 (4 分間の運動プログラムの実践)
- 15 . まとめ

評価

通常の授業態度 60%、実技及び筆記試験 40%とし、総合評価 60%以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】各種運動方法について調査する
- 【事後学修】各種運動方法についてまとめる

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	健康運動指導実習		
担当教員名	池川 繁樹、徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	健康運動実践指導者		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

健康運動指導実習ではヒトが運動をおこなったときの生理学的応答をどのように測定評価するのかについて学びます。呼吸・循環系については酸素摂取量と心拍数を、身体組成については形態計測と皮脂厚測定を中心にこれらの測定法を学習します。さらに体力測定法（新体力測定）について測定法と評価法を習得します。

内容

1. [講義] 体力測定方法について
2. [講義] 体力測定評価法について
3. [実習] 呼吸代謝測定法
4. [実習] 有酸素性作業能力の測定法および評価法
5. [実習] 無酸素性作業能力の測定法および評価法
6. [実習] 運動量(活動量)評価
7. [実習] 形態計測・皮下脂肪厚測定
8. [実習] 身体組成測定 1
9. [実習] 心拍数測定 1
10. [実習] 心拍数と酸素摂取量
11. [実習] 体力測定法（新体力測定 1）
12. [実習] 体力測定法（新体力測定 2）
13. [実習] 体力測定法（その他の体力測定法）
14. [実習] 体力測定法とその評価法
15. まとめ

評価

平常点 60%、レポート点 40%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】どのような内容のことを学ぶのか教科書を予め読んでおく（45分）。
- 【事後学修】講義時に学んだことを思い出し、教科書やメモにもう一度見直す（45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定

科目名	安全・救急法演習		
担当教員名	松本 晃裕、福田 平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-食物栄養学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	健康運動実践指導者/第一種衛生管理者		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

健康運動実践指導者になるための心肺蘇生法、AEDの使用法、応急処置法、さらにメディカルチェックなどについて講義とともに、実際に演習形式で学ぶ科目です。

科目の概要

心肺蘇生法、AEDの使用法、出血・骨折・火傷・熱中症などに対する応急処置法、さらにメディカルチェックなどについて、具体的に学び、実際に人体模型などにも触れて演習します。

学修目標(=到達目標)

心肺蘇生法、AEDの使用、出血・骨折・火傷・熱中症などに対する応急処置法が、緊急時にも自ら行えるようになることを目標とします。またスポーツ現場において熱中症の発生を防いだり、メディカルチェックを受けることにより、スポーツ中の突然死を防いだりすることができますが、そうしたことが実践できるようになることを目標とします。

内容

1	スポーツ中の突然死
2	熱中症と対応・処置
3	気管支喘息、過換気症候群、運動誘発アナフィラキシーなどの内科的急性障害と対応・処置
4	貧血、オーバートレーニング症候群などの内科的慢性障害と対応・処置
5	運動中止の判定
6	メディカルチェック(1)
7	メディカルチェック(2)
8	救急蘇生法とは
9	気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫
10	AEDとは
11	AEDの使用法
12	出血時、創傷・骨折と対応・処置
13	火傷・窒息時と対応・処置
14	脳卒中など意識消失と対応・処置
15	まとめ

評価

レポートと授業態度を合わせた平常点(30点)、試験(70点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】は授業で説明したことや課題などを学修すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】（健康運動実践指導者カリキュラム受講者は）健康運動実践指導者養成用テキスト

授業内で配布するプリントにて学修すること

科目名	インダストリアルハイジーン論		
担当教員名	對木 博一、田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：国家資格である第一種衛生管理者の資格を所得するための科目である。

科目の概要：インダストリアルハイジーン論、では、働く職場における健康に及ぼす可能性のある化学的因子、物理的因子および心理的因子等を取り上げ、それらの物質や因子による職業性疾病や予防について概説する。インダストリアルハイジーン論では、労働衛生5管理のうち、労働衛生管理対策、作業環境管理と作業管理を中心に修得する。

学修目標：履修して、就職活動に活かせるレベルを目標とする。

内容

1	衛生管理者とは
2	労働衛生の現状
3	衛生管理体制
4	作業環境要素の概念
5	一般作業環境 (温熱環境、空気環境、視環境)
6	一般作業環境 (音環境、作業空間、作業負担、有害作業環境)
7	職業性疾病 (化学物質 1)
8	職業性疾病 (化学物質 2)
9	職業性疾病 (有害エネルギー)
10	職業性疾病 (有害生物、その他)
11	作業環境管理 (作業環境測定)
12	作業環境管理 (環境改善)
13	作業環境管理 (事務所環境管理)
14	作業管理 (化学物質)
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のレポート20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を用いて事前に予習をする。

【事後学修】ノートを整理して復習する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】中央労働災害防止協会編 『新衛生管理』上 第1種用 中央労働災害防止協会

科目名	インダストリアルハイジーン論		
担当教員名	田中 茂、對木 博一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：国家資格である第一種衛生管理者の資格を所得するための科目である。

科目の概要：インダストリアルハイジーン論、では、働く職場における健康に及ぼす可能性のある化学的因子、物理的因子および心理的因子等を取り上げ、それらの物質や因子による職業性疾病や予防について概説する。インダストリアルハイジーン論では、労働衛生5管理のうち、作業管理、健康管理、労働衛生教育を中心に修得する。

学修目標：履修して、就職活動に活かせるレベルを目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	作業管理
3	作業管理
4	健康管理
5	健康管理
6	健康管理
7	健康管理
8	健康づくりと衛生管理者
9	職場のメンタルヘルス
10	快適職場づくり
11	労働衛生教育
12	労働生理
13	労働生理
14	衛生管理の具体的進め方
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のレポート20%、筆記試験7割(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を読んでくる。

【事後学修】ノートを整理して復習する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】中央労働災害防止協会編 『新衛生管理』上 第1種用 中央労働災害防止協会

科目名	衛生行政		
担当教員名	根岸 幸夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	第一種衛生管理者		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

第一種衛生管理者の資格取得のために必要な科目である。

科目の概要

職場においては、労働者保護のための法律として、労働基準法、労働安全衛生法等が定められている。そのうち、労働者の健康の確保、快適な職場環境の形成の促進等を定めた労働衛生の具体的な規定を学び、第1種衛生管理者としての必要な知識を身につける。

学修目標（＝到達目標）

職場において健康に有害な要因にはどのようなことがあるか、その有害な要因により健康を損なうことを防止するための法律にはどのような規定が設けられているかを習得し、職場において労働衛生管理を適正に行うことができるようにする。

内容

1	労働基準法第1章～第3章 総則関係 労働契約関係 賃金関係
2	労働基準法第4章 労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇関係
3	労働基準法第5章～第7章 安全及び衛生関係 年少者関係 妊産婦等関係 技能者の養成関係
4	労働基準法第8章～第9章 災害補償関係 就業規則関係
5	労働基準法第10章～第14章 寄宿舍関係 監督機関関係 雑則関係 罰則関係 附則関係
6	労働安全衛生法第1章～第2章 総則関係 労働災害防止計画関係
7	労働安全衛生法第3章（1）～（4） 安全衛生管理体制関係（衛生管理者、産業医等）
8	労働安全衛生法第3章（5）～（12） 安全衛生管理体制関係（作業主任者、衛生委員会）
9	労働安全衛生法第4章 労働者の危険又は健康障害を防止するための措置関係
10	労働安全衛生法第5章 機械等並びに危険物及び有害物に関する規制
11	労働安全衛生法第6章～第7章（1）～（4） 労働者の就業に当たっての措置関係等
12	労働安全衛生法第7章（5） 健康の保持増進関係（健康診断）
13	労働安全衛生法第7章（6）～（11）～第12章 健康の保持増進関係等
14	衛生管理者規程、労働安全衛生規則第3編
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書で予習してくる。

【事後学修】配布資料を含めて復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中央労働災害防止協会編 衛生管理（上）及び（下）（第1種用） 中央労働災害防止協会

【推薦書】

【参考図書】

科目名	衛生行政		
担当教員名	根岸 幸夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	第一種衛生管理者		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

第一種衛生管理者の資格取得のために必要な科目である。

科目の概要

職場においては、労働者保護のための法律として、労働基準法、労働安全衛生法等が定められている。そのうち、労働者の健康の確保、快適な職場環境の形成の促進等を定めた労働衛生の具体的な規定を学び、第1種衛生管理者としての必要な知識を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

職場において健康に有害な要因にはどのようなことがあるか、その有害な要因により健康を損なうことを防止するための法律にはどのような規定が設けられているかを習得し、職場において労働衛生管理を適正に行うことができるようにする。

内容	
1	有機溶剤中毒予防規則
2	鉛中毒予防規則 四アルキル鉛中毒予防規則
3	特定化学物質障害予防規則
4	高気圧作業安全衛生規則
5	電離放射線障害防止規則 除染業務等に係る電離放射線障害防止規則
6	酸素欠乏症等防止規則
7	粉じん障害防止規則
8	石綿障害予防規則 事務所衛生基準規則
9	機械等検定規則等 じん肺法及び同法施行規則 作業環境測定法ほか
10	労働衛生関係届出・申請等 特殊健康診断等
11	労働安全衛生マネジメントシステム
12	事業場における労働者の健康保持増進のための指針 快適職場指針
13	過重労働による健康障害防止のための総合対策
14	労働者の心の健康の保持増進のための指針
15	まとめ

評価

授業への参加度 30%、筆記試験 70%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書で予習してくる。

【事後学修】配布資料を含めて復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中央労働災害防止協会編 衛生管理（上）及び（下）（第1種用） 中央労働災害防止協会

【推薦書】

【参考図書】中央労働災害防止協会編 労働衛生のしおり平成27年度（平成27年8月発行予定） 中央労働災害防止協会

科目名	卒業研究		
担当教員名	志村 二三夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗崎 純一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	長澤 伸江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	池川 繁樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	小林 三智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	松本 晃裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 節子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	木村 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐々木 菜穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	4	ク ラ ス	ORクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	0Sクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。 。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	0Tクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年		ク ラ ス	0Uクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験など実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	小林 三智子、金高 有里、栗崎 純一、井手 隆 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 食物栄養学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、食物栄養学科専門教育科目 (B) に配置され、3年・4年連続履修の選択科目である。

科目の概要

テーマの設定からはじまり、そのテーマをどのように展開するかを計画し、その計画に基づいて最終的には、2年間 (3年次・4年次) の研究成果を卒業論文としてまとめる。

学修目標 (= 到達目標)

課題探求能力を高めるとともに、研究室に所属する事によりコミュニケーション能力など、社会で役立つ人間性を形成する。

内容

指導教員と相談しながらテーマの設定や方法を決める。方法は各研究室指導教員によって異なり、文献などを調査してそのなかに含まれる内容、データなどを分析し、その現状や問題点についてまとめる、実際に調査を行い、その結果を分析し、まとめる。また、動物実験、化学実験等の実験を行って結果を得、その結果をまとめるなどいろいろ考えられる。卒業研究は、履修登録前に各指導教員によるガイダンスが設けられる。各教員に相談することをすすめる。

評価

指導教員が論文作成の過程などを考慮し、作成した論文に基づいて総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業時に説明します。

【事後学修】授業時に説明します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示します。

【推薦書】

【参考図書】